

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料

## 絹地区



2024年3月

小山市

# 田園環境都市おやまビジョン 基礎資料 | 絹地区

## 目次

I 調査の趣旨と調査概要 ……	1
1 目的	
2 本調査の「風土性調査」としての性格付け	
3 地域での各種調査	
4 調査報告 ……	2
5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成	
II 踏査および文献調査による報告 ……	3
1 絹地区の概況	
2 地域の自然について ……	4
3 地域の自然への人の働きかけについて ……	9
4 地域と人々の心身の結びつき ……	23
5 景観から読みとれるその他のこと ……	30
III 簡易社会調査による報告 ……	34
1 目的と実施概要	
2 結果整理の手法について	
3 各調査の結果報告 ……	36
3-1 グループインタビューの記録	
3-2 アンケート調査結果（概要と考察） ……	74
参考・引用文献 ……	92

# I 調査の趣旨と調査概要

## 1 目的

小山市では、生態系の頂点に立つコウノトリが定着・繁殖するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」を擁する、都市環境と田園環境が調和したまちとして、小山市の現在の環境を将来にわたり維持向上させていくため、これからのまちづくりを「田園環境都市おやま」と呼び、SDGs の実践と一体化したまちづくりに取り組もうとしている。

本調査は、上記背景を踏まえて、踏査（現地調査）、地域の聞き取り調査、文献調査を実施して基礎資料を作成し、小山市における持続可能な社会実現に向けた「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取組みの深化を図るものである。

## 2 本調査の「風土性調査」としての性格付け

本調査は、地域の風土性（風土の性質、成り立ち）に着目して行った。「気候風土」から「企業風土」まで、人々になじみのある風土は、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけてかたちづくられる（詳細はII章を参照）。

こうした風土の調査は、地域に暮らす市民とともに地域の自然と人間の関係のこれまでを知ることにつながる。そして、そこから地域の持続可能なあり方を考えてゆくことが可能となる。また、ある専門分野の中で行われる地域研究とは違い、調べる対象は自然から社会、文化まで幅広く、それ

ら風土の要素を分析し、要素間の関係を調べた結果を総合・統合することで風土の成り立ちが読み解けてゆくため、地域の実像を浮かび上がらせることに結びつき得る。

このように、持続可能なまちづくりに市民と行政が共同で取り組む際に依って立つ基盤と考えられる風土性調査として、本調査は実施することとした。

## 3 地域での各種調査

令和5年11月15日から令和6年2月14日までを調査期間として、踏査（現地調査）、簡易社会調査2種（聞き取り調査、アンケート調査）、文献調査を組み合わせて行った。以下に、概要を示す。

### 3-1 踏査

絹地区及びその周辺で踏査を行い、後述する文献調査を適宜組み合わせ、調査地区の地理や動植物の生態、地域の歴史や民俗に関する情報を収集し、地理的条件が土地利用、都市環境・田園環境それぞれの市街地・集落の構成にどのように生かされ、建築物や土木構造物の形態等にどう影響しているのか調査した。また、これらと地域の人々の生活や生業との関係性や、どのように地域の産業や文化等を生みだし発展させ、現在の風土形成にいたっているかについて調査を行った。

踏査は、必要に応じて市担当者と業務受託者が共同で実施した。

## I 調査の趣旨と調査概要

### 3-2 簡易社会調査1 — 地域の聞き取り調査

当該地区の将来のまちづくりに資するキーパーソンを対象に、グループインタビューとして聞き取り調査を行った。

体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取組みの深化を図るための基礎資料として、本報告書を作成した。

### 3-3 簡易社会調査2 — アンケート調査

現地調査と聞き取り調査をもとに、調査地区在住の市民が知る情報等をさらに少しでも多く集めることと、「田園環境都市おやま」の具現化に向けた取組みの周知を目的として、地域の現状や課題それらに対する意見等を尋ねるアンケート調査を行った。

### 3-4 文献調査

各調査に必要な情報収集のため、当該地区に関連する各種文献について調査を行った。なお、市は業務受託者へ市史や調査対象地区に関する資料を貸与もした。

## 4 調査報告

風土性調査の結果を調査地区在住の市民に伝える報告発表を下記日程、会場において行った。

- ・ 日程 令和6年2月15日(木) 18:00-19:30
- ・ 会場 小山市絹公民館

## 5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成

上記4で行った報告と当日の質疑応答の結果を踏まえて、「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主

## II 踏査および文献調査による報告

### 1 絹地区の概況

#### 絹地区の位置、面積、人口と沿革

絹地区は、明治 22 年（1889）の町村制施行にあたり田川村、延島村、延島新田、高椅村、福良村、中島村、中河原村、梁村の八ヶ村が合併した絹村をもととする。地区の面積 17.28km<sup>2</sup> は市の面積の約 10.1%、人口 4,354 人は市の人口の約 2.6%を占める。（令和 2 年 10 月 1 日現在。「令和 5 年 3 月 小山市の概要」より）。古来交通の要衝に当たる小山市の中でも、中島、福良に鬼怒川の河岸と渡船場があり、結城より多功街道（日光東街道）、上三川街道が通された絹地区は、鬼怒川や隣り合う結城と関係して結城紬の生産地域の一角を占めるなど地勢や交通が伝統産業の確立に結びつく独特な歴史をたどってきた。

今日の絹地区は、旧村に由来する 8 の大字名を擁しながら、北から延島、福良、梁の大きく 3 地区に分かれる。このうち、工業団地（延島、梁）が市街化区域に指定されている。

#### 鬼怒川低地の繊細な土地利用

絹地区は、西部が宝木台地の上に立地するが、大半は鬼怒川低地に占められる。低地では、微高地で集落と畑が、川がかつて流れた跡である旧河道やあふれる水に運ばれた土砂が積もった氾濫平野では水田が、それぞれ営まれてきた。

微高地に集落と畑、旧河道と氾濫平野に水田をもうけてきた絹村の成立当時、鬼怒川沿いの村々ではきわめて畑が多く、北部の村でわずかに田が、中央部から西南部にかけての村々ではわずかに畑が多かった。台地には火山灰に由来する黒ボク土、低地には河川の堆積物に由来する沖積土（褐色低

地土、灰色低地土、低地水田土）が主に分布し、全体には平坦な地形ながら微細な高低差や土壌の違いに合わせてさまざまな作物が作り分けられ、キウイフルーツやいちごをはじめとして新たな作物の生産への取り組みが続けられてきている。

また、鬼怒川沿いと地区西部の桑地区との境に平地林が集中し、一定の面積が確保されて肥料や耕作に用いた牛馬の飼料その他に事欠くことがなかったという。さらに、田川を水源として幾筋かの用水が整えられていたことも合わせて、明治 26-28 年の米の三ヶ年平均反収は現小山市域を構成する 10 町村の中で最高の値を示すなど、農業生産の条件に恵まれてきた。

#### 結城紬の生産地域の一角を占めること

絹地区が隣り合う結城では古来絹糸を採って織り物が行われてきた。鬼怒川沿岸の土が養蚕に向き、川そのものは人と貨物の通運に使われたことが関係し、この条件は絹地区にも共通した。

鬼怒川沿岸の結城や絹地区ではクワ科のカジノキやコウゾがよく育ち、そこへクワの栽培を要する養蚕技術が持ち込まれた。絹織物、結城紬はその副業に始まり、茹でた繭をほぐして作る真綿から絹糸を手紡ぎし、5 世紀頃から日本で使われてきた地機で織る伝統的製造工程を継承し、昭和 31 年（1956）に国の重要文化財指定、平成 22 年（2010）にユネスコ無形文化遺産に登録を受けている。

ただし、結城紬の生産量は昭和 55 年（1980）以降減少し、令和 4 年（2022）に栃木県内で唯一のクワ苗の専業生産農家が廃業した。しかし、明治 21 年（1888）の記録によれば、農業と結城紬の生産の展開から今日的に持続可能な地域産業群と評価できる多種の職業が絹地区で成立し、この点も地区の将来構想の参考とすべきと考えられる。

## 2 地域の自然について

### 本調査における風土の定義

風土とは、  
地域の自然に  
人間が暮らしと生業を通して  
働きかけてかたちづくられる、  
人々が生きる環境のことをいいます。

藪田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁  
アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

図1 風土の定義

実際に地域を見て歩く踏査と、地域について書かれた書籍や論文に学ぶ文献調査を組み合わせて、地域の風土性について調査を行った。この調査は、はじめに「地域の自然について」、次に「地域の自然への人の働きかけについて」、続いてそのようにかたちづくられた「地域と人々の心身の結びつき」について、そして「景観から読みとれるその他のこと」を調べて記述する流れで実施した。

以下、その結果を市民への視覚的な説明にも用いられるようにスライドショーとして整理したものを、順に掲載する。図1には、再び風土の定義を示した。

-----  
出典 | 藪田稔編『神道』(弘文堂、1988年、総372頁)。アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』(那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁)

なお、踏査は以下の日程で実施した。

- 01月16日(火) 小山東工業団地・伝河原・西高橋・小山梁工業団地・上梁・小山東部産業団地・下梁
- 19日(金) 篠原・三夜・豆口・延島・伝河原・新川・中高橋・下高橋・上梁・西梁・下梁
- 22日(月) 舟戸・前舟戸・延島・上福良・中福良・中島・請地・休・福良橋
- 23日(火) 延島新田・上福良・中島・岸福・台・中河原



## II 踏査および文献調査による報告



図4 絹地区は、延島、福良、梁の3地区に分けられる。

-----  
出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

絹地区わがまちげんき発掘事業推進委員会編『絹地区歳時記ウォーキング』2017年



図5 鬼怒川や田川がかつて流れた旧河道とその周囲に水田、微高地に集落がつくられた。

-----  
出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

明治21年 (1888) に  
市制町村制が施行。

田川村・延島村・  
延島新田・高橋村・  
福良村・中島村・  
中河原村・梁村の  
8ヶ村が合併して  
絹村が成立。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史  
通史編 III 近現代』小山市、1987年、  
209頁  
国土地理院 | 地理院地図  
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

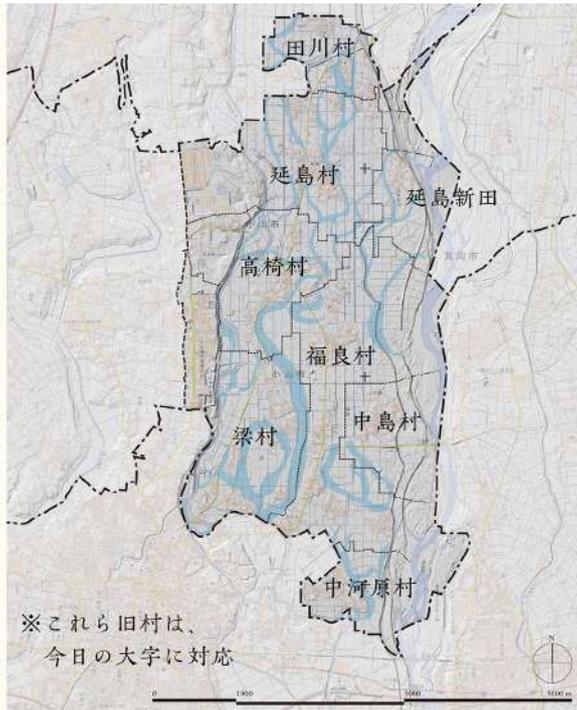


図6 絹村成立以前の8ヶ村の位置。旧河道は一部の村境に重なる。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、209頁

国土地理院が作成、  
公開する  
治水地形分類図。

ここまで見てきた  
旧河道は、  
この図の旧河道  
2種 (明瞭/不明瞭) を  
合わせたものです。

出典: 国土地理院 | 地理院地図  
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)  
同上 | 治水地形分類図について  
[https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/fe\\_index.html](https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/fe_index.html)

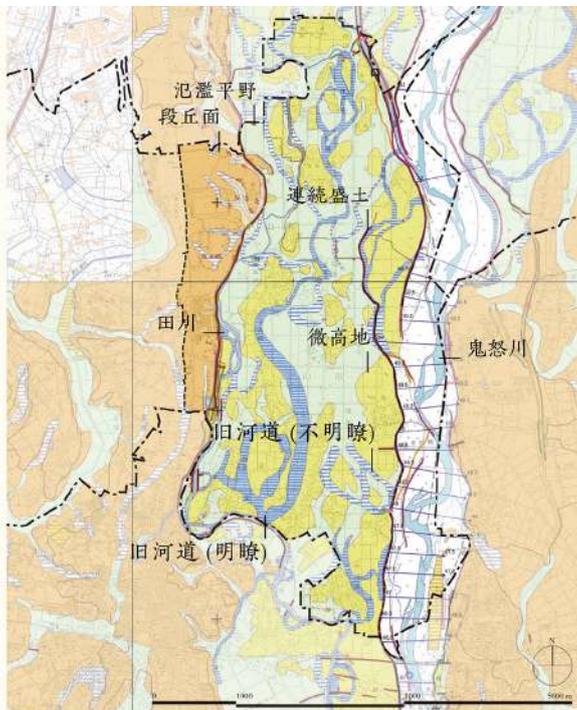
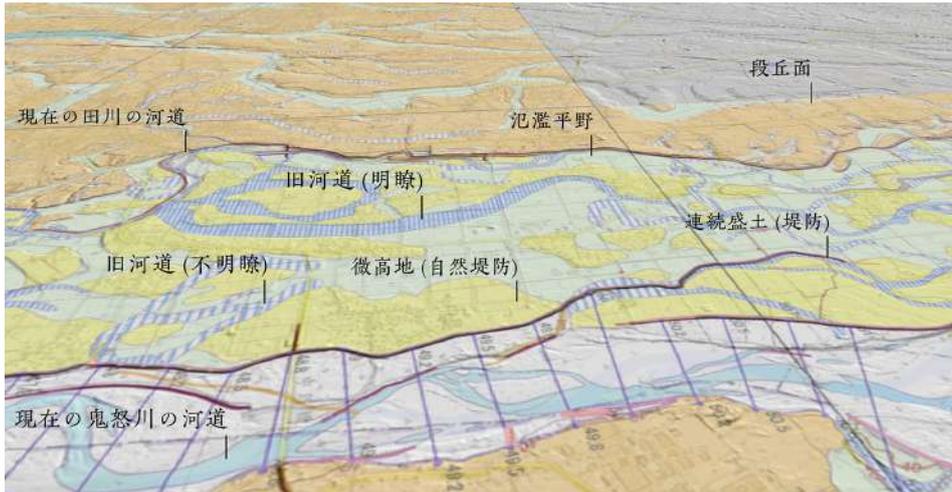


図7 治水地形分類図より。薄い赤茶が台地、黄が微高地、緑が氾濫原、青が旧河道を表す。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

## II 踏査および文献調査による報告



出典: 国土地理院 | 地理院地図 | 治水地形分類図+陰影起伏図 3D <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

治水地形分類図を立体的に見ます。現在と過去の鬼怒川の流れ(旧河道)を併せて見ると、「鬼怒川の営力によってできた」と市史に書かれるわけが...

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、10頁

図8 治水地形分類図に陰影起伏図を重ね、角度をつけて立体的に見る。

宝木台地は、約7万4千年前から約2万4千年前にかけて川が運んだ土砂がたまり、最も寒冷であった約2万年前までに海水を構成していた水分のうち大陸の上に氷河などとして残った分があったことから海面が下がり、勾配が急になって水が流れる力が強まった川に削り残されてできた。宝木台地の東西の川に削られた面は、その後も土砂が運ばれてたまり、川に削られる変化を繰り返しながら現在はそれぞれ鬼怒川低地、思川低地をかたちづくる。

鬼怒川低地では、鬼怒川や田川が河道を変えながら低地を掘り、周囲の一部に土砂をためて微高地をつくった。田川は、利根川水系鬼怒川の支流である。このことを指して、『小山市史 通史編 I』に鬼怒川低地が「鬼怒川の営力によってできた」と書かれている。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127(10)、2021年、635-648頁

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、10頁

3 地域の自然への人の働きかけについて

地域の自然への人の働きかけについて

「絹地区は、(中略)鬼怒川によって形成された  
低地帯にあって  
同地区の西部を田川が南流(後略)」。

「茨城県との県境を挟んで結城町の北部に  
接しており、結城町の市場圏に属する」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、206頁

図9 絹地区の立地環境の社会的な側面も簡単に確認する。

以下、絹地区の地理的条件が整理された『小山市史』からの上記引用箇所の前後がわかるよう、まとめて引用する。

絹地区は、小山市域の北東端、鬼怒川西岸にあり、鬼怒川によって形成された低地帯にあって同地区の西部を田川が南流している。この地区は茨城県との県境を挟んで結城町の北部に接しており、結城町の市場圏に属する。

同地区東部の県境を南流する鬼怒川には、中島河岸・福良河岸があり、それぞれに船積問屋が一軒ずつあったが、船積問屋所有の船はなかった(明治十四年『栃木県治堤要』)。また、鬼怒川には中島と福良に渡船場があり、それぞれには馬舟と小舟各一艘があった。(中略)対岸の茨城県小川村と結ぶこの福良の渡しは小田林村・犬塚村・小山宿を通り、大行寺村・榎本村を経て、佐野・足利・桐生方面へ送られる水戸浜の鮮魚荷物が通過する道でもあったが、その荷物は福良村で継ぎ立てられていた。

桑村との境を、結城から多功(現上三川町)に至る多功街道が通っているが、この道は江戸時代、諸侯の日光社参で日光道中が混雑した時に、それを避けるため粕壁より分岐して多功に至る裏街道であった(『下都賀郡誌』)。そしてその東方には、結城町から河内郡上三川村を経て宇都宮へ通ずる上三川街道が、地区内の梁村・高椅村・延島村・田川村を通っていた。また結城町から延びるもう一本の道が福良村を南北に通る、高椅村で多功街道と交じわっていた。

地域の自然への人の働きかけについて

「田畑比率は、各村によってかなりの違いが(中略)田方の比率のほうが高かった村は、高橋村・田川村で、(中略)延島新田・中河原村・中島村は、鬼怒川沿いにおいて、(中略)畑方の比率がきわめて高い畑作農村(中略)福良村・延島村・梁村は、(中略)わずかに畑が多い村であった」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、212頁

図 10 絹村成立以前の旧 8 ヶ村における田畑の構成比率を見る。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、212頁

絹村成立時の状況:

- ・ 鬼怒川沿いの村々では、きわめて畑が多い。
- ・ 北部の村々では、わずかに田が多い。
- ・ 中央部-西南部の村々では、わずかに畑が多い。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、212頁

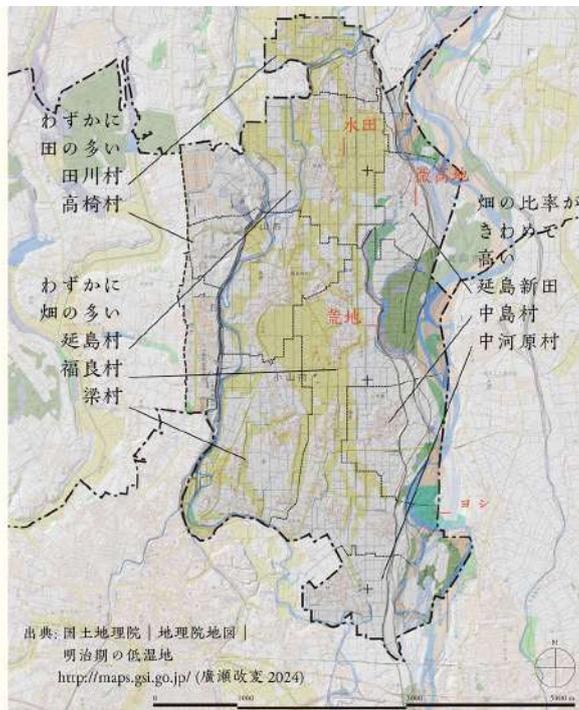
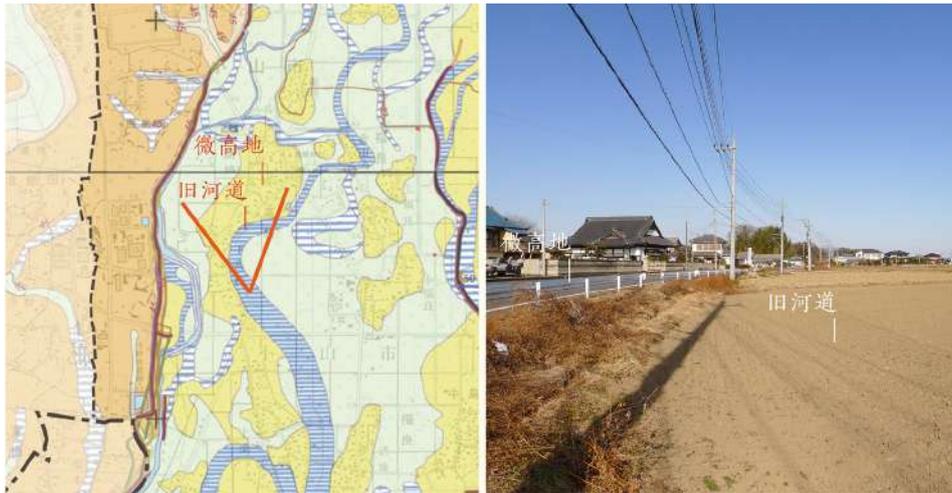


図 11 明治期の水田(黄に着色)を示した図を見ながら旧 8 ヶ村の田畑の比率を確認する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、212頁

## II 踏査および文献調査による報告



出典：国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024) 旧河道に沿って湾曲した栃木県道35号。下高橋。2024/01/19

「高橋・梁付近の集落の分布している地域は水田面から1-1.5 m上位にあり (後略)」。  
写真は、左の地図に赤く記した箇所を写したものの。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、10頁

図12 栃木県道・茨城県道35号宇都宮結城線に沿う旧河道上から見る微高地 (下高橋)。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、10頁



出典：国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024) 水田 (旧河道、氾濫平野上) と集落 (微高地)。中河原。2021/09/15

「集落の分布している微高地と、水田面をなしている旧河道と」。市史から再度引用します。  
畑作は、基本的に微高地で行われました。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、10頁

図13 水田がつくられた旧河道の周囲の氾濫原から中河原集落が立地する微高地を見る。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、10頁

II 踏査および文献調査による報告



延島。2021/09/15

延島新田。2021/09/15

「絹地区の各村々は、(中略)平地林があったが、それらは鬼怒川沿いに散在していたか、または西部の桑地区との境に集中していた」。  
 「平地林も一定の面積が確保され、肥料や稾、真木※・薪の供給源にはことかくことがなかった。」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、212頁 原簿記載資料となる本村(※マ、※ノ等)を指す

図 14 台地斜面、屋敷林、社寺林、河畔林などとして各所に平地林が残る。

思川西部の田園部では、肥料林として台地上の平地林を確保した例があった点との違いに注目する。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、212頁



享保10年 (1725) 完成の吉田用水。2021/09/15

延島神社北東部。2024/01/17

上福良北側。2024/1/22。すべて延島で撮影

「さらに、田川から引入れている数筋の用水によって給水されていた。こうしたことから、農業生産の条件は、市域内でもっともよい地区であった」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、212-213頁

図 15 明治 22 年 (1889) からの市町村制施行当初、絹村は水利の面でも恵まれていた。

-----

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、212-213頁

「明治26年から同28年までの間に、米の三か年平均反収は、絹地区が一石五斗八升で、思川以西の水田地域よりも多く市域内でもっとも農業生産力が高かった地区であった」。右の表をご覧ください。

村名	反当たり収量
豊田	1.17石
穂積	1.12石
中	1.19石
寒川	1.06石
生井	1.18石
桑	1.08石
小山	1.08石
大谷	0.83石
間々田	1.38石
絹	1.58石

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、212-213頁

明治26-28年反当たり平均収量  
 ※1反=300坪=約1000m<sup>2</sup>=約10a、1石=10斗=100升=150kg  
 出典：『小山市史 史料編・近現代II』

図16 絹地区の明治26-28年反当たり平均収量は、現市域で最も高かった。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、212-213頁

### 地域の自然への人の働きかけについて

「芋(里芋)の生産量は甘藷(薩摩芋)の生産量よりもはるかに多く」、このことは地区全体に当てはまりました。

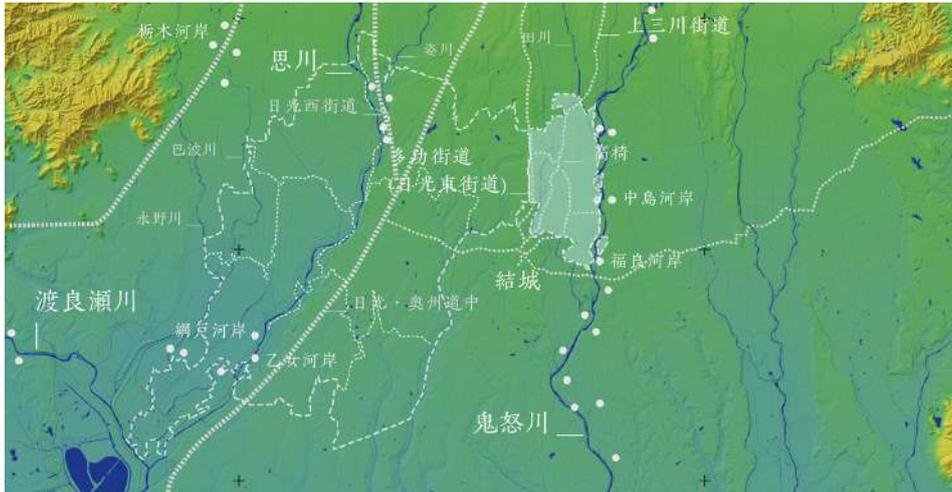
「(前略)米や麦、大小豆、粟・稗・蕎麦などの主穀・雑穀のほか、(中略)蘿蔔(大根)や蔬菜類(冬葱・牛蒡・人参)などの自給用の野菜のほかに商品作物である菜種・葉煙草・藍葉なども」。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、214-215頁

図17 明治9年(1876)の福良、中島、梁、中河原村の物産に関する記録より。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、214-215頁

## II 踏査および文献調査による報告



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

近世には、中島、福良に河岸と渡船場が。また、結城から多功街道、上三川街道が通され、高橋で上三川街道と福良を抜けるもう一本の道が交差。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、206-207頁

図 18 近世の絹地区は、河川と街道を介した交通・物流の拠点としての性格も有した。

-----  
出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、206-207頁



鬼怒川。中島橋から下流側、結城方面を望む。中島。2021/10/06

「河は、人と貨物の通運にも利用された。河よっての交流が文化の発展に寄与していることも忘れてはならない。紬の生産も販路もまず舟運によって発展してきたのである。」

出典: 石島滴水『紬の里結城』筑波書林、1983年、4-5頁

図 19 結城紬の発展には、鬼怒川の舟運が関係した。

-----  
出典 | 石島滴水『紬の里結城』筑波書林、1983年、4-5頁

## II 踏査および文献調査による報告



写真左: 結城紬に使う繭(上繭一条への適合品)。CC BY-SA 4.0 ヌバロはワーマー (2017/11/15) <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=64680336>  
写真右: 結城紬に使う絹糸を紡ぐ。CC BY-SA 4.0 ヌバロはワーマー (2017/11/15) <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=64680334>

「悠々と流れる鬼怒川の沿岸は、古くから『かじ、こうぞ』の雑木林を育成する土壌に富んでいた。後に養蚕の技術が導入され、沿岸に大桑園が(中略)蚕から繭に、そして絹糸を採り、織り物が発展」

出典: 石島滴水『繭の里結城』筑波書林、1983年、2-3頁

図 20 クワ科のカジノキやコウゾがよく育つ絹地区にクワ栽培を含む養蚕が伝えられた。

茹でた繭をほぐした真綿から絹糸を手紡ぎし地機で織る結城紬の伝統的製造工程が引き継がれてきた。

出典 | 石島滴水『繭の里結城』筑波書林、1983年、2-3頁

### 地域の自然への人の働きかけについて

「結城地方の養蚕業は古く、『日本紀』に<sup>にほんぎ</sup>雄略天皇十六年(472)秋七月『桑に宜しき国県に詔して桑を栽ゑしめたり』とあり(後略)」。

出典: 石島滴水『繭の里結城』筑波書林、1983年、25頁

「元禄期に隆盛を誇った結城本場も、享保年間(1716-35)から衰退しはじめた。繰り返される洪水がその原因であったといわれるが、いつの洪水によるかは諸説があつて(後略)」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、220頁

図 21 結城地方の養蚕業は、5世紀には行われていたという記録がある。

-----  
出典 | 石島前掲書、25頁。小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、220頁

地域の自然への人の働きかけについて

「当然、日本国内での蚕種の生産は発展し、生産地域も広がっていたが、栃木県の場合、幕末から明治初年において蚕種業はまだ（中略）栃木県が蚕種業の基盤である桑畑を本格的に開発しはじめる時期は明治四年（1871）の廃藩置県後（中略）日光県下の鬼怒川流域に一大蚕種業地を形成すべきことが力説（後略）」。

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、222-223頁

図 22 享保年間から蚕業が衰退したが、栃木県は明治時代初期に蚕種製造業の振興を図る。

-----  
出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、222-223頁



図 23 栃木県の蚕種製造業振興計画着手2年後、明治6年（1873）に桑園開発が始まる。

-----  
出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、232頁

### 地域の自然への人の働きかけについて

「幕末から明治初年にかけて生糸とともに  
隆盛を誇った蚕種の輸出も、  
欧州の蚕種対策が整うころから  
有力な販売市場を失うこと」になります。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、236頁

「(前略) 雑多な蚕品種を、(中略) 優良な水準にまで  
高めて統一し、生産生糸の高級化をめざす」  
蚕種統一運動も、市場確保の一環として開始。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、585頁。同運動は明治40年代初頭から

図 24 需要減に対応し、明治7年(1874)から輸出货量調節のため蚕種が廃棄されるように。

-----  
出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、236、585頁

### 地域の自然への人の働きかけについて

その背景には、明治40年(1907)の生糸恐慌が。  
「米國財界悪化に基く需要の減退」、  
「人絹(人造絹糸)の進出」、  
中国から米国への生糸の輸出展開などが原因に。

出典: 安彦孝次郎「日本経済における生糸恐慌」『商學論集』4(1)、福島高等商業學校經濟研究會、1933年、365-394頁

「産地の生産のピークは大正10年の53437反で、  
昭和55年に31288反を生産した以降は年々減産し  
平成5年に10000反を切る。その後も減産を重ね」

出典: 奥澤武治「世界で稀な絹織物『本場結城紬』」『日本シルク学会誌』29、2021年、5-11頁

図 25 第一次世界大戦終結後、大正9年(1920)の蚕糸恐慌以降、結城紬も減産を重ねた。

-----  
出典 | 安彦孝次郎「日本経済における生糸恐慌」『商學論集』4(1)、福島高等商業學校經濟研究會、1933年、365-394頁  
奥澤武治「世界で稀な絹織物『本場結城紬』」『日本シルク学会誌』29、2021年、5-11頁

## II 踏査および文献調査による報告



以下の記事に「東島田の畑でテスト栽培中の桑の苗」とある圃場か。東島田。2023/10/11

「県内で唯一、蚕の餌となる桑の苗を専業で生産していた農家がこの春廃業し、市内の関係者は今後も苗を入手して養蚕を続けられるよう奔走」。

出典:「県内唯一の栽培農家廃業... 養蚕存続に桑苗確保へ 小山」2022/11/07 下野新聞 <https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/653756?relatedbody> (2024-02-13参照)

図 26 JA おやまは、2022 年廃業の農家に桑地区で試験栽培を依頼。継承への努力が続く。

-----  
出典 | 「県内唯一の栽培農家廃業... 養蚕存続に桑苗確保へ 小山」2022/11/07 下野新聞  
<https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/653756?relatedbody> (2024-02-13 参照)



社会福祉法人パステルは、運営する知的障害者支援施設の西側にクワを約1400植樹すると共に養蚕施設を設置。出井。2023/10/28

「JAおやまは、廃業した養蚕農家に苗のテスト栽培を依頼 (前スライド)。桑を使い事業展開する社会福祉法人も、栽培技術の習得を模索する」。

出典:「県内唯一の栽培農家廃業... 養蚕存続に桑苗確保へ 小山」2022/11/07 下野新聞 <https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/653756?relatedbody> (2024-02-13参照)

図 27 社会福祉法人パステルは、桑園と養蚕施設を設置して技術習得を進めている。

-----  
出典 | 「県内唯一の栽培農家廃業... 養蚕存続に桑苗確保へ 小山」2022/11/07 下野新聞  
<https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/653756?relatedbody> (2024-02-13 参照)

地域の自然への人の働きかけについて

「絹地区の土は、主に沖積土。桑園にも向いた。  
ただし、田川の近くでは粘土質で  
沖積土と違う (黒ボク土までいかないが)」

「苺栽培も盛ん。1戸当たりの生産面積は、  
おそらく栃木県で一番」。

出典: 絹地区グループインタビュー (農業従事者の方々) 記録 (2023/12/08)、  
「『田園環境都市おやま』ビジョン 絹地区風土性調査 アンケート・グループインタビュー概要報告」2024年、4頁

図 28 土壌の分布と栽培作物との関係について、絹地区で農業に携わる方々に聞く。

出典 | 本資料 III 簡易社会調査による報告 3-1 絹地区グループインタビューの記録 3 農業従事者の方々、54、55 頁



図 29 聞き取りに基づいて台地上、旧河道、微高地の土壌を現地で確認した。

出典 | 同上、54 頁

II 踏査および文献調査による報告



図 30 絹地区におけるイチゴ施設栽培の例。

-----

出典 | 同上、55頁

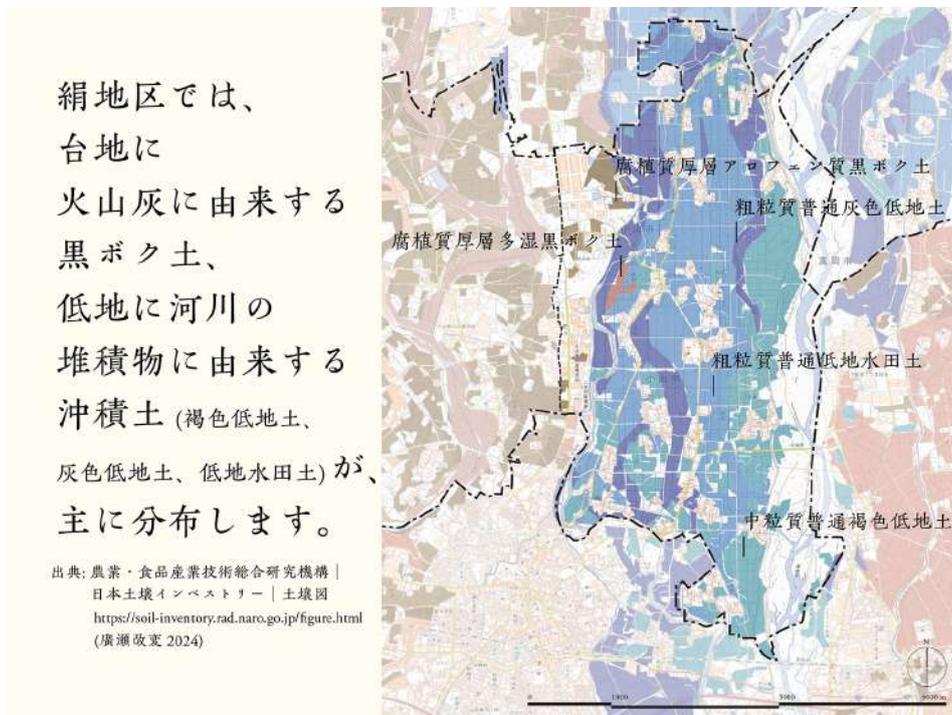


図 31 絹地区における土壌の分布状況。

-----

出典 | 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー | 土壌図  
<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/figure.html> (廣瀬改変 2024)



図 32 イチゴが栽培される地点を土壌図の上に記す。

今回調査したイチゴ栽培地点は、主に微高地上の中粒質普通褐色低地土の分布地に位置した。  
出典 | 農業・食品産業技術総合研究機構前掲図



図 33 旧河道と灰色低地土の分布の重なりを見る。おおむね範囲が合致する。

出典 | 農業・食品産業技術総合研究機構前掲図

## II 踏査および文献調査による報告



キウイ圃場 (写真左手)。前舟戸。2024/01/22

灰色低地土の分布域 (土壌図) でのキウイの栽培では、  
土壌の保水性を生かしつつ排水性の確保が  
図られていると考えられます。地形の微かな  
高低差や土壌の違いに細やかに対応した農業が...

出典: 『「田園環境都市おやま」のまちづくり 絹地区 風土性調査 アンケート・ジャーナルインタビュー調査報告』2024年、4頁

図 34 地形の発達に由来する微かな高低差や土壌の違いが、農地景観にあらわれている。

参照 | 本資料 III 簡易社会調査による報告 3-1 絹地区グループインタビューの記録 3 農業従事者の方々、54 頁

以下、土壌の違いのとりえ方に関して参考となる説明文を引用する。

土壌を少しミクロな視点で解剖すると、無機・有機成分からなる土粒子が土壌の骨格を形成し、土粒子と土粒子とのすき間（孔隙または間隙と呼ぶ）に水と空気を含んでいる、つまり、土壌は固相（土）と液相（水）と気相（空気）の三相により構成されている。林木の生育に水は不可欠で、土壌中の孔隙に適度な水を保持できる上が好ましい。土壌中の孔隙に含まれる水（土壌水）には養分が溶け込んでいるので、養分供給といった観点からも水の動きを左右する孔隙は重要である。孔隙のうち水に占有されていない空間では 空気が移動し、大気—土壌間のガス交換が行われている。こうしたガス交換は根や土壌微生物による呼吸を円滑に行うのに欠かせない。

典型的な砂や粘土を考えると、一般に砂は透水性は良いが、保水性は低く、粘土は保水性は高いが、透水性は低い、という傾向がある。これらに対する森林土壌の大きな特徴の 1 つとして、透水性、保水性ともに良好であることがあげられる。これは、森林土壌が大小様々な大きさの孔隙をもつためである。

なお、図 34 にある「排水性」は、上記引用文中にある「透水性」に対応する。

出典 | 篠宮佳樹「樹木医学の基礎講座 土壌講座 2: 保水性と通気性」『樹木医学研究』15 (2)、樹木医学会、2011 年、64-67 頁

4 地域と人々の心身の結びつき

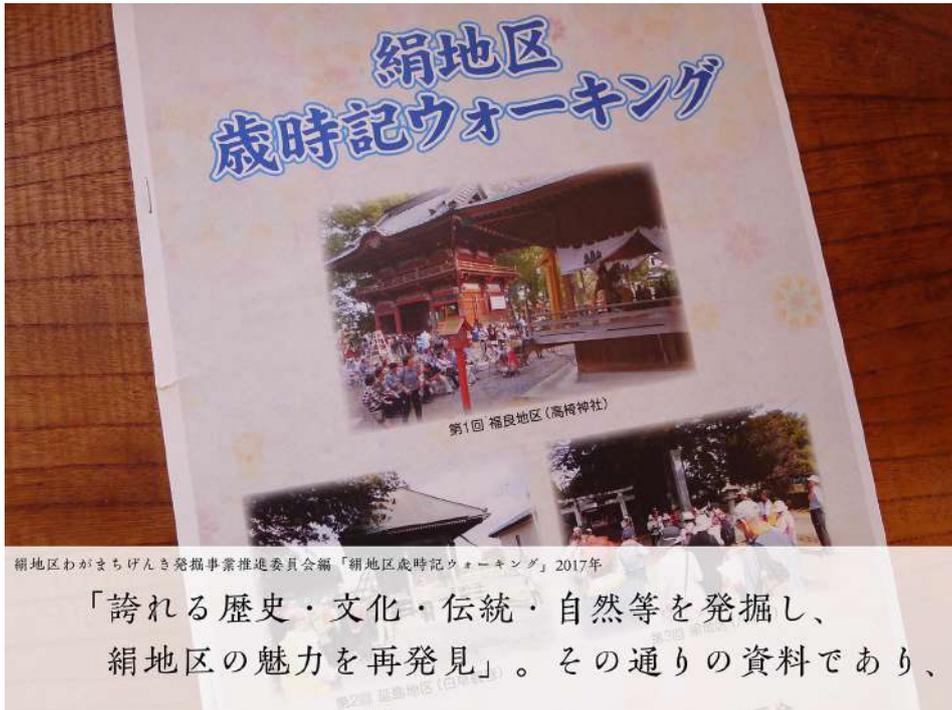


図 35 「絹地区歳時記」(2013年)をもとに開催されたウォーキング大会の記録誌。

出典 | 絹地区わがまちげんき発掘事業推進委員会編「絹地区歳時記ウォーキング」2017年



それぞれの集落で、  
寺社や碑が大切にされていると感じました。

図 36 「絹地区歳時記ウォーキング」に詳しく紹介される寺社を巡る。

参照 | 絹地区わがまちげんき発掘事業推進委員会編「絹地区歳時記ウォーキング」2017年

## II 踏査および文献調査による報告



高栴神社。高栴。2024/01/19



大杉神社。上福良。2024/01/22



福城寺・神明宮。中福良。2024/01/22



稲荷神社。中島。2024/01/22

しめ縄や紙垂(しで)も、代替品ではなく  
天然の材料を用いたものが用いられています。

図 37 しめ縄をなうには、材料とする稲わらの確保と技術の継承が欠かせない。

参照 | 絹地区わがまちげんき発掘事業推進委員会編「絹地区歳時記ウォーキング」2017年



八幡宮。上梁。2024/01/19



天満宮。休(やすみ)。2024/01/22



香取神社。下梁。2024/01/19



神明宮。中河原。2024/01/23

しめ縄には、縄のない方いくつかの種類が  
あるように見受けられました。

図 38 しめ縄のない方は、図 37 の例と合わせてさまざま見られた。

縄自体、用途が梱包から建築まで幅広く、農業の副産物として再生産される重要な用具と考えられる。  
参照 | 絹地区わがまちげんき発掘事業推進委員会編「絹地区歳時記ウォーキング」2017年

## 地域と人々の心身の結びつき

「結城紬は1956年(昭和31年)に日本の絹織物として『糸つむぎ・<sup>かすり</sup>拵くくり・<sup>じばた</sup>地機織り』が国の重要文化財に指定され、2010年には(平成22年)には世界の絹織物として結城紬の製作工程がユネスコ無形文化遺産に」。

出典: 奥澤武治「世界で稀な絹織物『結城紬』」『日本シルク学会誌』29、2021年、5-11頁

図 39 地機は、5世紀頃から日本で使われてきた。その技術も引き継がれる。

-----  
出典 | 奥澤武治「世界で稀な絹織物『結城紬』」『日本シルク学会誌』29、2021年、5-11頁

## 地域と人々の心身の結びつき

「特に<sup>じばた</sup>機織が<sup>たかばた/たかはた</sup>地機→高機→動力を使った足踏織機→動力織機→自動織機へと変遷し、そうすると当然その織機に合った織りやすく、効率の良い糸が使われる」。

「<sup>たていと</sup>経糸が切れては困るため(中略)紡績糸を使う(中略)<sup>よこいと</sup>緯糸にだけ真綿からつむいだ紬糸や機械で作った真綿糸を使い、紬風に織り上げる」

出典: 奥澤武治「世界で稀な絹織物『結城紬』」『日本シルク学会誌』29、2021年、5-11頁

図 40 紬と「紬風」の織物の違いについて書かれた説明文を引用する。

-----  
出典 | 奥澤武治「世界で稀な絹織物『結城紬』」『日本シルク学会誌』29、2021年、5-11頁



写真左: 結城紬の地機 (いざり機) CC BY-SA 3.0 Morayka (2007年5月) <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=56997298>  
写真右: 結城紬亀甲柄 (投稿者私物) CC BY-SA 3.0 Morayka (2007年5月) <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=133209379>

「機業地帯では生産技術が発展すると (中略) 高能率の生産手段が普及するが (中略) 伝統的な製法を保持」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、607頁

図 41 結城紬の生産においては伝統的製造工程が継承され、このことが稀有であるという。

-----  
出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、607頁

## 地域と人々の心身の結びつき

「無形文化財遺産の保護に関する条約」より

### 第2条 定義

1 「無形文化遺産」とは、  
慣習、描写、表現、知識及び技術並びに  
それらに関連する器具、物品、加工品及び  
文化的空間であって (後略)

出典: 外務省「無形文化遺産の保護に関する条約」和文テキスト (訳文)、2003年  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159\\_5.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159_5.html) (2024-02-14 参照)

図 42 結城紬が登録されたユネスコ無形文化遺産の保護の目的を確認する。

-----  
出典 | 外務省「無形文化遺産の保護に関する条約」和文テキスト (訳文)、2003年  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159\\_5.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159_5.html) (2024-02-14 参照)

地域と人々の心身の結びつき

この無形文化遺産は、  
世代から世代へと伝承され、  
社会及び集団が  
自己の環境、自然との相互作用及び  
歴史に対応して絶えず再現し、(中略)  
文化の多様性及び人類の創造性に対する  
尊重を助長するものである。

出典: 外務省「無形文化遺産の保護に関する条約」和文テキスト(訳文)、2003年  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159\\_5.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159_5.html) (2024-02-14 参照)

図 43 「無形文化遺産の保護に関する条約」第 2 条(定義)を続けて引用する。

-----  
出典 | 外務省「無形文化遺産の保護に関する条約」和文テキスト(訳文)、2003年

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159\\_5.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159_5.html) (2024-02-14 参照)

地域と人々の心身の結びつき

「社会及び集団が自己の環境、自然との  
相互作用及び歴史に対応して絶えず再現し」

無形文化遺産は、自然、歴史に関係します。  
その保護の手段としては、  
「記録の作成」「保存」と共に  
「研究」を含むとあります。

出典: 外務省「無形文化遺産の保護に関する条約」和文テキスト(訳文)、2003年  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159\\_5.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159_5.html) (2024-02-14 参照)

図 44 無形文化遺産は、自然、歴史に基づく人類の創造性の発揮を継続して支え得る。

-----  
出典 | 外務省「無形文化遺産の保護に関する条約」和文テキスト(訳文)、2003年

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159\\_5.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159_5.html) (2024-02-14 参照)

II 踏査および文献調査による報告



神明宮の境内社とされた蚕影(こかけ)神社。「中河原養蚕組」が奉納した銘板が掛けられる。中河原。2024/01/23

結城紬の製作工程を構成する要素には、  
 蚕、蚕が食べるクワ、クワが育つ沖積土、  
 沖積土をもたらず川、糸を紡ぎ紬を織る道具の材、  
 人々の信仰とそれに使う写真の板のようなもの…。

出典：『田園環境都市おやま』のまちづくり 絹地区 風土性調査 アンケート・グループインタビュー概要報告」2024年、4頁

図 45 結城紬の製作工程と、それが基づく自然、歴史と人々の関係を考える。

出典 | 『『田園環境都市おやま』ビジョン 絹地区風土性調査 アンケート・グループインタビュー概要報告』2024年、4頁

村名	紺屋	下駄	屋根葺	大工	木挽	桶屋	鑄掛	綿打	畳し	建具や	理髪	黒鍛	摺白	附木	箆
延島	03		01	02	01		01	01			01	02			
田川	02										02	01	01		
福良	02		02	02		01		04			02	04			
梁	01			03	01			02	01			01			
中河原	01		01	02				01		01					
中島	01		01	04		02		01				01			
高橋		01	04	01	01	01					02	02	01	02	01
新田												01			
堂橋(桑)			02	01											04
東山田(〃)					02										
北飯田(〃)												01			

絹地区各村の諸職人(明治21年/1888年)。出典:小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、208-209頁

「大工・屋根葺などが各村々に(中略)綿打(中略)紺屋や  
 箆職(中略)同地区で養蚕・蚕種業、結城紬(中略)の  
 生産が展開したことにより、社会的分業が  
 思川以西の水田地域の村々より進んでいた(後略)」

図 46 絹地区各村の諸職人(明治21年/1888年)についてまとめた表を引用する。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、208-209頁

## 地域と人々の心身の結びつき

「結城機業は歴史的伝統とそれが保有する  
独特の技術を集積して、農家の内部に1つ1つの  
工場をもつ農村工業地帯を形成している」。

「品種の多様性と精巧緻密を生命とするので、  
独特の生産形態をとって機械化せず、  
いつまでも歴史的停滞をつづけて  
特殊織物を生産し需要に応じている」。

出典: 川崎 敏「結城機業の農村工業地帯」『人文地理』12(5)、1960年、393-412, 469頁

図 47 引用した論文は、昭和 35 年（1960）に発表されている。

同年に比べて需要は大きく減るが、結城紬が地域経済の持続に貢献する可能性がここから読みとれる。  
出典 | 川崎 敏「結城機業の農村工業地帯」『人文地理』12(5)、1960年、393-412, 469頁



社会福祉法人パステルが管理する桑園から発生したクワの剪定枝。出井。2023/10/28

無形文化遺産を中心に地域の自然と生きる知と技を  
守り継ぎ、危機に備え合う当条約の趣旨は、  
絹地区の過去の事実と未来の可能性に適っては...?  
桑枝から作る和紙、マルチング材なども地域循環共生圏構築の一環に

出典: 絹地区グループインタビュー（養蚕関係者の方々）記録（2023/11/29）

図 48 社会福祉法人パステルが管理する桑園から発生したクワの剪定枝。

地域の物質循環に組み込むことで地域経済は持続可能に。結城紬は、その軸の一つになり得ないか。  
出典 | 絹地区グループインタビュー（養蚕関係者の方々）記録（2023/11/29）

5 景観から読みとれるその他のこと



向田橋、主要地方道146号へ続く市道で撮影した連続写真より。下梁。2024/01/19

「南北方向には県道が3本あるが、東西方向には市道のみ。市道の中では、大型車の交通量が最大。国道50号のバイパスのように使われてしまう」。踏査中、各路線でこうした状況を確認しました。

出典：絹地区グループインタビュー（自治会リーダーの方々）記録（2023/12/13）

図 49 写真左の撮影直後、大型車が目の前を横切ったのでシャッターを押した（写真右）。

-----  
出典 | 絹地区グループインタビュー（自治会リーダーの方々）記録（2023/12/13）



主要地方道146号を背に、向田橋の側から前スライドに載せた市道を見る。西梁。2024/01/16

主要地方道146号に通じる市道を、向田橋側から…。中央には、惜しまれつつ閉店したコンビニエンスストアが写ります。

図 50 上の図 39 と同じ主要地方道 146 号に通じる市道を、結城市との市境を背にして見る。

-----  
参照 | 『『田園環境都市おやま』ビジョン 絹地区風土性調査 アンケート・グループインタビュー概要報告』2024年、4頁

## II 踏査および文献調査による報告



広域交通のための道路と生活道路が区分できれば、  
すでにある歩行者空間がより生きるでしょう。

図 51 公共空間と公共空間、社寺境内が結ばれ、生活道路につながる絹地区の歩行者空間。

生活道路が、公園と公民館外構、農産物直売所と遊歩道・河川・史跡、公民館や消防施設が集約された広小路のような空間形態を持つ神社境内、神社と公共施設に囲まれた辻などと集落内で密に連絡する。



微高地に居を構えるだけでなく、敷地の周囲に  
堤と生垣を巡らせる家や、笹を垣にして万が一  
水害に遭った際に水の流速を落とし、土砂を漉し、  
地表を保護しようとする家が見受けられます。

参照: 大熊 孝「水害防備林の再興に関する一考察」『土木史研究』17、土木学会、1997年、135-147頁

図 52 河川氾濫時の減災を目的とした設えが、個人宅に見られる。

出典 | 大熊 孝「水害防備林の再興に関する一考察」『土木史研究』17、土木学会、1997年、135-147頁

II 踏査および文献調査による報告



写真左: タゲリ。前舟戸。2024/01/22。写真右: 出典: Alpsdake (2013/01/01) CC BY-SA 3.0 <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=23665690>

踏査では、モンゴルとの渡りが確認されているシギ・チドリ類の冬鳥、タゲリを観察しました。「湿田または浅く湛水された水田では、(中略) タゲリ(中略) 等の水鳥類がドジョウや貧毛類等の (後略)」

出典: 直樹・熊田那央・田和康太「鳥類の生息地としての水田生態系とその保全」『応用生態工学』24(1)、応用生態工学会、2021年、127-138頁

図 53 越冬に訪れるタゲリの他にも、絹地区を渡りルートに含む鳥類はいよう。

出典 | 片山直樹・熊田那央・田和康太「鳥類の生息地としての水田生態系とその保全」『応用生態工学』24(1)、応用生態工学会、2021年、127-138頁



薬師堂。請地(うけじ)。2024/01/22

薬師観音堂。中河原。2024/01/23

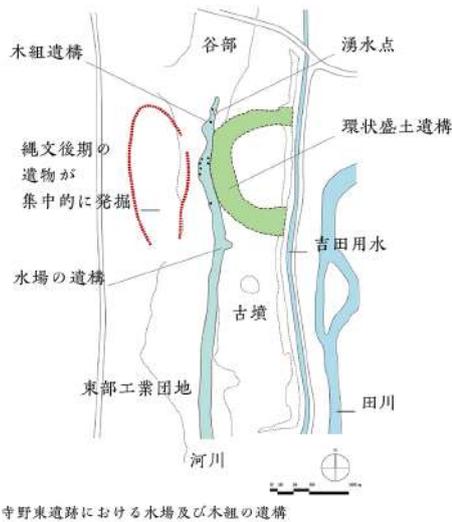
「古い時代の薬師堂は村の診療所であったのです」  
今日では「年寄りが病院も行けない」どの意見が。

出典: 嘉納恵一郎『心のふるさと』小山市、1991年、88頁。「『田園環境都市おやま』のまちづくり 絹地区 風土性調査 アンケート・グループインタビュー 概要報告」2024年、2頁

図 54 各集落に薬師堂が建つことを踏まえて、今日の保健医療の問題を考える。

出典 | 嘉納恵一郎『心のふるさと』小山市、1991年、88頁。「『田園環境都市おやま』のまちづくり 絹地区 風土性調査 参照 | 本資料 III 簡易社会調査による報告 3-1 絹地区グループインタビューの記録 4 自治会のリーダーの方々、66頁

## II 踏査および文献調査による報告



守野東遺跡における水場及び木組の遺構

環状盛土遺構(守野東遺跡)。築。2021/09/16

寺野東遺跡に、台地に湧く水を木の実のアク抜きに  
用いた (ゆるやかな流れが適していた) 水場の遺構が。

旧石器時代、3万2千年以上前の遺物、縄文-平安各期の集落跡が発掘される

出典: 末次忠司「縄文遺跡と河川—遺跡で見る河川考古学」『水利科学』43(1)、一般社団法人日本治山治水協会、1999年、41-59頁(廣瀬改変 2022)

図 55 寺野東遺跡の遺構の分布と水場の用途を振り返る。

上記の説明の参考とした論文の部分を、以下に引用する。

(前略) 遺構では自然の河川を南北約 200m、幅約 10m にわたって改修し、水場に関連した様々な施設が作られていた。(中略) 水がゆっくり流れる川か、よどんだ湿地であったと推測される。(中略) 湧水点から流れ出た水を集落内の営み、生業などに活用した湧水利用遺構であると考えられる。この水場遺構は縄文後期から晩期にわたるもので、木組遺構の中や周囲からトチの実などの種や皮が見つかったことなどから、周辺で豊富に実ったトチ、ナラ類、カシ類などの木の実のアク抜きをしていたと考えられる。発掘された河川遺構は大きく分けて、以下の 3 種類に大別できる。A タイプは約 3,200-2,500 年前、C タイプは約 4,000 年前の遺構であったと推測されている。

A タイプ: 木を組んだ施設 14 基発見

B タイプ: 河川自体を掘削、整地した施設

C タイプ: 河川斜面を掘削して、谷の流水を利用した施設

発掘された遺構のほとんどが A タイプに属するものであった。(中略) 構成材の多くはクリ材である。(中略) 隙間には裏ごめ状に土器や礫を挿入していることが確認されている。遺跡はムラの中央に浅い谷があり、ムラのまわりは森となっていた。森には食料となる木の実をたくさんとることができ、ムラ人は木の実を加工して食料とするための作業場を小川の脇に作っていた。

遺構をめぐる技術体系は、周囲の再生産可能な自然物や廃材(土器)、自然の動力(静かな水流)を用いたものといえ、結城紬の製作工程と構成要素にも通じて「持続可能な経済」的と考えられる。

出典 | 末次忠司「縄文遺跡と河川—遺跡で見る河川考古学」『水利科学』43(1)、一般社団法人日本治山治水協会、1999年、41-59頁(廣瀬改変 2022)

## Ⅲ 簡易社会調査による報告

### 1 目的と実施概要

#### 1-1 目的について

絹地区で暮らす人々の生活や意識をできる限り実情に近いところで把握すること。特に、過去と現在の生業や生活の様子、地域をどのように認識しているか、絹地区で暮らしながら、大切に守っていききたい地域の宝や、逆に解消したい困りごとなどについて、どのような考えを抱いているかなどについての把握を試みる。また、それらの関係性を読み解くことで、絹地区および小山市域全体での田園環境都市おやまビジョンの手がかりを得ることを目的とする。

#### 1-2 実施概要について

令和5年11月から令和6年1月にかけて、下記の2種類の簡易社会調査を行った。

- ①座談会形式のグループインタビュー
- ②自治会加入全世帯を対象としたアンケート  
自治会への説明や広報周知は下記の通り。
  - ・9月28日：自治会長会議の後に時間をいただき説明会を実施（絹公民館にて）
  - ・広報おやま11月号の回覧時に：田園環境都市推進課より「風土性調査に入る」ことの説明と周知

#### 1-3 座談会形式のグループインタビューについて

##### (1) 特に考慮したこと

アンケート調査では、本調査で立てた目的達成のためには、設問や提示する選択肢が、住民が「日

頃考えていること」「伝えたいこと」「語りたいこと」に沿っているかどうかが重要になる。そこでグループインタビューを先行して行い、そこで語られたことをもとに、アンケートの質問における選択肢を設定することを基本としている。スケジュール的に一部のインタビューがアンケート作成には反映されない場合もあり、自治会長を対象とした説明会において、地区での困りごとや大切に守りたいものなどについてご意見を聞かせていただいた。

絹地区においては、自治会役員の方々より、「これまでのアンケート用紙の使用はA3サイズよりA4に変更した方が答えやすい」と言うご指摘などもいただき、絹地区での調査から改善した。

##### (2) 実施時期と対象者について

次の4つのグループで実施した。

- ①養蚕・絹織物関係の方々：11月29日  
栃木県本場結城紬織物協同組合から2名、織元の方1名（女性）、養蚕家1名、元養蚕家1名の合計5名に参加いただいた。
- ②子育て世代の方々：12月4日  
絹地区こども会育成会連絡協議会より、小学生・中学生・高校生のお子さんがある家庭から女性5名・男性1名、合計6名に参加いただいた。
- ③農業従事者の方々：12月8日  
小山市農業委員会から4名、農業従事者の方4名、合計8名に参加いただいた。
- ④自治会のリーダーの方々：12月13日  
絹自治会連合会から3名、絹地区まちづくり推進協議会から2名、元わがまち発掘事業推進委員会から2名、合計7名に参加いただいた。

##### (3) 全ての聞き取りにおいて、共通の質問内容

- ①自己紹介として～絹地区とのご縁、仕事や地域

での活動、生活圏について

- ②地区の昔と今。変わったこと変わらないこと
- ③地区で暮らすなかで感じる、解消したい困り事
- ④地区の大切に守り、未来につなぎたいもの
- ⑤都市部と田園部は、これからどんな関係を築いていくと良いか等、これからの小山市のまちづくりへの意見

以上に加えて、それぞれのグループの特性に即した質問(子どもたちの帰宅後や休日の過ごし方、農業の今と昔、など)を加えて聞き取りを行った。

#### (1) アンケート調査(紙の調査票)

絹公民館、絹地区自治会にご協力をいただき、紙の質問票によるアンケートを下記のような方法とスケジュールで実施した。

広報周知

- ・9月28日:自治会長の皆様への説明会で、スケジュールの相談。ご意見をいただき決定。
- ・広報おやま12月号の広報回覧時に、アンケート調査実施のお知らせを回覧

配布

- ・11月24日:ワンタッチ封筒に質問票と依頼書を入れ、自治会(および班)ごとに仕分けしたものを絹公民館に納品
- ・広報回覧とともに、各戸に配布していただく

回収

- ・12月19日までに各戸から班長へ提出
- ・12月22日までに班長は自治会長へ提出
- ・12月27日までに自治会長は公民館へ提出

#### (2) インターネット回答

紙の調査票でのアンケートと並行して、グーグルフォームを利用したインターネットでの調査も行った。

告知については、絹地区在住者のみの回答とするために、ウェブやSNSなどで不特定多数に向けた案内はせず、自治会の回覧及び、調査

票とともに封入する依頼書にQRコードとともに「2人目以降からの回答について各世帯におきまして、紙のアンケートにご回答された方以外にもご協力いただける方は、右のQRコードよりスマートフォンやパソコンからもご回答いただけます」と記載した。

#### (3) 回答数/回答率について

- ・紙の調査票による回答:948  
調査票での回収率:70.0%
- ・インターネット回答:21
- ・合計969件の回答

## 2 結果整理の手法について

グループインタビューにおいては、下記の3種の記録を作成し、③を本報告書に掲載している。

- ①書き起こしデータの作成
- ②個人情報を残した形で、座談会の時系列に発言内容をまとめたもの
- ③個人情報を抜き、発言内容を、時系列ではなく、いくつかのテーマやトピックごとに編集した記録。発言内容に関連した史実や、少し曖昧な記憶に基づく参加者の話を裏付ける記録などを、脚註の形で、各種文献から転載し補足する。

アンケート調査については、単純集計と、主要な質問において属性との相関をみるクロス集計を行った。概要版を次章の調査結果に掲載し、全データは、別添資料(アンケート調査集計結果報告書)に掲載する。

グループインタビューと、アンケートの結果については、個々の検証に加えて、得られた情報の関連性などを読み解き、ビジョン策定に向けた報告会やワークショップなどの基礎資料として活用していく。

### 3 各調査の結果報告

#### 3-1 グループインタビューの記録

この章ではグループインタビューで行った聞き取りの成果を、開催順に掲載する。初めに、語られたことを概観するために各回記録の見出し一覧を掲載し、次に各調査で語られた内容を掲載する。

##### 1 | 養蚕・絹織物関係の方々

- 1 : 参加者の方々の養蚕・結城紬、地区との関わり
- 2 : 結城とのつながり
- 3 : 養蚕業の昔と今  
全盛期の状況  
桑の木の品種について
- 4 : 農業：養蚕からの転換  
現在の概況
- 5 : 結城紬の後継者育成の昔と今  
織の後継者について：昔と現在の研修制度  
栃木県本場結城紬織物協同組合
- 6 : 社会福祉法人で養蚕
- 7 : 絹義務教育学校での体験指導
- 8 : これからの絹地区  
文献や映像でなく、  
人から人へ伝えることの大切さ  
化粧品と医療での利用  
小山市の和服の日

##### 2 | 子育て世代の方々

- 1 : 参加者の方々の地区との関わり
- 2 : 子どもの頃からの絹地区の変化  
水辺の様子や生き物
- 3 : 子どもたちの遊び場

遊び場が少ないし移動も心配

- 4 : 習い事・病院がない
- 5 : 公共交通と買い物
- 6 : 自治会や育成会の行事や祭り  
どんど焼き  
ぼうじぼ  
育成会の行事
- 7 : 絹義務教育学校  
少人数の難点と良さ  
義務教育学校での養蚕体験
- 8 : 未来の絹地区に向けて  
～市街化調整区域の問題

##### 3 | 農業従事者の方々

- 1 : 参加者の生産物や地域活動について
- 2 : 絹地区の農業の歴史と現状  
結城紬あつての農業だった
- 3 : 絹地区の農業が直面している課題  
農業人口の高齢化と耕作放棄地  
非農家市民からのクレーム  
赤字前提の厳しさ  
「水田活用の直接支払交付金」の厳格化  
道路環境の整備の遅れで危険な状態に  
農耕者優先のはずの農道、通り抜けの普通車とポイ捨て問題  
絹地区での獣害や生き物
- 4 : 絹地区の農業面での良さ
- 5 : 市街化調整区域の問題  
限界集落への不安
- 6 : 30年後の絹地区・小山市

##### 4 | 自治会のリーダーの方々

- 1 : 参加者の方々と地区の関わり
- 2 : 地域の概況

福良地区・梁地区・延島地区

水害への不安

- 3：超少子高齢化が進む状況と、祭りの衰退  
子どもが減り、祭りが成立しなくなる

お囃子

ぼうじぼ

- 4：過疎化が進み、生活環境が悪くなっている状況

農業の衰退・生活インフラがない

高齢者の移動や買い物の問題

～社協の取り組み

医療・病院

- 5：市街化調整区域と道路の不備で、過疎化が進む

地域に福利をもたらす道路がない

市街化調整区域の弊害と上下水道の問題

若い人の流出～地域活動の負担

空き家への移住者が地域に馴染んでいる

例も

- 6：絹地区をどう活性化していくか  
～都市部との交流

公共施設やイベント会場を都市部に

集中させない

-----  
1 | 養蚕・絹織物関係の方々

参加者：栃木県本場結城紬織物協同組合から2名、織元の方1名（女性）、養蚕家1名、元養蚕家1名の合計5名

実施：2023年11月29日 18時～19時30分

場所：絹地区公民館  
-----

1：参加者の方々の養蚕・結城紬や  
地区との関わり

◎絹地区で生まれてずっと絹地区に住んでいます。進学ときは普通科に行って大学行きたいという希望は親に伝えていたが、祖父が「それだと家から出てしまうからダメだ」と言うので、近くの実業系の学校に進んで、終わってからはずっと紬の仕事をやっている。

迷いなく紬の道に進んだと言うわけではなく、ある意味、洗脳されたようなもの（笑）。今は、紬の栃木県の理事長になって6年目。私で4代目になる。地域では、青年団、消防団、野球の監督などをやってきた。生活圏はやっぱり近いから結城市になってしまう。

◎昨年度まで、地区のまちづくり協議会の副会長をしていたり、地区のことはある程度把握しているつもり。昭和の時代まで養蚕をやっていたが、次第に低迷してきて、何かほかの作物で農業経営をしなくてはならない、ちょうど子どもたちにお金がかかる時期で、収入を得ないといけないので。

それで、養蚕に代わって花を始めた。花を20年ぐらいやって、小山の花き園芸組合という小山市農協の管轄にある組織で20年。組織に入ると、いろいろな行動が広範囲になるが、高齢になってきて部会を抜けて、次は、地区の直売所の開設を率先してやろうと考えていたといころ、市の方でも直売所の構想があり、立ち上げた。その「絹ふれあいの郷」の運営に毎日関わ

っている。直売だけでなく、畑にさつまいもを植えるなど、都内の人たちとの交流事業としてやっていたりする。スタートしてもう17年になる。運営にかかわるメンバーも皆、高齢になってきたので、いろいろ考えたい。

◎絹地区で生まれ育て、大学とその後3年間はよそにいたが、その後に戻ってきて、消防団など地域の活動にできるだけ参加してきた。

普段の生活圏でいうと、やはり私も梁地区なものですから、生活圏はほとんど結城。買い物に行くにしても、小山市内に行くのだったら結城に行ってしまったほうが近かったりするの。

生活圏では結城になる。

◎生まれも育ちも絹地区で結城紬の仕事をずっとやっているの、その世界しか知らない。先ほどの理事長のその下の専務理事という組合の役員。地区との関わりとしてはやはり結城紬の仕事の上で小山市で紬織士という職員をうちで教育係というか、教えて11年に。

普段の生活圏もやはり皆さんと同じで結城市です。仕事が結城の間屋とかそういうのが多いし、機屋さんもみんな結城とかなので。でもうちの家内は買い物はイオンに行っちゃう。結城は行かないようです。

◎織元の家で生まれて、学生時代から一度は都会へ出ていたが、Uターンして、結局は仕事を継いでいる。生まれてずっと親の仕事を見てると、大変さばかりが目に見えて、自分のうちの仕事がいまいちよく思えなかった。織り子さんも住み込みで何人もいて。いつも忙しいし。だから一度は離れたんですが、こちらに戻ってきて、生活のために家業を継いだという感じ。今の生活範囲は結城。橋を渡れば結城。そんなところなんです。

## 2：結城とのつながり

◎絹地区は3ブロックになってて、梁（やな）、福良（ふくら）、延島（のぶしま）。

絹地区は延島という北のほうは一部小金井と下野市が近いところもあるがほとんどが結城市との関係が強い地区。高齢者に限れば、7割が結城の病院というか診療所というか、そちらに行っている。

◎小山市史には合併の歴史のところで、絹地区は桑でなくて結城と合併したい意思があり揉めた経緯もあると・・・。

◎そう言う話は祖父母から聞いたことがある。

◎今も、中島と言う地域までは、電話の市外局番は結城と同じ0296になっている。

◎私が小学校1年のときに結城の小学校に行く人と、絹の小学校に行く人と分けられると言う騒動があって、子どもながらに覚えている。

## 3：養蚕業の昔と今

### 全盛期の状況

◎養蚕は全盛が昭和40年から50年くらい。もちろん紬も。だから私どもの青年のころは、生活状況を見ると、非常に差があった。青年団であちこち地方で交歓会があって出かけていくが、そのとき、絹地区の女性の着るものと、ほかの地域の着るもの、これはもう極端に違う。紬で絹地区は潤っていたので、極端な話、女性は地元で衣類なんかを買わない。車もあまり乗れなかった時代にタクシーを呼んで駅まで行って、それから東京あたりへ買い物に行って、着ているものがブランド物。

◎今では考えられない。

◎50年じゃきかない、もっと前。だからそういう親にだまされて、後を継いじゃった。

◎外貨を稼ぐのには繭が一番いいと言われていた時代でもあった。

◎生活そのものだって、もうすごい贅沢していた。ほかに車なんて乗らない時代に、車を持って、住まいも立派に改装したり新築したりして。

◎養蚕家も天皇杯というのがあったんです。栃木はずっと質の良いものを生み出していた。全盛期は、養蚕の会議と言っても県庁の一番いいところで会議だった。普通はなかなか農家は県庁の会議とか行かない時代に、養蚕家の我々は、われわれは若いときから会議と言っても喜んで行った経験がある。それだけ養蚕というのは存在感があった。

◎うちの親父も、世界遺産の富岡製糸場の中で、昔は会議やったんだと言っている。養蚕というのはやはりそれだけ強かったというか、すごかったという、そういう時代があったということ。繭の出荷量は今も群馬県が一番多いんですよ。次が栃木で次は福島という感じ。栃木は一応2位です。

◎今もそうだが、やはり日本の繭は、海外に比べると質がとてもいい。ただ、海外から入ってくるものは安く入ってくるので、価格競争でどうしても太刀打ちできない。

◎農地の状況なども随分と変わった。堤防の向こうに畑がいっぱいあって、全盛期は、そこはもうすべて桑の木だった。今はもうがらっと見えちゃう。何もないから。

◎昔はほとんど畑はもう全部桑だった。

◎今はもう絹地区で桑畑はない状況になってしまった。

#### 桑の木の品種について

◎ところどころ道端に桑の木があったりするが、あれは野生の桑。桑は結構強いので、一回植えてしまえば、この時期になると葉っぱは全部落ちるが、また暖かくなってくるころには芽が出て、その繰り返し。桑の木は放っておくと、本当に何メートルにも大きくなる。

◎自然に生えるのは実生から発芽して木になったものだが、養蚕に使う桑は、決まった品種の桑しか植えない。収量が多い、つまり葉っぱが多い品種。

◎桑も種類が多い。

◎今は、お茶に向く品種は緑茶にしたり、そんな加工もしているが、自分がやっていた頃は2品種ぐらいしかなかった。「新一ノ瀬」と「改良一ノ瀬」。葉っぱがザラザラしたやつだった。

◎一ノ瀬は実がなる。昔われわれが子どものころ食べたような。

◎食べると、唇が真っ青になる。昔の子どもは他に食べるもの何もなかったから、それでも平気だった。

◎それを我々は「ドドメ色」っていう。食べると、唇とか舌に色がつくのですぐバレちゃう。

◎久しぶりに聞いた、ドドメ色。

◎今では、例えばララベリーという品種も実がなる。

◎それは一ノ瀬より実が大きい。ただ、食べると味はちょっと薄いです。

◎桑の木もたぶん全部ひっくるめれば、200ぐらい種類がある。

◎桑や生井や、養蚕が盛んな地区で植えていたのは、実がなる品種かどうかではなく、基本的には葉を蚕に与えるわけだから、葉が大きい品種が優先。

◎品種によって1本の枝につく葉の数が結構違ったりする。一ノ瀬などは枝が細い割に葉っぱがいっぱい付く。だから養蚕農家としては枝がそんなに重くないから作業の時に楽で使いやすい。

◎葉の大きいやつも良い。あとは、畑での桑の葉の仕立て方もある。畑に本数を数多く植える人もいれば、扇状に作る、そういう作り方もある。

◎一時、桑の収穫も機械化に一部なった時期が

あるが、あまり効果が上がらず、とにかく一番、養蚕で大変なのは桑の葉取り。私も別に自慢するわけじゃないが絹地区で一番、3トン取った時もあった。

◎だいたい繭1個が、大きくて2g、平均すると1.6から1.8グラムぐらい。それで桑の葉3トンとはすごい量。

#### 4：農業：養蚕からの転換

##### 現在の概況

◎桑畑には沖積土のほうがいい。特にこの絹地区は河川敷が多いから土力はあまりない。だから、肥料もかなり投入しないと。うちは肥料代でかなりつき込んだ。

◎今はもうその肥料代が上がっちゃって、高いですよ。桑専用の肥料というのがやはり何種類かあるが。

◎今は結局、農家の形態そのものが大きい規模で機械化している方々に自分の農地を委託をするような状況になってしまっているの、小さい農家の人はなかなか、農機具も買えないような状況になってしまっている。私らも桑畑だったところをかなり持っているんだけど、みんな今、貸してしまっている。昔は農家も人に貸したりなにかすると、小作制度というのがあって、お金が若干もらえたんだけど、今は全くそういうのはなし。ただ、耕作しなくても草を生やさなければいいやみたいな感じで、あまり肥沃な土地ではないから。今見ると、麦を作ったりしている。

◎麦の冬作。あとはこの地区もだいふ、いちごとネギを結構やってる人が増えてきた。

◎絹は野菜作りはあまりいない。やっているとすればネギ。今年は温度が高かったので、ネギなどもあまりよくなかったけどね。水分不足で。かつては桑の木なども、田んぼに植えたときもある。

◎休耕田に。国策で米の増産も終わって米は停滞してきてしまって、それに代わってというような形で、養蚕家の人は田んぼに桑を植えなさいというような方針も出て、植えなさいというか、自主的にやった方もいたが。それも。一時やったこともあるんだけど桑の場合は木になっちゃうから、あとが大変。もう変えられないから。

◎今はいちごが、後継者などもだいぶいて、絹のいちごは品質も結構評判がいい。

#### 5：結城紬の後継者育成の昔と今

##### 織の後継者について：昔と現在の研修制度

◎機織りをやる人はほとんどが女性。機織り機に乗って（織り機に座っていて）なんぼの世界。反物まで織りあげないとお金にならないということなので。だから下りちゃうと全然、稼がないということになってしまう。昔はよく、機屋さんは男の人がお勝手仕事をやっていると聞いたこともある。

◎織りもやるのが細かい。工程が結構あって。人が取った糸を扱うから、結局全てがいい糸ばかりじゃないし、それをなんとか機織れる状態にするまでの工程がそれなりにいろいろある。

◎親たちも年中、肩凝った肩凝ったと口癖のように言ってた。

◎織りの手法などについても、その家その家でいろいろやり方があって。今はセンターというのがあるが、昔から、みんな親のを見てやってきたわけだから、それぞれで、何が正しいってわけではないと思う。最後に製品になったものが良ければそれで全てよしということで。

◎その工程が、細かい工程がいっぱいあるので本当に面倒。大変な仕事。あれを結局1反分織るということ自体、細かい糸でずっと13メートルぐらいかな。最後まで柄をつけて、一本一本織

っていくということ、見ているだけでとても大変だなとわかるはず。個人差もあると思うんですけど。

◎昔は、住み込みで修行が基本で、うちは、織るだけで、2年で大体一人前。住み込んで食事も全部一緒に。織るまでの工程がまた大変だが、一人で自宅へ持ち帰っても、ある程度何かあってもなんとか織りこなせるというまになるのに、うちは住み込んで2年はかけていた。

◎トラブルあっても自分で処理できないと。織元から行かなくてはならなくなってしまうので。それだと大変だから、トラブルを自分で片付けられるようになるのは、やはりそれぐらいかかってしまいます。

◎今は個々人の織元の家に住み込みで修業するのではなく、県の支援センターで習って、その修了生を織元が受け入れる流れです。

◎県では、最低6人とってくれとは言っている。申し込みはあるみたいだが、毎年面接すると、話を聞いてやめたいという人もいるし。なかなか難しいです。

#### 栃木県本場結城紬織物協同組合

◎協同組合という組織があって、品質を保証するための検査も行っている。そこの理事長をしていますが、これは栃木県が作っている組合で小山市以外に南河内とか下野市に織元さんがいる。15軒くらい。組合を抜けても織りを続けている人もいるので、正確な数が把握できない面もある。

◎基本は組合員が織元、その下に織り子さんたちが何人かいる。

◎織元という形ではなく一人でやっている人もいる。

◎織り子さんを抱えているところを基本的にわれわれは織元と言っていたので。

◎結城市だと、栃木県全体の倍くらいはある。

◎後継者の話で言えば、織元の家内で子ども

が継ぐ例もなくはない。多くはないが、織をやっている娘さんの夫が、勤めながら始めているという話を聞いたことがあるが、その後、続いているかどうかは把握していない。

◎高校なり学校が終わって、すぐに修業したいという例はほとんどなくて、社会人になってからという方がほとんどだと思う。

#### 6：社会福祉法人で養蚕

◎仕事は桑地区にある社会福祉法人に勤めている。障害者の方、主に知的障害者の方たちにお仕事をしていただいて、お給料を払う。その中の仕事の中の一部で、9年前から始めて、養蚕をやっている。養蚕は、飼育の数はそんなに多くないがど、なるべく質のいいものを取れるようにということで、障害者の方と日々、努力をしている。

元々教員だった、うちの法人の理事長が桑中で教員をしていて、そのときにやはり結城紬にとっても興味を持ち、生徒さんなどと一緒に中河原とか自転車などでぐるぐる回っていたそうだ。昔に比べるとやはり桑畑も少なくもなって、養蚕自体が衰退してしまっているところもあり、それで調べてみたら養蚕農家がもうほとんどない状況で。もしかしたら障害を持った方でも養蚕できるのか、と、始めた。うちのほうで始めれば、後継者問題は解消はされる。職員から職員に引き継いでいけばいい話なので。

昔は、家庭で養蚕をやって、それで結城紬も家庭の中でという感じで、ご家族みんなで行っていたのもあったのですが、やはり今、養蚕も高齢化で後継者がいないところが一番の課題で、そこはうちの社会福祉法人でやればとりあえずクリアできる。このままでいくと小山の養蚕がなくなってしまう。それはちょっと寂しいなど。

◎せっかく桑地区という名前もあって、絹地区

という名前もあって。そこから南に下がれば結城というシルクロードもできているので、小山の養蚕もなくなってしまうのはちょっと寂しい。われわれもそういう形で社会に、ある種の貢献。そんなところもできないかなと始めたのがきっかけの取り組み。

◎やっていることは養蚕農家と一緒に、稚蚕を預かって、大きくして、繭にして出荷する。桑の葉とかも自前で準備する。敷地に桑畑があるので。養蚕は本当に仕事が豊富なので、分業制もできるし、一貫してやることもできる。基本は年に4回の飼育。昔の本当にピークの頃は年に6回、7回も飼って回していた人もいたそう。

◎虫なので、嫌いな人は嫌いなので。仕事とはいえそういう人にやれというのはちょっとできないので。虫大丈夫な人だけが携わる。好きな人は可愛いねなんて言ってくれるが、嫌いな人は飼育しているところにも入ってこれないぐらいの方もいる。

◎養蚕家そのものがもう数人しかいないですから。小山市だけでなく国分寺のほうまで。

(風景社より質問：現地調査で桑地区を歩いた時に、その法人の施設を通りかかった時に、桑の枝がきれいに摘んであった。この利用は?)

◎これは、やはり蚕が小さいときは枝ごと葉を与えるわけに行かない。枝の重さで蚕が死んじゃうので。なので、このときは葉っぱだけ。枝を切って、蚕の上に葉っぱだけザカザカとつけて、その残りの枝です。これは使い道として何かあるかなと思っても特にないので、今はもうこれを機械チップにかけて、チップにして、畑にまいてしまっている。

◎別の施設では、この桑の枝を使って和紙づくりをやっている。ある程度できてはいる。それが将来的には小山市の卒業証書とか、そういうのに使ってもらえるといいと考えてもいる。

◎昔は、みんな幹や枝を剥いた。葉をとった桑の余ったやつ。子どもたちに剥かせる。だから結局、和紙にしていたと思う。

(風景社：和紙の原料になるカジノキとかヒメコウゾは桑の仲間。いわれてみればそうですね)

◎あれはずいぶん子どもらは剥きました。特に春産の太い枝のとき。子どもに剥かせて。昔は子どもらの小遣いぐらい与えていたから子どもらは一生懸命だった。

### 7：絹義務教育学校での体験指導

◎絹には小中一貫の絹義務教育学校<sup>註1</sup>がある。そこでは、養蚕指導員や養蚕家、紬に関わる大人が先生になって教えている。1年生で養蚕から始めて、糸紡ぎ、そして最後は織まで体験<sup>註2</sup>している。

◎私も元養蚕家として参加しているが、最初の頃「この地区の大切な仕事だった養蚕や紬を子どもたちに教えてあげたい」と言う話があって、私は「大丈夫ですよ」と軽く受けた。ただ、最初の先生たちの考えは、ただ校長室で何匹か飼って、そこで子どもに教えるような話だったと記憶している。それじゃ駄目だということで、飼育室なんかも作ってもらったり、温度管理もできなくては駄目なんですよと整備してもらったり、桑の木を数本、とりあえず学校内に植えて・・・。現在もだいぶ成長して、2、3年前にまた少し増やしている。

◎だから、学校では養蚕から糸紡ぎから、糸紡ぎの工程までずっとやる。織まで。だからいいプログラムだと思う。

◎コースターかなんか作って卒業生にプレゼントする。

◎拵縛りとかもしている。

◎学校に何台か織り機もあって、地機(じばた)を少し改造して簡単なもの。それで自分の

ところでは機をやめたような人が教えに行っている。染めも学校内ではやれないけど、ちゃんと頼んでやっている。

◎絹地区の歴史だから、関わる大人たちもずっと後世に伝えていってもらえばと思って、一生懸命やっている。

◎もう何年だ、10年以上になりますよね。

◎全て工程を体験する機会になっている。蚕を飼って繭を作るだけじゃない。

-----

註1：平成29年に福良小学校、延島小学校、梁小学校と絹中学校が統合されてきた。統合されるまでそれぞれの学校でも行われてきた養蚕と結城紬の学習が、統合後も引き継がれている。

---

註2：蚕を提供しているJAおやまのホームページの記事(2020/07/17)より転載

授業は、養蚕から糸紡ぎ、染色、機織りまで段階的に、体系的に楽しく学べるよう工夫しています。1・2年生が繭の飼育・収繭、3年生が煮繭・真綿かけ、4年生が糸紡ぎ、5年生が拵くり・墨付け、3年生が作った真綿を染色、6年生は、5年生で染色した真綿を横糸にして地機織りを体験し、「結城紬のコースター」を織り上げます。さらに7年生は、本場結城紬の着心地を体験し、8年生は、1・2年生が育てた繭を使って9年生への卒業記念品「コサージュ」を作製。9年生は、桑の葉と桑の実を使った「桑の葉まんじゅう」を調理して味わうという流れです。体験を通じ蚕や繭の魅力、養蚕の意義などを学び、児童にとっては思い出深い授業となります。

◎繭は、絹義務教育学校の子供たちが育てたものを品評会に出している。毎年11月23日に茨城の笠間稲荷神社で献穀献繭祭(けんこくけんけんさい)と言って、穀物を献上すると、繭を献上する部門というのがあって、その品評会でずっと入賞している。

◎よく新聞に載るね。

◎評価の観点は、繭の大きさ、粒がそろっている。光沢がいい。あとは解舒率(かいじょりつ)と言って糸にしたときの切れてしまわないこと。繭は一本の糸です。糸にしたときに途中で切れてしまわない。そういうのを検査する。

◎一つの繭で糸の長さが一般的には1000m。だけどそれが1500、1700というのがある。それだけの品質。それは調べて分かる。

◎我々大人も、子どもたちも励みにはなっている。

◎表彰式の会場も子どもらがいると「また絹の子どもたちが来たな」みたいな感じで、いい雰囲気になっている。

◎学校として品評会に参加してるので、表彰式には子ども2人かな、だいたい毎年行くので。

◎1年生と2年生に養蚕を教える時に、やはり虫だから、中には毛嫌いする子もいるけど、最後の繭を作るころにはもう馴染んじゃう。逆に愛着が湧くようだ。虫でも、毛虫のようにウジャウジャじゃないから。「よく見ると、ここに頭があるよ」という話もすると子どもらも興味津々に見て、だんだん慣れるようになってくる。

◎着物とか衣服の繊維の糸が、こうやってできるというのは、なかなか知る機会はない、大人でもあまりないと思う。

## 8：これからの絹地区

文献や映像でなく、

人から人へ伝えることの大切さ

◎養蚕は、もう(産業として)なくなっちゃってるからね。

◎小山の養蚕農家はうちを入れて4軒<sup>註3</sup>。下野で1軒、壬生で1軒。この6軒がJAおやまの管轄になる。おやまにはもう1軒あったが、昨年、廃業されたので・・・。

-----

註3：一般社団法人大日本蚕糸会 栃木県の養蚕事業

(2022年4月発行)より一部転載

「最盛期には22,349戸(昭和8年)であった養蚕農家戸数は、平成3年には995戸まで減少し、令和2年には19戸となっています。収繭量は平成元年の809tから、令和2年には13.9tとなっています。」

<https://silk.or.jp/wp-content/uploads/silk73.pdf>

◎これはね、養蚕を絹地区で復活というのは、正直かなり厳しい。養蚕って、道具も結構必要。私どもが始めた9年前も、養蚕の道具はたまたま農家がとっていたという、それを譲り受けてというのがほとんどで、今、養蚕の道具を買うこと自体が、作っている業者がまずないので。それがまず厳しいのが一つある。

さっき言ったように、外国から安い繭が入ってきてしまっているんで、養蚕だけで食っていくのは無理。なので、たぶん、桑地区でお話を聞いた養蚕農家さんも、養蚕のほかに別にごぼう作った、大根作ったという方がいるということだったので、生活をする面で考えると、養蚕だけというのはまず厳しい。

◎基本的にね、お金にならなくちゃ駄目。経営だから。お金になれば、若い人でも年齢問わずやと思う。

◎紬なんかいい例だ。やりたい人はいっぱい来るんだよ。センターとかでも機を習いたいとか来るでしょう。最終的に生活できないから辞めるしかない。それが現実。

◎趣味でやってるわけじゃないから。

◎そう。われわれは、どこにもいけないから、しょうがないからやっている。同級生は皆、悠々自適な生活で遊んでる。

◎だから、子どもたちに継がせてないわけ。

◎子どもを最初から継がせる気ない。だって、生活できない。

◎だから、絹地区で養蚕と結城紬を残すべと言ったら、国家レベルの予算で持ってきてやらな

くてはできない。市役所とかでいくら騒いで、そんな1人2人育てたって続かないよと話したこともある。

◎予算がないから事業も中途半端になる。やるんならもっと徹底的にやらなくては残せません。そのぐらいのものです。養蚕だって同じですよ。このくらいのレベルで支援してくれないと残せない。この地区はどんどん過疎化しているし、せっかくできていたコンビニも無くなってしまった。あれはみんなすごいがっかりしてる。2つのコンビニのうちの1つが廃業。利用者も少なくはなかったのに。

#### 化粧品と医療での利用

◎経営として養蚕でやるんだったら、繭は普通に糸屋に出荷するのではなくて、医療関係に売ったほうが、今は高い。

◎糸にするには、やはり先ほど言った生糸量歩合とか、そういう検査とか必要だが、医療用は関係ない。

◎今は、化粧品と医療にいつてしまってる。

◎繭になっていればいいので。そこからタンパク質を取ったりするので。

◎糸はやはり取るのに途中で切れてしまったりすると良くないが、医療関係は、糸を取るわけではなく繭からタンパク質が取ればいいので、繭のいい、悪いは関係ないことになる。

◎糸を採ると、繭の中にさなぎがいて、そのさなぎって使いようがないわけなので、コイのえさに利用するところもある。

◎コイのえさか、あと、長野に行くと佃煮にして売っているところもある。

◎イナゴの佃煮に似たような感じ。

◎今は、結城紬とかで使っている繭も、実はこの辺で取れたものでなくて、福島から入れているというのが現状。

◎小山で取れた繭は群馬に全部いつている。全部JA管内で出荷といって農家が集まって出して

いて、それは群馬の碓氷製糸というところへJAから出荷になる。大きな製糸場はもう日本で2つ、3つぐらいしか残っていない。その1つ。

◎この公民館で「真綿づくり」というワークショップをやっていますが、そこから（JA から群馬に送る分から）ちょっと小山市で紬に使うやつを、出荷の時に分けてもらっている状態。

◎もう少しそれを増やしてもらいたいと（働きかけなど）やっているところ。

◎うちの施設は別にそれでも構わないんですけど、農家さんはやはり生活かかっているところもあるので。なかなか難しい。

◎だから、医療用に売れば金にはなる。さっき言ったように。ただやはりそこの契約というか、つきあいというか、そういうのもあったりする。そっちに（JA）出している。

◎JA 福島が化粧品とか医療の売り先を見つけてきている。

◎福島、たぶん向こうのほうが繭代はいい。

◎群馬は県から補助金が結構大きいのが出てるんです。栃木はない。小山市から少々頂いている。

◎繭は全国、県ごとに値段が違う仕組みになっている。

◎繭格というのがあって、その品質によって、牛肉と一緒に5A まであるんです。1A から始まって、2A、3A、4A、5A というのがあって、掛け目があって、それで1 キロプラス、1 個上がるごとに200 円だか300 円だかという感じで上がっていく。その検査によって5A になれば、1A 格よりは全然いい繭代になるところもあるが、それでも正直安い。

#### 小山市の和服の日

◎制定はされていてありがたいことだが、小山の街って着物が似合わない（笑）。

◎言っちゃった（笑）。

◎栃木市とか結城市とか、古い街並みを大切に

残しているような、着物が似合う街とちょっとイベント的なものを一緒にやったりするとか、普段も着物を着て歩いてもらいたい。でも街を歩くのに小山は似合わないんだと思う。

◎小山市の場合は、着物の日は結城紬の振興ということでやっていて、栃木市の着物の日は景観、まちを見てもらうためにという、ちょっと目的が違うところがある。

◎これからの希望としては、公民館に隣接している支援センター<sup>註4</sup>、そこがやはり県の建物なので、そこを利用したいというのはわれわれの気持ちの中にあるが「県のほうもできたばかりの施設を「はいよ」とあげちゃうわけにいかないと思うが。

--

註4「糸つむぎ の里」

<https://www.city.oyama.tochigi.jp/sangyou-sigoto/sangyosinko/dento/page001529.html>

◎これも申請して何年もかかってできた。

◎問題点としては、伝統工芸などの専門職ではない事務員さんばかりが県から派遣されているので、事務員さんに支援センターって名乗られても、事務員さんは何もできない状況で、なかなか活用がうまくいっていない。

◎県知事がもっと積極性がなくては駄目だと思う。栃木県は那須御用邸などで天皇が来るころでもある。そのときお出迎えにちゃんと紬の着物を着て、出迎えるような気迫がなくちゃ。

◎栃木県の考え方として、新しいものは新しいもので、先にすぐいくようだが、過去から続いてきた伝統的な産業、養蚕にしろ益子焼にしろ紬にしろ、そういうものをもっと底上げではないが、そういうものはやはり必要。それがやはり足りないような気がします。

◎こういうものは、無くなったらもう終わり。

◎地域の伝統産業というのはあるわけだから。そういうものを継承してやっていくのは公的な

援助がなくちゃ駄目。

◎なくなるのは放っておけばなくなってしまうのですが、それを復活させるのはかなり大変。なくならないように、それを持続していかなければいけないと思う。

◎紬が一回なくなったら完全復活できない。私、紬できるわって子は多いよ。でも昔からの伝統的なやり方を習得している人はとても少ない。

◎真岡木綿もそうでしょう。一回きれいになくなっちゃって復活させたけど、何かで読んだが、今やっているのは本当の昔のやり方ではない。

◎結城も一回途絶えたと同じになると思う。

◎伝統工芸は、腕で覚えている、人間が覚えているものだから、いくら文献を残した、ビデオを残した、それで復活させようとしても、無理。もう小山市から知事に圧力かけてもらうしかないな。

◎今の紬が一回途絶えちゃったら同じ形で再現するのは無理で、養蚕もたぶん同じだと思う。養蚕も結局は今、会社が工場で蚕を飼っているというのも結構ある。

◎工場では桑を使っていない。人工飼料だけでできちゃうが、桑っ葉で育てたやつより、やはり繭は小さい。でもそれは糸に使わないで医療用に出してしまえば、それで済んでしまうわけだから。

◎桑の葉の摘み方にしても、工程にしても、時代の移り変わりとともに変わってきた。

◎私がやっていた頃は、全部、下っ葉、下っ葉、葉っぱだけを摘んだんです。

◎だから技術のいい人はすぐにだーっと摘む。うちなんかは葉が大きいんで、目方で1キロいくらと払った。そうすると一生懸命、早い人はどんどん取る。

◎孵ったばかりの蚕には柔らかい葉だけを摘んであげる。そのあと、次第に大きな葉に。

◎みんな葉っぱをびっぴびっぴ摘んだ。それを大きなかごで摘んで。5、60キロあったんじゃないか。本当の大きいかごにぎっちり積むんだ。

◎葉っぱだけ取るようになって、指にはめるような道具があった。指輪みたいなもので、それでずっとやると、ザカザカと採れる。

◎そういう歴史があって、今はもうだんだんやはり労力を軽減できるように、ある程度育った蚕には、枝ごと採って蚕に与えるというものに変わってきた。

◎完全復活させるのは、養蚕もたぶん同じで、養蚕農家の技術が基本にあるわけで、それを人伝えで伝えていかないと、文献で残したところで、全く同じようにできるかといったら、それは無理。経験が必要だし。その日の気候みたいなを見て判断するという、そういうのも必要なもので。一回途絶えてしまうと同じものの再現は、養蚕もやはり無理だと思う。だからやはり、今が正念場ではないか。

-----  
2 | 子育て世代の方々

絹地区子ども会育成会連絡協議会より、小学生・中学生・高校生のお子さんがある家庭から女性5名・男性1名、合計6名に参加いただいた。

実施：2023年12月4日 18時30分～20時

場所：絹公民館  
-----

1：参加者の方々の地区との関わり

◎絹地区で生まれ育ち、今も絹地区在住です。自営業をやっていますが、その店は、人の縁があったりして結城市で開業を決めて7年前からやっている。家から店までは車で15分から20分。そういう関係で地区の消防団などは参加できてないが、少し前に地区の体協に関わっていた。普段の生活圏は絹地区だったり、職場が結城市なので結城市だったり、あとは小山市のまちなか。上三川にも行くことも。

◎私は生まれは古河市で、18年前に絹出身の夫と結婚したこちらへ。それからは夫の仕事の都合で出たり入ったりの感じで、夫は今の勤務地が埼玉なので単身赴任。だから生活圏は、こちらの地区と埼玉を行ったり来たり。

◎生まれ育ちは間々田で、嫁に来て、かれこれ20年で子どもが3人。食関係の訪問販売の仕事をしていますが、そのセンターが結城で、だから普段の買い物とかも結城が多い。仕事の上で、結城でも地元でも高齢の方々と話す機会は多く、昔のことをいろいろ学んでいる。

◎生まれも絹地区です。大学で埼玉まで出て、結婚して戻ってきている。仕事は小山市内の都市部に勤めている。普段の生活圏はやはり結城、小山、宇都宮、上三川とかですかね。

◎もともとここが地元で生まれも育ちもずっとこの絹地区。ひとり親世帯なので、子どもの面倒とかは両親に見てもらって、仕事は小山の西

口で事務の仕事を。ほとんど役員をやることなく、今までやってきた感じなので、育成会の役員は今回が初めての体験。生活圏というと結城。結城、筑西、上三川だったり、会社の近く、市役所の近辺とかで、買い物をしたりとかして帰ることが多い。

◎地元は矢板市で、こちらにお嫁に来て12年になる。職場は、下野市の石橋。活動は、育成会と、あと体協は今年、係にはなっているのですが、何もしていない。普段の生活圏は、会社がある下野で買い物をする。あとは家から買い物に出る時は、交通の便的に、結城が多くなる。

2：子どもの頃からの絹地区の変化

水辺の様子や生き物

◎子どもの頃、用水路とかあるじゃないですか。学校からいつも用水路を見ながら帰ってくるんですけど、用水路の水がすごくきれいだった。ちょっとのどが乾いたら、飲めそうと思うくらい（笑）。

◎いや飲まないでしょ、ふつう（笑）。

◎きれいだし、いけるんじゃないかみたいな・・・。

◎いろんな生き物もいた。ザリガニもタニシとかもたくさん。ザリガニを取ったりとかやったよね？

◎水は飲んでないけど、でも確かに、ザリガニ釣りとか、魚採りとかやった。中島橋のところとか。つかみ採りの体験行事もあったような記憶がある。

◎まだ全然きれいでした。でもたぶんそれが、小学校低学年とかぐらいで、興味があって見るじゃないですか。

◎昔の梁小学校の前にあった大きな用水路に降りて水に入って遊んだ。

◎場所によっては、今でもホタルがいる。

◎いるいる。夫は見たって言っていた。

- ◎ホタルいますよね。
- ◎ええっ、本当ですか。
- ◎鬼怒川の土手のほうは昔はいたって。
- ◎舟戸にもいた。
- ◎どこか1カ所、ミズホの近くに見えるところがあるって言われて、何回も見に行った。
- ◎最近行ってないので分かんないけど、10年くらい前は確実にいた。
- ◎わざわざ宇都宮の「みずほの自然の森公園」というところに、ホタルを放し飼いだかするので、そこでは見ましたけど。地元では見てない。
- ◎ホタルなのかな。ホタルを見てるのに気づかないだけなのかもしれないけど。
- ◎すごく目を凝らさないと見えない。
- ◎子どもたちも、今までのところ、ホタルを見た経験がないので、地元で見せたいと思う。
- ◎他には、キジとウズラとタヌキがいる。
- ◎お札に載ってそうな鳥とか。
- ◎タヌキは、うちの外ネコのエサを食べに来ている。
- ◎たまに車に轢かれて道に転がっていることも。
- ◎へビも轢かれてますね。
- ◎イノシシは、こっちはイノシシですね。思川のほうは困っているみたいだけど。
- ◎白いフクロウらしき鳥をみたことがある。土手沿いの道を通って帰っていた時に見たので、親に話したら、昔は、いたみたいなのを言っていた。
- ◎コウモリとかはまだいます。
- ◎自宅の上で飛んでいる。
- ◎隙間から家にも入ってくる。
- ◎昔の家って、密閉性がなくて隙間があるから、そこから実家の母屋に入ってきて7匹も丸まっています。さすがに頼んで駆除してもらった。
- ◎それから、庭にクヌギかな、木があって夏に

カブトムシとクワガタがくるので、子どもたちは、それを見ている。ただ、男の子だけど、苦手のようにさわれない。

- ◎うちも虫は全然駄目、苦手で。
- ◎うちの子は、網を持ってザリガニとりや魚釣りには行っている。
- ◎うちは、路上を歩いていたザリガニを捕まえてきたことがあった。

### 3：子どもたちの遊び場

#### 遊び場が少ないし移動も心配

- ◎今の子どもたちはとにかく遊ぶ場所がない。
- ◎私たちが子どもの頃は、学校が終わってから小学校の校庭で遊んでいた。
- ◎あとは、神社の境内とか。
- ◎今は、中島は昔から小さい公園があって、そこに遊びに行ったりしている。遊具は限られてしまっているので、色おにしたりとか、鬼ごっこしたりとか。
- ◎高椅神社も土手のところに、あれほどこの所有のものか分からないが、その自治会の公民館みたいところにブランコがあって、そこで集合して、でもやはり遊具はそれしかないの。やはり同じように鬼ごっこしたりとか、自転車で走り回ったりとかしてる。
- ◎今は、私たちの頃と違って、放課後、学校で遊ぶのはダメと言われているようだ。多分、学校が統合して絹義務教育学校になってから？
- ◎広いところで遊ぶということができない。うちは野球をやっているの、野球をやりたいがるのですが、思いきり打てないというのは、いつも嘆いてる。
- ◎親も時間に余裕がある時は、結城の公園に車で連れて行くこともある。
- ◎友達の家遊びに行く時も車で送迎。
- ◎低学年は家の周りしか自分で行動してはいけなくて、ほかは保護者同伴。中学年になったら

旧学区まで、高学年になったら・・・と、動いていい範囲のルールが決められている。

◎子どもの移動で不安なのは、夕方になって薄暗くなってくると、農道なので街灯がないので暗いこと。

◎大通りは、街灯があって明るいけど、自転車、車が多くて危ない。かといって、裏道の農道は暗過ぎて怖い。

◎車はすごく通るけど、人間が歩いていないので、何かあった時に、子どもも怖いと思う。

◎確かに。歩行者とか自転車の人とかを全然見かけないぐらい人がいない。何かあったときとかは見てくれるというか、見ていた人とかはきつとないだろうと思う。それも心配。

#### 4：習い事・病院がない

◎塾に行かせようとなったときに、結城だと市外だから進度が違おうし、下野も同様だし。小山の町中まで行くとなると、20分以上かかる。働きながらはきついなと思うことがある。

◎絹には英語の塾が1つだけ。

◎絹地区には、病院が1軒もない。病院に行くにも、小山市内の病院にいけば、窓口での支払いが助成で無料。でも遠いし、混んでいるところも多いので、結城に行っちゃうとお金がかかる。歯医者なんか特に近くにない。結城へ行っても、いったん自分で支払っておいて、小山市に申請すれば戻ってくるからいいが、その申請がまた面倒くさい。全部書類を書いて、領収書を一緒に出して・・・と。

◎忙しい時には忘れる。

◎微々たる金額だけど

◎損した気分になる。

◎本当はタダだったのと思うと。やられたと。それは本当、昔から思っている。何か仕組みを考えて欲しいけど、ずっとなんにも変わらない

◎昔は、歯医者さんとかあったけど・・・。看板だけ残っていたり。

◎特に小児科が困る。

◎普通の内科は、子どもは診られませんという病院もある。4歳以下は小児科行ってくださいと言われる。

◎うちが行っている下野市の病院は、8時からがネットで予約開始で、8時1分でもうその日の予約が埋まってしまうこともある。8時3分で完全にアウト。

#### 5：公共交通と買い物

◎バスなくなっちゃいましたね。

◎おーバスが通らなくなっちゃって。

◎車、何かの事情で乗れなくなったら、もう何もできない。

◎そう。お年寄り多い地区なのに。

◎ちょっと前までは走ってたはずなんです。走ってたと思う。

◎最初はおーバスが絹地区に回っていた。できたときは。何年前だか分からないけど、でも乗らないから、要はなくなっちゃってデマンドに。

◎一人暮らしのお年寄りの人がだいぶ増えてきているので、たぶんいずれはそういうのもないと厳しくなるのかなと。

◎日常的なスーパーも1軒もない絹地区は、コンビニだけ。

◎コンビニができてまだ10年たたないぐらい。

◎2軒あったけど、つい最近1つなくなりました。

◎買い物に来る人、普通にいたと思う。多かった。

◎お年寄りも多かった。

◎つぶれたわけじゃなくて、移転らしく、宇都宮に。

◎みんな、ショック受けてる。

- ◎私たちが子どもの頃は、文房具屋さんとか、ガス屋さんで何か売っていたり、今は、学校の前で体操服とか名札とか売っているお店だけ。
- ◎子どもたちが学校で使うノートとかは、結城の山新か TSUTAYA に買いに行く。
- ◎10年くらい前には、移動販売のトラックが音楽鳴らして来ていた。トラックダメになったのか、小さい車に変わって、そのうち来なくなっちゃった。
- ◎おばあちゃんたちが利用していた記憶がある。
- ◎下野から来ているって聞いた。
- ◎今は COOP とかは使ってるけど。仕事しながらは近くに店がないと買い物は大変。
- ◎でも慣れましたね。それが当たり前。

## 6：自治会や育成会の行事や祭り

### どんど焼き

- ◎福良橋では自治会で「どんど焼き」をやっている。私の小さいころはやっていなくて。そういうのはやはり子どもにとっていい経験だと思う。地域の方との関わりが出てくるので。今は、特に引っ越して来た人などは「どこのどなたさん？」ってなっちゃう。うちは夫が地元だからいいけど、祭りやイベントで地域の方との関わりが出てくるのはいいと思う。
- ◎中河原も毎年の恒例行事でやっている。他にもあるかも。
- ◎7月に長い竹に白い紙もあれ（紙垂？）を何十本も付けて、しゃんしゃんやって、子ども会で一軒一軒回って、ご褒美にお小遣いもらってというのを今年初めてやった。しばらくコロナでやっていなくて。やめた人も多いんですけど、やりたい子も多くて、お小遣いもらえるから。やりたい子だけ行って。やっぱりそうすると、どこの誰だみたいな。ああ、〇〇さんちかみたいな感じで顔を覚えてもらえるし。こっち

もここまでが〇班だよとか地区のことが詳しく分かるから、それはいい習慣なのかなと思う。

### ぼうじぼ

- ◎十五夜の「ぼうじぼ」をやっている集落もいくつか・・・。
- ◎自治会よりもさらに小さい単位でやっている。
- ◎延島下の場合は3つに分かれていて、その1つの単位でやっている。
- ◎うちの舟戸地区は全部、全員一緒にやっている。
- ◎わら鉄砲といわれるものをつくって、地面を叩きながら回る風習。私が子どものころやってないで、よく分からないんですけど。
- ◎わら鉄砲は、うちはおじいちゃんが作っている。
- ◎みんなが集まって作るというわけではなく、各家庭で作る感じ。
- ◎豊作を願う風習ですが、子どもたちは、単にお小遣いが目当て。
- ◎高学年の子はやる気ない。
- ◎うちは歌ったりするのが苦手なので、ついていくのがやっとな。最後にお小遣いを山分けするときにはみんな元気。
- ◎各家庭で包んでくださる方もいるし、そのまま手渡してくださる人もいるし。
- ◎結構いいお金になる。
- ◎子どもも少ないから、もう1人当たりの額が大きい。
- ◎お年玉みたいな。
- ◎大人は何もないですけど。
- ◎付き添って疲れるだけ（笑）
- ◎子どものための祭事ではないけれど、夏の中島の神社の茅の輪くぐりでは、子どもが行くと、来てくれたご褒美に花火をくれたり、自治会で何か用意してくれて。そのときに自治会で保管している太鼓をたたいて健康成就みたいな

ことをやっている。

#### 育成会の行事

- ◎育成会としては、ポーリングに行くところが多いかな。
- ◎50号線沿いのポーリング場が参加人数が10人以上だとバスで送迎してくれるので。
- ◎うちは、去年は10人切ってしまったので、来てもらえなくて・・・
- ◎参加する人だけで10人必要だから。付き添いの人は含まれなくて。
- ◎前は育成会旅行といって、地区ごとにどこか行くとか、夏祭りやるとか、その年その年でやること違うんですけど、やっていた。コロナになってからはぴたっとなくなっちゃった。うちの福良橋では自治会長さんがゴミ拾いを兼ねて夜に花火大会をやってくれている。その組み合わせの理由は、お年寄りと子どもたちの交流を深めるということで、午前中はゴミ拾いをし、夕方から花火大会というのを。それは毎年恒例。
- ◎育成会の加入率は、絹は100%だと思います。小さい地区だから、入らないと疎外感味わうだろうし、やっていけないですよ。

#### 7：絹義務教育学校

##### 少人数の難点と良さ

- ◎1学年30人平均で、6年生が35人かな。それがマックス。
- ◎人数が少ないから、役員もやらざるを得なくなってくるので。
- ◎7年生、中学1年ですね、その時に私立とか行かれちゃうと減っちゃう。そういうのはあるけど、数人。
- ◎クラス替えもなし。自分が小さいときは他の地区のマンモス学校に行っていたので、同級生に会っても、誰だっけとなりますけど。ここは

みんな顔馴染み。

- ◎私たちの頃、絹中は、たぶん2クラスくらい。
- ◎私の時は、3クラス。
- ◎すごい！
- ◎自分たちのときから2クラスに減った。
- ◎部活も少ないし、選びようがなかった。
- ◎今の義務教育学校は部活は少なく、消去法で残ったのを選ぶ感じ。
- ◎5つくらいかな。
- ◎それでも男女で入れるの決まってるから。
- ◎女子バレーがなくなって。
- ◎テニスは男子だけとか。
- ◎野球は合併で。大谷中とだったかな、一緒に。
- ◎少人数だから良いこともあって、先生の目も行き渡るし、いいなってそこは思う。先生にもよるけど、やはりいき届く範囲内の子どもたちの人数だし、子どもたち同士の関わりが増えるから、その点はいいなとやはり思う。
- ◎学年が違う人の兄弟とかまで把握ができていくところもすごい。
- ◎すごく知ってる。子どもたち同士で。
- ◎先輩から後輩への面倒見の良さもある気がする。
- ◎男女間の仲の良さも、学年によるし、思春期になってくるとそれなりだけど、1、2年生とか、幼稚園から上がってくる子が多いじゃないですか。ここはどうしても2カ所ぐらいしかない。街中に比べると、小さいときから知っている子どもが多いので、親としても安心。
- ◎絹地区の子どもたちは、みんなとても素直だと思う。先生から「おじさん、おばさんとか外で会ったときに、誰にでも挨拶しなさい」と言われたら、そうするし。
- ◎自転車で乗ったまま横断歩道を渡ってはいけないルールがあって、必ず降りて押す。
- ◎朝、通学の時、ボランティアのおじさんがと

めてくれると、ちゃんとあいさつして、自転車から降りて押して渡っている。

◎子どもたちが小山の街中とかで、乗ったままさーっと渡っている子どもを見ると、「なんでっ」とか言っている。

◎一回、車で止まった時かな、「ありがとうございます」ってすごい大声で言われたことがあって。ちょっと感動しちゃう。

#### 義務教育学校での養蚕体験

◎とてもいい体験をさせてもらってると思う。

◎蚕は1、2年生が育てて、3年生はそれをゆでる。うちの子は、それを知らなくて、初めて育てていた蚕さんをゆでるみたいなのを知ったときはショックで、参加できなかった。可哀想、怖い・・・と思ったみたい。

◎育てた繭が表彰されたりしているので、達成感とか満足感とか、あると思う。

◎昔はよく近所で機織りやっている人がいました。ガシャンガシャンって音が聞こえていた。

◎あとは糸を紡いだりね。

◎今は3人いても、たぶん全員が桑畑を知らないと思います。

◎うちは蚕を飼ってました。おばあちゃんが。蚕もいたし機織りもしてた。

◎機織りは記憶にあっても、桑畑を見たことがある大人も少ないかも。

◎畑は分からないけど、家で蚕を飼っていたんですよね。

◎桑の木が畑にバーっと並んでいるという風景の記憶は全くない。

◎というか桑の木自体がどういうものか、私は知らない。

◎学校にある。東校舎の前ですよね。

◎芝生のところかな。子どもたちは、たぶんその葉っぱを取って蚕にあげている。

◎ああ、今度見てみます！

◎桑茶もありますね。

◎すごい体にいいらしい。

#### 8：未来の絹地区に向けて ～市街化調整区域の問題

◎息子本人はここに残りたい。ここがいいって、都会やまちなかは嫌だ街中はうるさいって言っている。小6ですけど、「俺、ここに残るから」と言っている。

◎かっこいい！

◎うちは女の子なんですけど、絹から出たいって言っている。今、都内に住みたいとは言っています。絹は住みづらいよ、と。

◎憧れもあるのかな。

◎私自身もずっと絹地区で、一度も外で住んだことがないので、一度は外に出た方がいいのかどうか、わからないけど・・・。

◎やっぱり、職場が少ないので、もっと選択肢が増えるといい。

◎もともと住んでいた方って、（義務教育学校がある）福良以外は小学校がなくなっちゃったわけで、それって気持ち的に悲しいとか寂しいとか、そういうのはありますか。このまま子どもが減って行って、絹義務もなくなっちゃったら、子どもたちは将来、すごく寂しいんじゃないかと思って。学校が残って、30年間とか残っていたらいいなと思う。

◎学校がなくなるって、寂しいことだと思う。でも厳しそう。子どもがうちも一番下が2歳で、たぶん同級生もいない。今は舟戸地区は結構いるんですけど。廃品回収とか、あとはそういう役員の、例えば育成会の役員一つ取っても人がいないと実感しているので、そういうのがどうなっていくのかなというのは、本当に不安。

◎ここは市街化調整区域で、外から来た人が家を建てられないところですよ。それがあるから、なおさら人は増えない。それはなんとかな

らないか。

◎地元において、自分たちの土地だけ、家建てるのは、結構大変でしたよ。いろいろクリアして申請していけないといけないことが多くて。

◎うちの、家建てるのに1年かかった。

◎農地から宅地に変えるのが本当に大変。

◎しかも、お金も結構かかる。100万ぐらい。

◎そう。厳しすぎる。

◎規制をゆるくしてくれると、田舎に住みたい人もいるかもしれないと思う。

◎空き家だらけになりそうな気がしていて。

◎もうすでに空き家が増えていて、怖い・・・。

◎隣接する下野市って、この何年かで、どんどん住宅地になっている。下野市の仁良川<sup>註1</sup>のあたりって調整区域になっていない？

◎今は、仁良川はなくなってないと思う。昔は調整区域だったのかもしれないけど、市街化区域に編入と言って、それで区画整理やっている。

◎今、めちゃくちゃ家が建っている。昔は、何もなかったのに。

れるなど。

◎まあやっぱり自然っていいなと思います。

#### 註1

下野市の地区計画制度について（下野市ホームページ）

<https://www.city.shimotsuke.lg.jp/0036/info-0000000479-3.html>

◎あとは、これからの移動というか、交通の問題。自動運転があれば、死ぬまで乗って買い物にも病院にも行ける。

◎家を自由に建てられないのは、なんとかしてほしいけど、のどかな環境も守りたい。

◎私は土手が好き。土手沿いに住んでいるので。ヤマフジが咲いたりする。そういうのを見ると、やはり季節感が感じられる。寒くなれば紅葉するしとか。犬の散歩に歩いていると、落ち葉がドバツと畑にあると、ああ、心が癒やさ

-----  
3 | 農業従事者の方々

小山市農業委員会から4名、農業従事者の方4名(うち2名は法人)、合計8名に参加いただいた。

実施：2023年12月8日 18時～19時30分

場所：絹公民館  
-----

1：参加者の生産物や地域活動について

◎元JA職員なので生産ではないほうで農業に関わってきたが、退職してからは家の農業を引き継いで、米、麦、大和芋などをつくっている。昔は消防団もやっていた。

◎家の農業を継いで、土地利用型農業をやっている。米、麦、大豆、ソバ、ハトムギ、ネギ、かな。

◎営農集団、集落営農組織に認められていて、最初は6人ぐらいでスタートしたが、今はだんだん高齢でできなくなって、2世が出てきているんですが、だいたい2～3人ぐらいで、なんとか現状維持。私が集団長ということで、米と麦をやっている。周囲でも、だんだん高齢でできなくなってきたから、耕作してくれという相談は少しずつ出ている状態。

◎家業を継いで、作付品目は、いちごと米と麦。学校を終わってからそのまま就農ということでやって、今は消防団にも入っている。

◎農業委員をやっている。私が就農したのは52歳。これは親が急に亡くなって、2年後に会社を辞めさせてもらって、それから始まった。知り合いの助けもあってどんどんやってるが、もう年齢が年齢で、これ以上は手を出せないと、広げることにはできない。今、農業委員の方でも、貸し借りの件がかなり多く出ているので、そのほうで頭を悩ませているところ。つくっているのは米麦のみ。一番問題はなんでも一人でやっていること。5町歩やるのには、ちょっと1

人だけでは大変。これからそういう年代になってくる人がかなりいるので、その土地の問題というのが今一番悩むところ。

◎自分も今年から農業委員。親の代から田畑はあって米だけは作ってしまして兼業農家ということでやっていたが、定年になったので、今年から新規に就農。初めてやる畑なので、玉ねぎとナスをやっている。

◎梁で生まれ育って、16だか17のころから学校行くの忘れちゃって(笑)、家業の農業やっている。いちごと米麦と、ナスとかを少々。あと加工品、六次産業のほうをやっている。8年くらい前に、法人化して、今、全部で23人、いろんな地域の方を雇用している。

2：絹地区の農業の歴史と現状

結城紬あつての農業だった

◎絹は、特異な地域だと思う。今は廃れてきたが、結城紬の大産地だったので「結城紬があつての農業」だった。昔から土地の集積は相当前からほかの地区よりは進んでいたと思う。昭和58年のころから営農集団でできていた。その一方で、桑地区と絹地区では養蚕農家が主流に。桑畑も相当多かった。

◎土はだいたい沖積土。田川に近いほうが粘土質、黒ぼく土まではいかないけども、沖積とはまた違う。養蚕の桑園の多かったところは、ほとんど沖積。それなので、こんな土地どうしようかということから始まったような35年くらいも続いてきた。

◎結城紬が衰退する、そのせいで、もう蚕もやる人がばたっといなくなる。その桑畑が何になったかということ、今多いのは麦を作っている。これはどちらかということ鬼怒川沿いの土地。

◎本来は水田では麦は昔はやらなかった。

◎ほとんど。8割ぐらい田んぼかな。

◎だいたい絹地区の有効利用の農地では8割は水田。土地改良でかなり大きくやった経緯がある。

◎桑は、桑畑の後、大根やゴボウをつくっていたようだが、絹地区は野菜作る人が少ないんで、畑があっても麦しか作らない。

◎野菜作っても味はいいんだけど、見た目が悪い。

◎絹はあんまり働き者じゃないんだよ。野菜は大変だから。

◎結論から言うとそこだよな。

◎たぶんそこだと思う。野菜は金になるときもあるけど、大変だからね。やればいいのは分かっているんだけど。博打だから。

◎鬼怒川流域は畑が多いので、みんな桑畑だったんだけど、それをやめてどうするかというので、みんな抜いて、機械で刈れるから麦になってしまったみたい。大豆とかそういうのもやっていますけどね。

◎麦は昔から多い。

◎野菜作る手間暇をやる人がいない。

◎土地柄だよな。

◎ネギなんかも減ってるんじゃないか。ネギ農家も減ってる、やってる人もいるんだけど。昔よりは減った。

◎昔は、みんな紬やりながら片手間だものね。

◎紬が良すぎた

◎そうそう。その良かった頃の記憶が残っているから。

◎体質が抜けないんだよな。

◎いちご栽培については、古い人は古い。平成に入ってから徐々に大きくなって、件数も増えてきたんですけども、1戸当たりのいちごの産面積は、おそらく栃木県で一番になっていると思う。

### 3：絹地区の農業が直面している課題

#### 農業人口の高齢化と耕作放棄地

◎耕作辞めて荒れ始めているところは、若干ある。ただ、これから本当に一気に増える可能性が大きいけど、今のところ受け手がいない。

◎2、3、頼まれているのがあるんだけど、できなくなったから見つけてくださいって言われている。話をしたら、もういっぱいだからできないって言われて、そのままになっている。そんなことも増えてきているのが現状。

◎やめる人というのは、完全にできなくなってから、それまで全然騒がなくても、できなくなってからぱたっとやめる。そうになると、農業委員会としては、もうどうにもならない。前もっての準備ができてないから。

◎やれるところまではやる、そしてもうどうしようもなくなったら、突然やめる、という感じ。

◎例えば、77までやって、それで旦那が死んじゃって、母ちゃん一人じゃ何にもできないでどうしたらいかんべと来られても困るんだけど、前もって話がないと急には対応できない。ほとんどがそういう状況。

#### 非農家市民からのクレーム

◎周りの市民（非農家）にしても、協力的な人が2割ぐらいいて、無関心の人が7割ちょいいて、ほんの一部だけ、何かあるともうすぐクレームじゃないけど、それがとにかくやりにくい。

◎例えば夜に作業していたら「うるさい」とか◎ホコリだったり、圃場から出たときの土が道路に落ちているとか。

◎日が暮れるのが早いから、7時8時くらいにトラクター乗ると、文句言いに来るんだから。うるさいとか。

（風景社：同じような問題が、他の地区でも出

ていて新しい分譲地に引っ越してきた新住民から農家へのクレームが市役所や警察に行く)

◎そういうのは、市も住宅メーカーも不動産屋も悪いと思う。もともとの農業地帯で、農家の作業は色々あると説明しないとイケない。

◎開発だけしちゃってさ。住民に説明しないんじゃトラブルだって増えてくるし、農業への理解もできない。

◎麦とかダイズガラだとか燃やしていたら、通報されて、消防車が来た。

◎麦というのは燃やすんですよ。燃やしたほうが次の作のときにいいので。通報されてきた消防署も「いいですよ」というぐらいの感じのことだが。

(風景社：その反面、アンケートとかで、都市部とかそういうところからの声は、食料自給率が低いから心配とか、農家さんをみんなで支えていかなきゃと書いてくださる方も少なくはありません。他に農業に関してお困りの問題は?)

◎余っている米食えば、自給率上がるはず。あれも計算の仕方がおかしいのでは? 輸入した小麦食わないで米を食べれば、おのずと自給率は上がる。考え方も計算の仕方もおかしい。

#### 赤字前提の厳しさ

◎金にならないし休みもない。それで農業やる人は増えない。

◎みんな年間4000時間ぐらい働いている。いちごやって麦やって。

◎そこまで行かなくても、みんな3000時間以上は働いている。

◎15年ぐらい前は、頭のいい人はこれからは農業だと言っていたけれど、今は誰も言わなくなっちゃったじゃん。これから農業だなんて。企業は撤退していっちゃう。

◎問題は経費がすごく値上がりして、経費がかかっているのに、うわものが値下げみたいな

状態。だから魅力がないんだよね。後継者がやるかと言っても、息子がいても勤めていてやれないし、友達なんか人も人を雇って給料払えないと言っている。だから、自分たち夫婦でやれるところまでやるしかない

◎とにかく機械が高くなっていますよね。だから、やろうと思っても結局、機械代が高すぎて、それに見合った上のもの(販売価格)が入ってこない、子どもに後を継ぐか?と言えない。結局、赤字になっちゃってつぶしちゃう。そうするとなかなか進まないのが実情。

#### 「水田活用の直接支払交付金」の厳格化

◎ああ、今回みたいに耕作してない水田にも水を張らなくてはいけない<sup>註1</sup>。ああいう余計なことをやると、またややこしい

◎耕作できないから水を張らなかった分、そこに今さら水張れて、誰が張るんだって話。

◎いつでも水田に戻せるようにという形だろう。

◎そう。だから基準は1年に1回、水張りをしましたかというやつでしょう。

◎それで一番困ったのが陸田。

◎これはもともと畑に桑とか何かということで、田んぼを増やせ増やせということで、国で、陸田という形にした。陸田という地目はないんです。行政のほうの地目。

◎地目は畑だな。

◎田として見るわけね。

◎それで、陸田って田として見て補助金をもらえた。ところそれが今はもうない。

◎田を休耕しているのでそれに対して補助金、米を作らないからって補助金が出ていたが、それを減らすという政策が出てきた。

◎今度はそれそのものがなくなる。

註1の1：日本農業新聞・2023年12月29日

水田政策議論の難航必至

<https://www.agrinews.co.jp/news/index/205837?fbclid=IwAR2yuz5F5W7mnDC5aO>

[j3XMnFEiukFIqDn8utsiqvynACC5M3W2Ud2VnTKIQ\\_aem\\_Aediy2AGVPKefvS1Mfs0KL](https://www.agrinews.co.jp/news/index/205837?fbclid=IwAR2yuz5F5W7mnDC5aO)

[RSaDpRp7D1EWxc73GsUZJC1KAWc8Z4z\\_Piwe1SwfLyAw89WoAgR4By1NGoFNpUVg](https://www.agrinews.co.jp/news/index/205837?fbclid=IwAR2yuz5F5W7mnDC5aO)

[GU](https://www.agrinews.co.jp/news/index/205837?fbclid=IwAR2yuz5F5W7mnDC5aO)

.

註1の2：農水省・説明資料

<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/attach/pdf/230731-34.pdf>

.

註1の3

説明が分かりやすい真岡市ホームページより（更新：2023年09月15日）「水田で転作をされている農家の方へ 5年水張りルールの具体化について」

<https://www.city.moka.lg.jp/kakuka/seisanchosei/gyomu/20796.html>

道路環境の整備の遅れで危険な状態に

◎農家としても住民としても困ることは、絹地区はインフラ整備がいつでも遅いということ。後回し。道路の路肩は崩れちゃうし、要望したってやってもらえないし、田川の橋はいつ崩れてもおかしくないボロさのまま。

◎絹地区は全部川に囲まれているから、橋を渡らないとどこにも行けない。橋がボロくそ過ぎてさ。大型車はあそこしか通らないし。インフラがいつでも後回し、それで市道ばかりなんですよ。これ東西が。

◎南北は県道あるんですけど、東西が市道ばかりで。だから全然。歩道もないしトラクターも通行に危ないし。絹地区は何回要望しても、全然インフラ手を付けてもらえない。

◎絹地区は本当は大型通行禁止だから、この地域は。なぜこんなことになってるんだかと思うくらいですよ。

◎轍ができるばかりで。

◎いや、危ないよね。本当に事故る。というか、実際事故っている。

◎メインの通りが1本しかないから結局、朝、通勤帯の時間などだと、自治会の部落の中とかを大型車がすごい勢いで、小学生とかがいる中、走っていく。

◎大型が通る道路が1本しかないから。全部そこへ集中しちゃうから。だから、ある程度、どこでもこれだけの道路なんだ。今、路肩が悪いとかいろいろあるけども、道路的に広いんだから、広い道路ぐらひは通行してもいいような気がするんだけども。それにしても危ない。

◎萱橋までは歩道あるのに、絹地区になって歩道なくなっちゃって。トラクターの走行でも自転車を避けるのに神経使うし、お互いの危ないし。本当に絹地区はインフラが全然進まない。

農耕者優先のはずの農道、通り抜けの普通車とポイ捨て問題

◎道路事情では、農耕車優先道路という幹線道路なのだが、そこがもう乗用車の通行がすごい。

◎朝昼はつくばナンバーばかりで、通勤で使っているようだ。

◎一時停止なんかしないし、飛ばすし、農耕者が優先の道なのに。

◎逆に危ない、本当に。

◎農道が通勤道路になっているから。

◎ゴミのポイ捨ても半端ない量ある。

◎通勤途中に飲み物飲んで、ペットボトルや缶や瓶を投げ捨てていく。

◎パンパースまで落っこってるからね。

◎なんで缶酎ハイまで落ちてるのか。

◎田んぼや畑の中にも投げ捨てていく。

◎家庭ごみをぼんと捨てて行っちゃう。

◎瓶の割れたガラスが一番怖い。いろいろなドリンクのビンとか。ああいうのをポイ捨てだ。

◎ハウス際に捨ててあるやつ全部、中島橋上が

っていくところ。あそこに道から捨てられたんだから道に返そうと、全部返したこともある。

◎袋に入った状態で、家庭ごみを捨てているのは、たぶん毎回同じ人だと思う。同じところに捨てていくから。

◎ゴミ出し場に出すのが面倒だから、投げていっちゃう。

◎分別も面倒だから。

◎あまり人がいないところの農道はひどい。

◎古いトイレの便器、冷蔵庫・・・。

◎あと、銅線を剥いたもの、あれすごくまとめて捨ててある。

◎銅線を盗むでしょう。銅線を盗んできたら皮を剥いて、まとめて捨てて行っちゃう。中の銅はピカ銅っていうんで、売れるんだよね。ただの銅と、皮剥いたやつは中がきれいだから、それはピカ銅って言ってスクラップ業者が買い取る。値段が違う。キロ 1200 円ぐらいか。それで盗んだものをバイトか誰かに剥かせて、ビニールの皮、あれを丸めてその辺に捨てていく。そういうのもある。

◎銅線は、太陽光発電が、もう少しで開業するというときに盗むんだよね。

#### 絹地区での獣害や生き物

◎イノシシはいない。

◎ハクビシンとかタヌキとかが多いかもしれない。アライグマもいる。そこらへんが多い。

◎キツネがみんな穴掘っちゃっているところもある。

◎キツネが道の下をみんな穴ほじくってちゃうから、そのうち上、落っこちちゃう。

◎キツネは穴掘りがすごい。掘って巣を作る。

◎入り口こんなもんだよね。そこから先がどれだけ掘ってあるか分からない。

◎イタチもいる。

◎交通事故はタヌキが多い。アライグマも去年は 1 匹いたな。

◎イナゴも一時いなくなったけど、また出だしてきたよね。農薬が弱い農薬になってきちゃったから。

◎イナゴ、ザリガニも出てきた。一時いなくなったのに。

◎ホタルはもういなくなった。

◎延島小学校のところに、今から 8 年ぐらい前までいた。たまたま隣にお墓があって、そこにある排水溝だった。

◎水田が水流さないからな。どこも流さないから生き残らないんだろうな。川がないもの。その間がないから。

◎ハクビシンやアライグマは増えている。いちごの被害がある。

◎ハウスのビニールぶっ裂いて入ってきちゃう。

◎対策しても引っかからないんだよ、頭いいんだよね。

◎農政課で罠を貸し出してるけど、わざわざこっちから取りました。どうしたらいいですかっていうと、処分してくださいで終わり。

◎自分は、去年、罠で取った。餌は、コンビニとかで売っている、ジャーキーというか、硬い肉系の。

◎罠にかかったら自分で処分しなきゃいけないので、それが気が重い。はじめは生きていたからなかなか。怖いのもあるし。

◎だからちょっと息絶えてからやってみましたけど。本当は早めに処分した方がいい。なぜなら、ハクビシンやアライグマの子どもが見たとき、「これ、つかまるよ」と、そこで分かっちゃう。だから、本来であれば、はやく処分したいけど、何があるか怖いなというのと。

◎死ぬときって暴れるじゃないですか。それがフックみたいな指で、罠にひっかけてるから抜くとき抜けない。そうすると、自分の手でこうやって手をかけて外さないといけなくて、いやだなこれって。

- ◎ただし、道路、市道の道路に死んでいますよと連絡すれば、環境課で取りに来る。
- ◎生きてるのは持っていかないんだ。
- ◎ハクビシンやアライグマは、鬼怒川沿いの草地や藪のなかに棲んでる。
- ◎2キロ、3キロ夜中歩いたり。
- ◎たまに民家の屋根裏で入り込んでくる。農家の納屋に棲みつくのが多い。
- ◎いちごだか食べた後は、うんこもツブツブがいっぱいあるんだ。
- ◎それでハクビシンがいるなどわかる。
- ◎川沿いの自治会なんか、これが大変なんだよ。
- ◎とうもろこしかじられちゃったり。そういう被害が出ているんだけど。どんどん増えちゃっている。

#### 4：絹地区の農業面での良さ

- ◎絹地区は、今のところイノシシの大きな被害もないし、農業はやりやすいかもしれない。欠点は、いいものは、うまいものはできるが、見た目がみんな悪い。長持ちがしない。野菜なんかは。みずみずしくていいものなんだけど、お店なんか出すと、すぐしおれちゃう。そういうのは土地がよすぎるからというのもある。
- ◎味は、なんでもいい。
- ◎土地改良は進んで、平坦だから。
- ◎鍵の形をしているとか扇形とか、そういう形状の農地は少ないと思う。
- ◎農業者間でも、ほかの地区と比べると結構協力していることは多いと思う。
- ◎それはある。
- ◎協力し合うことを大事にしていることは確かだ。
- ◎同じ品目だったらその品目同士、作っている人同士でいろいろ情報を交換したり。
- ◎会ったときとかに、「これどうしてるの」と

- 言うとお互いが。うち是这样やってるよとかというのはやはり、仲間同士でも情報交換はしている。ただ、それが自分のところでぴったり使えるかどうかは分からないじゃないですか。圃場の土地の関係、位置とか向きとか。あとはその土の問題もあるし、土の質など、いろいろあると思うので。
- ◎部会でもいろんな話をする。
- ◎平均は60なんぼとか70なんぼです。
- ◎60代はいない？ 間をとって平均は60になっちゃうかもしれないけど、60代が一番少ないんじゃない。50代、60代は。
- ◎多いのは、70とかになっちゃう。
- ◎平均も70近いかもしれない。
- ◎下の世代、30代40代もいるに入るけど、数は多くない。みんな違う職種に就いている方が多いので。
- ◎70代は、会社勤めして勤めして定年して家業ついで農業やってる人も多いけど、これから先、そういう人は減るのかもしれない。
- ◎これからはいないのでは？ なぜかというのと、新しく機械を買うお金。1000万、2000万、すぐなくなっちゃう。それに対する売り上げを回収するのに何十年かかるんだということになる。
- ◎それに勤めていた人は今の夏は耐えられない。百姓できない。絶対やめていくと思う。
- ◎年々、夏は、きついきつい。
- ◎いちごは脱サラというか、そういう人も結構いる。制度資金も利用したりで、若い人はいる。30代、40代とか。
- ◎でも自分の資金ではハウス建てられないでしょう。
- ◎それまでみんな親がやっているものを引き継ぐとか、農地とか機械あればそういう人もやっていけるけど。
- ◎完全新規では難しい。
- ◎米麦はたぶんいない。米麦を真剣にやると言

ったら、資金がとてとてと。

◎1000万、2000万じゃ機械とか調達できない。

#### 5：市街化調整区域の問題

◎絹は、そういう人材の話をする前に、市街化調整区域で新しい家を建てられないことをなんとかしないと。農家の子どもでも他所の人でも、もうちょっと家を建てやすく考え直してくれないと、小山市も。

◎行政の問題として、空き家が出てくるわけで、空き家に来ればいいんだけど、若い人は空き家はやはり嫌なんだと思う。それで、集落にくっついてるような畑。地目が畑のところのうちを建てたいというと、それは駄目なんだよ。

◎それをもっと緩和してくれないと、どんどん人が減る。

◎家を作るにしても、集落排水をつなぎたいと言ったらそれは駄目だと。合併槽じゃなくちゃ駄目だと。

◎合併槽って浄化槽をつければいいですよ。それでもそういう人も買って入ってくる人もいるんだけど。

◎それだけで見積もり上がっちゃうからさ、小山のマンション買ったほうがいいやとか、そういうことになってしまう。

◎土地は安いから来たいんだけど、集落排水つなげない。そういう問題。空き家だったらつなげるんだけど。

◎同じ税金払っても、絹地区はメリットの受けられていない、なんにもない。

◎市街化調整区域の線引きなんかも、ある程度緩和していかなかったら。

◎みんな出ていっちゃう。

◎本当そう。

◎だから、本当の後継者はいいんだけど、農業の後継者もいなくなっちゃうでしょう。逆にこ

れが農家の実際の後継者もいなくなってくるから、そのときにやはり考えると、ある程度、ほかから入ってこられるような形を取らなかったらば。

◎それが結城は簡素化というか、簡単に緩和しているのではないかな。だからもう一気にアパートとかできて、ヨークベニマルの前なんかすごかったですから。ものすごかった。

◎子どもを見ていると結局、絹地区だけで一クラス30人いかないとか。これ、普通に考えたらおかしいですよ。僕らのときは、三つ集まってようやく3クラスできていたんです。90人ぐらいはいて。それが全部合わせて二十何人。これがずっと続いていたのでは、明らかにもう先細りだと僕は思うので。簡素化じゃないけれど、そこをちょっと何かないと、呼び込むにしても、排水の話、集落のこともそうですけど、そこも一緒にセットで考えていかないと、人は結局、減る一方。

◎子育て世帯は持ち家が欲しいわけだよ。その魅力がないと増えないから。

#### 限界集落への不安

◎70歳以上の一人暮らしというのはものすごく増えていますね。どこの地区でもそうだろうと思うけど。後継者が帰ってこない限り、そのうちはボツになっちゃう。そうすると年々これが増えてくるということは、集落自体が成り立たなくなってくる。

あと、学校の学区というのも、もう今だとなくなってしまう。だからやはり人の交流、人が入ってこられる、そういう形はやっていかないと、この地域は小山市の中でも一番早く限界集落がきてしまうのではないかと思う。

だって、開発できないんだもん。昔は田んぼ地帯だったから、開けていてよかったねという言葉もある。明治時代も大正時代は。山ばかりだった桑地区とかそういうところは、昔は大変だ

ったかもしれない。

今は逆じゃないですか。開発が楽だから。全部山を平らにして、工業団地なり住宅地なり作って。ここは昔から田んぼだったから、線引きが田んぼしかできないということになっていたから、全然開けないわけです。ここらへんはやはり考えていかななくてはいけないのではないかなと思う。

今、小山の城南地区だってあんなの雑木林ばかりのところだったんだ。人なんか住んでいなかった。それをああいうふうに来てきたわけです。でも、土地の制度があったからできたのだろうけど、この田んぼ地区については、そういう制度が駄目なんだよね。だから小山市は、このところを考えないといけない。

◎うちのところも、うちの集落は最高で80軒ぐらいあったときに、今は13軒くらい空き家とか、そういうふうになっちゃって。空き家問題ということで自治会もその問題というか考えているんだけど、これもなかなか行政の縛りか何かがあって、許可が下りない。それなのでなかなか増やせない。過疎になっちゃうよとみんな心配している。

◎本当に限界集落だ。だいたい3分の1は一人暮らし。

◎そうだね。そこに一人暮らしが10軒以上いて、二人暮らしがもっとあって。

◎あと、あれも多くない？

◎今後は絹地区に家や実家があって、長男は近くにいるけれども別のところに家を建てているとか、それも結構増えている。

◎かつては、中島は中島銀座と呼ばれていたのに、今は小学生もちょろっとしかいない。

◎何年か前までは小学生すごくいっぱいぞろぞろいたのに。何だ、これしかいないんだ。

◎一集落2、3人でしょう。子どもがいるのが。

◎うちの自治会はもう10年ぐらい小学生がいない。

◎百姓も自治会に1人か2人しかいないからね。

◎そうそう。いないところはいないし。

◎俺で終わりだから。

◎やはりあと問題なのは、農業者、今の話だと自治会に2人いれば本当にいいくらいなんですけど、1人となってしまうと、その人が、他の人が辞めちゃった耕地を、一人で背負っちゃうことにもなりかねない。その段階にきている。そこにきてさらに今度は行政も、では若い人を、例えば農業委員とかにやってもらいたいという話になったとしても、正直、今ある仕事をするのが実際、めいっばい。自分が動かなくなったら回らない。そのために、奉仕まではできないって僕は思う。

◎無理なんです。やってくれと言われるのはいいけれど、もうさすがに僕もそこは限界だなと思うのは正直あるなど。

◎規模が大きい農家にやってもらえばという安易な考え方では、基本はよくない。というか、絶対に、問題を根本的に解決できない。

◎地主さんが土地を貸すから、小作と言ってもらうじゃないですか。じゃなくて、貸すのではなくて管理をしてもらうから管理費を地主さんが払っているというところはあったね。

◎今は石橋あたりも増えてきたんですよ。

◎法人が絡むと面倒なケースも出てきている。現状の認識は、高齢者は小作に貸したら小作料をもらいたいというのがだいたいの本音。そこに借りるほうと貸すほうのズレがついてきているから、難しい面もあるんだけど。

◎地主だからって持っている時代じゃないからね。

◎農地が一番の不良債権だ。

◎若い人は相続することが不良債権をもらうことだと言う人がいる。自分はやっていないから。親の田畑を受け継ぐことは不良債権だと、固定資産税がずっとくるから。それで、土地改

良費払わないとか、そういう人もいるし。

◎いくらでもいいから買ってくれないかなんて話も出てくる

◎司法書士に聞いたが、親が生前の相談で息子に土地を分けてあげるからとか、娘に分けてあげるとか言っても絶対要らないって。金は残しておいてくれてもいいけど、土地は残さないでくれ、と。これが先にきちゃうと言っていた。

#### 6：30年後の絹地区・小山市

◎30年後、農業の経営もどうなっているか。たくさん人を雇ってすごい人もいるんだけど、みんながそうできるわけでもない。そうすると、これから先、維持していくのが大変かなという気がする。やはり人を使うことが一番大変だ。自分一人で仕事しているのが一番楽だ。やりいいからね。人を回していくというのはすごく大変だから。たぶんかなり苦労している。

◎都市部と田園部で考えると、街の中の御殿広場ばかりでイベントやるんじゃないって、絹地区とかでもイベント会場に利用してくれないと。商工会議所あたりでそういうこと考えて。みんな小山の街中ばかりでやっていて、もうちょっと絹地区とかにも持ってこないと。

◎この地域は生活するのにあたっての、できない面というのがものすごくある。特に多いのが、見て分かるように、絹地区にガソリンスタンド一軒もない。

◎だから、今度は田川全部埋めちゃって。田川なんて要らないから。

◎セブン-イレブンなくなったからよけい真っ暗だよ。防犯上よくないな、これとは思っちゃった。危ない。

◎いや、本当だよ。タクシーで帰ってくると、10時ころ帰ってくると、街灯一つついていない。

◎バスがこなくなっちゃったでしょう。同じ税

金払っているのに、みんな絹地区だけバス廃止されちゃって、年寄りがタクシー呼ばないといけない。あんな高いのに。

◎静かなところはいいんだけど。

◎高椅神社とかそういうお祭りの予算つけてくれたりとか、行事とかだってできるはず。

◎ああいうところでマルシェみたいのを開ければいい。せっかくあんな素晴らしい環境がある。イベントはなんでもかんでも小山のまちなかばかり。

◎絹は、大型バスが入ってこれないから観光の面でも人を呼びようが無い。

◎なんでこれだけの道路が走ってるのに、大型通っちゃ駄目なんだ。

◎鬼怒川の河原にゴルフ場をどうか、河川敷に。あとオートキャンプ場。

◎中島の橋の下なんか、勝手にキャンプだかなんだかやっているのがたくさんいる。

◎鬼怒川の河原。橋の真下の北側の林の中だね。

◎林の中でやってるんだよ。

◎あと、小山市は、オーガニックビレッジ宣言とかしたけど、これから先、あちこちでオーガニックとかやられると、（慣行農法の）百姓がやりづらい。オーガニックの特定地域を作ってくれと言いたい。オーガニックにこだわる人は今多くなってきているけど、隣は農薬使わない、でもうちは多少は使うとかになると、いろいろやりにくい。一方では空から薬まけ、一方では手間かけて有機でやれ・・・となっているのを、どうするのか。

-----  
4 | 自治会のリーダーの方々

絹自治会連合会から3名、絹地区まちづくり推進協議会から2名、元わがまち発掘事業推進委員会から2名、合計7名に参加いただいた。

実施：2023年12月13日 18時～19時30分

場所：絹公民館  
-----

1：参加者の方々と地区の関わり

◎生まれも育ちも絹地区、50代

◎71歳。60ぐらいまでは勤めていて、リタイアしてから家が田んぼとか持っているので人にやってもらいながら、地域のことなどやっている。

◎20歳まで桑に住んでいて絹に移ってきた。62歳で定年退職して、今は週2日ほどアルバイトに行きながら地域のことをやっている。

◎まちづくり協議会の事務局の立場でもあって、絹地区は絹地区全体のまちづくりを進めていこうということで全地区対象とした協議会。市内ではたぶん地域が一つのまちづくり協議会というのは、この地区だけだと思う。そういう意味ではやはり今回のこの風土性調査とまちづくり協議会の構想づくりとうまく一体となるような構想ができればいいと思う。

◎生まれも育ちもこの地域。60まで教員として埼玉のほうに行っていて、地元にはほとんど何も貢献をしていなかったの、辞めてから自治会長をやることから、いろいろな役を頂いて、今でも活発に活動して貢献したいと思っているところ。

◎地区との関わりとしては中河原地区のまちづくり活性化や絹中学校の後援会会長とか学校評議員とかをやらせてもらい、その間に平成18年に「絹ふれあいの郷」という農産物直売所の運営に携わっている。

2：地域の概況

福良地区・梁地区・延島地区

◎ここに育ちながら、いいところはいっぱいあるのにだんだん寂れていくこの地域を見ていて、非常に危機感を持っている。こういういい機会を持っていただいて、今後本当にどうしたらいいのか。絹地区の皆さんの一人一人が、この先この地域が取り残されてしまっているような、非常に寂しい思いをしておりますので、なんとか活性化していくための努力をみんなですしていく必要があるのかなと思っている。

◎福良地区は学校があり、それで出張所もある。福良地区はそういった形でにぎやかなところ。梁地区は梁小学校の跡地がベースボールビレッジということで、活性化に役立っているかなと思うが、私が一番懸念しているのは、延島地域。延島小学校の跡地が、地域のための活性化していただけるようなものになるかなと思っていたが、跡地が今のところ、私たちと全く無縁の（企業が入っている）状態になってしまっていて、再三にわたって地域のためになるようなものにしてほしいということで、前市長さんにもいろいろな要望を出したが、全くそれが実らず、今のよう形になってしまっている。それが非常に残念でならない。

◎延島小跡地は、中でたぶん向こうの梁小のほうのゴールデンプレーブスですかね、その会長の方がこちらを使って、黒玉ねぎとか、玉ねぎを黒く、栄養食品でしょうか。そういったものを作っているみたいだが、全く私たちは外からだけしか見ていないので、中で何をやられているかも全く分かりません。本来ですと、私がやっているような社会福祉協議会の会議などにもそこを使わせていただきたいが、どういった形でそこを使わせていただくようにしたらいいのかとか、それも分かりませんし、あそこを使えるのはたぶん体育館を選挙のときに使う

とか、後はなにか催しのときに使うぐらいで、校舎内は私たちは全く入ってもいませんし、どういふ状況になっているかも全く分かりません。本当に私もここに育って、あの学校ですつと過ごしてきましたので、こんないい学校をこういう形で埋もれさせてしまっているのかなという事で、非常に悲しい思いであそこの前を通っている。子どもたちが集まったり、お年寄りが集まってにぎやかにいろいろな楽しみをするとか、そういった場所にしてくれたら、もっとにぎやかな地域になったのになという気持ちがある。

### 水害への不安

◎平成 15 年の関東東北豪雨による水害、平成 19 年の台風 19 号による水害もあった。そして今現在そこに、田川と鬼怒川の合流地点に水門を作っている。われわれとしては、田川整備促進協議会でポンプを付けておくれと要望していたが、それもままならずなってしまう。もしも水門を閉めた場合に、上から流れてくる水が行き場を失ってしまう。今後、田川の水害から地元地区を守るために、整備事業を進めていくことが必要な状況。

### 3：超少子高齢化が進む状況と、祭りの衰退

#### 子どもが減り、祭りが成立しなくなる

◎そしてやっぱり、子どもが少ない。その原因は過疎化。過疎化で若い人たちにとって魅力がなく、外へ出ていく。子どもがいなければ、当然、祭りごともしない。ほとんどの祭りがなくなってしまっています。

◎子どもみこしだなんだと、昔はそういったものもやっていたが。

◎延島銀座に神輿もあつたりしたので、それを出したりとか、お囃子もやつたとか。あることはやつたのですが、そういうのは全部なくなり

ました。

◎コロナが五類になってから、中河原ですが、今年、4 月第一土曜日か、日曜日やったのかな、神明宮という神社があつて結城七社の一つになっているのですが。その例大祭ということで、そのときに神社で子どもたちを集めて、お囃子をやつて、神社の中だけを子どもみこしを担ぎました。

#### お囃子

◎お囃子も以前は、いろんなところでやっていた。ありましたよね。

◎中河原でも子どもたちとは別に若連といって、もう 25 年か 30 年になるが、今月の 8 日に若連の解散式をやつた。人が減つたので、今度は中河原自治会全体の氏子自治会と氏子中心のお囃子会ということで 1 からまとめて出直し。それを今度始めるようになって、今度始めるところで 14 日に自治会の呼びかけで、子どもたちと一緒にお囃子の練習会をやることに。ただ、子どもが少ないので・・・。

◎人がいなくなるから解散ということでは、伝統が消えてしまうということで、お囃子の存続ができないということで、これから若い者と一緒にお囃子を作つてもり立てていかなければいけないのではないかという自治会長さんの提案から始まつて。ではそうしようということで、われわれもそれに賛同して、若連は解散して、自治会が主体となつてお囃子を継承していこうということ

#### ぼうじぼ

◎舟戸の北の方では、子ども会、育成会で十五夜の時だつたかな、わら鉄砲で「ぼうじぼ」をやっている。地面に向けて「大麦あたれ」「小麦もあたれと」「三角畑のそばあたれ」と言いながら地域を回る。庭先でポンポンやつて、お駄賃をもらつて帰っていくような、そう

いう行事も私の子どものころからずっと。それが、私のころは子どももいっぱいいましたので、30人ぐらい一挙に回っていたのですが、今は本当に保護者が入って保護者のほうが多くらいで、子どもが本当に6人か7人くらいしか。だから、あまり活気もなくて。回ってきてくれるのはありがたいが、ちょっと寂しいなという感じがして。でも、そういうのは残していきたいもので。

◎延島は下のほうでやっている。

◎下高椅もやっている。

◎冬の時期、十五夜と十三夜というのものもあるんですね。そういうときにやっている。

◎わら鉄砲は、基本や各家庭で親が作って子どもにというのだったが、今は若い人でそういうのできる人がいなくなってしまって、お年寄りに作ってもらったりしている。でもその、お年寄りでも、昔はしめ縄も神社にやるやつも、地域の中でできる方がやってくれているんですが、最近はやれる人がいなくなってしまって、鳥居のところにさげるしめ縄なども、できたやつを買ってきてさげるようなことになるところも。

#### 4：過疎化が進み、生活環境が悪くなっている状況

##### 農業の衰退・生活インフラがない

◎風習が廃れていくのは、子どもがいないというのは一番の原因かもしれないが、やはり昔も子どもは、わら鉄砲は作れなかった。みんな親たちが、おじいちゃん、おばあちゃんが、おばあちゃんはやらなかったかもしれないけども、作ってあげていた。ところが今は、大人たちも忙しいし、子どもたちとなかなか関われない。だから、そういった伝統行事的なものも、親が子どもたちに関われないから廃れていくという原因もあると思う。

だって、育成会にしてもPTAにしても、親たちが子どもになかなか関われない時代になってきてしまっている。そういう意味では本当に、まつりごとにしても、親たちが大人たちが大変だからみたいな、そういう意識が強くなってしまっているとも私は思っているところもあるのだが。

それが時代なのかもしれませんが。農村地域はほとんどが専業農家ばかりではなく、兼業農家を含めると、ほとんどの家庭が農業に関わってきた。ここは特に。それと、結城紬があったものですから、今でも少しは残っていますけども。ですから、この地域の経済は農業と結城紬で、いわゆる農村地域としては、結城紬があったことで出稼ぎに行ったりというのは、今もほとんどない地域なんですよ。ですから、経済的には同じ農村地域の中では恵まれている地域だった。

◎そういう地域柄もあった中で、今はもう農業がご案内のように、国の政策もそういう方向だからだけでも、要するに、大型農業、大型経営、集約して、専業農家だけに農業をやらせていこうというような国の政策があるから、ここで土地を持っていても、その土地を守っていくという、そういういわゆる文化というか、そういうそれぞれ土地を持っている人たちがそういう意識がなくなってきてしまっている。全部、耕作してもらっている。そうすると、ここに住む必要がない。土地があるからここに住んで、土地を守ってというのが、私などはその口だったが、そういうものだった。

◎今はもう、大きな専業農家に自分の土地をほとんど耕作してもらってしまっていると、ここに住んで土地を守る必要もなくなってきてしまう。そういう悪循環なところも、この地域の中の今の寂れていく一つの原因なのかなと思っている。

◎ましてここは、生活圏がほとんど結城なんだ

よな。

◎生活全てが、買い物もなんでも主流は結城。ガソリン入れに行くのも結城。小山までは行かない。そういった環境も含めて……。ここが潤っていれば、お店があれば、そんなことにならないんだけど。

◎セブン-イレブンもなくなっちゃった。

◎今のスタンドの話だけど、農協もなくなつた。ATMが1台だけ残っている。今日も自治会のいろいろ支払いで、農協へ行ってきたんですけど。

◎なんとか要望書を出したりして、ATMだけは残ったが、農協もいわゆる民間といえば民間だけでも、ここは本当に農業が多くの上業の地域ですから、農協も支店なり出張所なり、なにかの形で地域には残るようなことにして欲しかった。ライスセンターがあるんですから。そういう意味では、農協は民間とはいえ、半分官的なところもあると私は思っているのだが。

◎あと、福祉の面でいうと、ここの地域には医療機関がない。ほとんど結城のほうとか、あるいは下野市とか、そういったお医者さんに行かなくてはならなくて、これから先のことを考えると、自分も年取ってきますから、そんなときに近くにお医者さんがいてくれて、何かのときにちょっとでも行けるとか、来てくれるとか、そういった方がいらっしゃったら、すごくありがたいなというのはある。とても不安。

◎お店であるのは食堂1軒、2軒か。あとは床屋さんは何軒か。

◎床屋さんは全部で4軒か。

高齢者の移動や買い物の問題～社協の取り組み

◎免許返納する高齢者の移動の問題もある。それは絹の社協の方で今、検討しているのですが、まずお年寄りで病院に行けない。行きたいけれど、デマンドを頼んでも時間どおりに来なかったり、何人か乗せないと行かないとか。あ

と、病院が終わってすぐに戻ってこられるのではなくて、何人か乗っているの、グルッと回ってくるから時間がかかるとか。

あとはタクシーなどを頼むと、例えば市民病院に行くのに5,000円ぐらいかかるんですね。そうすると、診察料よりもはるかにかかってしまう。だからばかにならないの、ということで、一応、社協のほうで、最初は無料ボランティアで病院に移動支援をするようにしていた。かなり今、利用する方が増えてきている。

ただ、ボランティアで運転してくれる方、それが少ない。皆さんお勤めしているので、本当は50代とか60代とか、私などは70を超えているのにやっているんですけど、そのうち、逆に乗せてもらうほうにならなくてはいけないのですが、いまだに運転して、病院まで届けたりしている。そういったところもお年寄りからすると心配なところがあるかなということですね。

◎はじめは無料だったが、乗せていってもらって利用者さんのほうが、タダだと申し訳なくて乗り心地が悪いと言うんです。では、ワンコインの500円ぐらいだったらどうかなというのでお話ししたところ、それでも少なくていいけど取ってもらったほうがありがたいというので、一応1回につき500円。距離はどこでも同じなんです。

◎今、それ、運転手が不足ということ。

◎そうですね。そうそう。

◎今の話なんですけども。私は今日、たまたま福祉協議会の総会が中央公民館であったんですね。今、話をした500円。ガソリンは自分もち、保険も自分もちということで、ではそれでやる人いるんですかという話になり、小山市内だと今、8人、そんな数少ない。

◎ええ。ただ、私どもは保険は個人というわけではなくて、一応、市のほうの社協で、全て団体に入ってもらってしまっていて、利用者さんもこちらで入ってもらっているから、何かあったと

きにはそこから出せるような形にはなっていない。

◎地区社協が、この地域もやってくれているのですが、今、小山市の地区社協は法的裏付けがないんです。小山市社会福祉協議会の下部組織のような組織に地区社協もしていかなないと、事業も限られてしまうし、要するに事業できないですからね。そこはこれから小山のいわゆる社会福祉協議会が、地区社協を下部組織にするような動きをしてくれなくてはならないのだろーと思っっているのですが、なかなかそれが小山の場合には・・・。

◎地区社協は法的裏付け全くないですから。

◎そうなんです。社会福祉法人を取っていないんです。NPO 組織でもないし、非常に大変な状況の中で活動している。

◎市の社協から一応、活動費ということで年間10万ちょっとぐらい頂いている。

◎それで結局、1回ガソリン代といっても500円を利用者さんから頂きますけど、1回につき1000円にするようにして、活動費からあと半分500円をだし1000円という形に1回につきお支払いするような形に。

◎あとは会長がよく市役所に会議だなんで行きますが、やはり車でいきますが、そういったときに、1回につきいくらというお金も一切取っていない。そういうのにかけてしまうと、ほとんど活動費がなくなってしまうので、それもできない。そんな中で、なんとかボランティアをやってくれる方の募集とチラシを出しても、やりますよという方はなかなかいないですよ。

◎病院だけでなく買い物とか、あるいは役所に届け出に行くのに、やはり足がないから行けないので、乗せて行ってほしいとか、そういった要望も今、利用していらっしゃる方から多く出ている。私は民生委員もやっているのですがよく回るのですが、お年寄りからはそんな要望が出

ているが、ただ、今は病院に行く、送っていただくだけでも、やってくれる人が数人でやっているものですから、買い物も、それ以外のこともなかなか難しいので、本当はやりたいですが、今、病院への移動支援だけということを進めている状態。

◎昔は移動販売も来ていた。豆腐屋、魚屋。刺し身などは庭先で切ってくれたり。納豆屋さんもきていた。今は全くない。

◎そういうことをしてくれる個人のお店がなくなっちゃった。みんなスーパーばかりで、酒屋さんがなくなり、魚さんがなくなり、ガソリンスタンドがなくなり。農業もそうだけど、要するに個人の小さい商売なんか、みんな淘汰されてしまっているわけ。

◎昔はこういう小さな地域にも、洋服屋さんもあり、酒屋さんもあり、食堂だって何軒かあり、みんなそういうのがなくなってしまった。酒屋さんはいろいろな配達までしてくれた。

◎あと、お年寄りの中に買い物に行けないので、われわれが乗せて行ってあげればいいんですけど、それもできていないので、移動販売してくれるような、車でどこかのコンビニで始めたところがあるのですが、そういう形で回ってくれる、そういったのができれば、またそれも高齢者の方にとってはありがたいことかなと。

◎全てのものを持って歩くことはできないので、特に必要なものを前もって注文を受けて、それを配達してあげるとか、そういった形のものでできないと、お年寄りが一人暮らしなどをしている方もいますので、非常にこれからは困ったことになるのかなと思う。

◎今は、ほとんどが結城の店に買い物に行く。

◎結城に行く路線バスもないから車が頼り。

◎延島などは結城にも行きますけど、下野市が多い。

◎絹は、南北に長いからな生活圏も変わって

る。

#### 医療・病院

- ◎絹の人が病院に行くのは、7割方、結城とか下野だと思う。
- ◎だから病院では、窓口での小山市の助成の現物支給ができない。
- ◎結城に行ってしまうとそれができない。下野は県内だからできるんですが、結城は県外なので、現物給付ができないんです。これが問題。
- ◎問題だよな、これがな。親御さんたちは大変だ。
- ◎われわれもインフルエンザの注射をやるのに、小山だと1500円でできるんですけど。
- ◎結城だと4000円ぐらい。
- ◎差額は、改めて小山市に請求して戻ってくるが、自分で申請しないとイケない
- ◎市内の病院だと申請しなくていい

#### 5：市街化調整区域と道路の不備で、過疎化が進む

##### 地域に福利をもたらす道路がない

- ◎農業も、今は、いちごだけではないか。
- ◎あとは、ねぎ。
- ◎林だったところも、太陽光が作られちゃったり、増えてきた。
- ◎かなり前から進んでいますよね。
- ◎みんな林は持っていて、管理はほとんどしていないから。
- ◎あとは、田園地帯といっても、里山があるとか、棚田があって、そういった皆さんが来て、見てもいいなと思うような景色ではないですよ。ただ田んぼがあるだけの話で。特別何かをやっているわけでもないし、そういうところがちょっとね。昔と違ったところなんですかね。確かに自然はいっぱいありますけど、木がいっぱい生えているからいいというものでもない

し。

- ◎この絹地区という全体的に、田園環境にはあまり向かないように思う。農業一本で生活していける土地がまずないですよ。西のほう、向こうのほうの地域とは、全く別だと思うんですね。農業で生活はしていける地域ではもともとない。昔は先ほど出た結城紬が、機があったから養蚕を含めて生活できていたんだけど、今はここで生活は無理ですよ。
- ◎なぜかという道路がないんです。まっすぐな大きな道路がないから、人が入ってこないし、発展しない。
- ◎市街化調整区域が一番原因。その調整区域を外せば。
- ◎西のほうへいくと田んぼの中にいい道路があちこち。全ていい道路です。ああいう道路がないから、よけいこれが発展ができない。まず発展するには道路だと思う。
- ◎道路の問題と市街化調整区域の問題。
- ◎ここから西、1kmも離れていないですよ。結城市に茨城県に入るでしょう。アパートがどんどん今は建っている。駅から近い遠いは今は関係ない。
- ◎こっちはもう全然、昔から一つも変わらない。
- ◎そのまんまだ。われわれ子どものころと。
- ◎私たちが子どもの頃と何が変わったかと言えば、うちが建て替わったぐらい。道路がよけいにできたわけでもないし、病院ができたわけでもない、分譲地ができてアパートができていない。
- ◎私のところは北のほうなんで、下野市にもくつついている。あそこは道路の整備は今もやっているが、住宅はどんどん増えているし、本当にここ何年か間にまるっきり変わってしまった。
- ◎こっちは、大型車が入ってこれない。
- ◎うちの地区は県道はあるが、大型車は入れな

い。県道がそういう状況。

◎小山のほうに、街のほうに抜ける東西の道路は、県道は一本もなくて市道だけ。そういう道路事情はこの地域は非常に悪いですよ。だから、整備がなかなかできない。市道だから金がない。

◎運動公園、小山高等専門学校の前の道は、この地域では高専道路と言っているんですが、これは非常に交通量が多い。でも、途中、整備されていないんです。この地域だけ。

◎結城まではいいんだけどな。小山市のほうが駄目。整備されていない。

◎これが市道なんですけど、小山市道で大型車の交通量が一番多いと思うんです。50号のバイパスになっちゃってる。

◎抜け道です。

◎今はその整備を市には要望しているが。本当は県道に格上げをしてもらえれば。

◎あとは11号な。東西に走る

◎地区のまちづくり構想の中でも、東西の道路は11号と19号、やはりその幅は入れようという話が出て、縦の県道がなんとか一本。

◎これ、何回言っても駄目。

◎集落が張り付いちゃっているから難しいそう

#### 市街化調整区域の弊害と上下水道の問題

◎それに、ここは調整区域だから集合住宅はできない。若い人が入ってくるのも無理。戸建ての空き家を貸してとかというのはできるけれど、貸す目的では新築はできない。

◎一時期、下梁のほうで家ができたことがあった

◎増えたのは私の自治会。昔の旧家は大きな土地を持っていて、全部宅地なわけです。そこを結城に一番近いところなので、50戸連担といって、開発ができた。それで大きな宅地を分譲して、二十数軒ですか、平成2年、3年、4年。そ

こらへんで。

◎そこからすると、30年ぐらいたつんですか。空き家になっているところもあるのですが、空き家でも新たに求めやすいわけですよ。なので、その空き家が逆に売却できてしまって、移り住んできた人は、地域の行事とかにはなかなか出てこない。

◎空き家が増える一方ですから、その空き家の利用もこの大きな課題だ。

◎あと、絹のここの土地が買えたとして、新しく家を建てる人がいるだろうか。

◎下水道も入れないしね。

◎ここは、集落排水だから戸数が八十何戸とか決まっています。

◎ああ、決まっているからね。

◎それ以上の能力がないということで、駄目になっちゃうの。集落排水。

◎仮に新築して引っ越してきても、なかなか許可になれないんだ。

◎排水の処理能力が決まっているから。だから、多くはできないんです。

◎必ず浄化槽を設けて、そこで処理するように。

◎上水道は、簡易水道。

◎うちのほうはみんな地下水を使う。

◎悪いものが中に入っていたりするとまずいので、結構きれいな水はくみ出しているんですが、時々保健所に持って行って、水質検査をしてもらって。

◎1カ月に1回やっている？

◎1カ月に1回ぐらいしないと、やはりどこで染み込んでくるか分からないというものもあるから。市の水道がこっちにきていないというのがね、まず危険だろうと思う。

◎中島は、戸数が多いので、だからあそこは多いので、保健所のそういった関係で飲料水規定が厳しいんだって。1カ月に1回では駄目、週1回ぐらい保健所に届けているらしいよ。

- ◎それはお金は自己負担？
- ◎自治会で。
- ◎それもひどいんじゃないかという話をしている。
- ◎個数によって違いがあって、うちは、2年に1回、3年に1回は50項目をやるのかな。
- ◎50項目。
- ◎うん。毎年は10項目だか11項目の検査。それは保健所でやってもらいますけど。50項目は業者に委託すると12、3万かかるんです。
- ◎延島は共同水道が無い。
- ◎各世帯で、井戸。
- ◎結構ね、いちごの農家が増えてきていて、汲み上げるんですよ。たくさん上げられちゃうと出なくなっちゃって、逆にもっと深くしないと家庭の井戸は水が出ない。
- ◎そうなんです。何回も取り替えなくちゃならない。大変。
- ◎全体的に水位は下がってる。
- ◎田川の水が相当少ないな、浅かったからな。
- ◎悪いところばかり。
- ◎うちのほうの自治会では、もうかなり年数たっているんです。簡易水道を始めたのが早かったから。そういった関係で、もういつまでもつか分からない状態です。
- ◎1基だけなんですか？
- ◎1基だけでも、ただ、ポンプは余分にあるんだけども。
- ◎ポンプは、停電では止まっちゃう。
- ◎モーターが動かないですから。
- ◎市の水道は田川の向こうまでしかきてないから、絹ふれあいの郷は？
- ◎きている。ただ、田川を越えてないからね。
- ◎工業団地は造成するので、水道を県道まで引いている。
- ◎西高橋は唯一、市水なんだ。
- ◎高いでしょう。農家の人、市の水では高くして使いきれないって言っていた。水いっぱい使え

ば、今度は排水にも金かかる。大変だろう。農業は水がなければ仕事にならない。

#### 若い人の流出～地域活動の負担

- ◎若い人は、結局、大学を出て就職は主に東京になってしまうと、ここに戻る必要はないし、でもここから通えるところに勤めていても、不便なところよりはうちを作るのだったら結城につくってしまうとか。今はもう同居をする人は本当に少なくなっていて、例えば、親と一緒にといっても敷地の中に立てて、二世帯という生活形式になってしまっているから。
- ◎うちのほうの自治会では、若い人がいなくなっている理由の一つに、自治会で毎年いろいろな役を決めていくわけですが、その役が結構多い。若い人は、できるだけ、そのような地域の役は避けたい。仕事も忙しいし、仕事を一生懸命にやるから、地域の会合にもあまり出られない。しかし、人が足りないので、住んでいる限りは無理矢理でも何かに就かなければいけないと、1人、若い人から決めなくてはいけないとなったら、誰かやらなくてはならない。そういうことが負担に感じて、地区の外に出て、ある程度の年になるまでは帰ってこなかったりとか。あとは両親がかなり高齢になってからでないと来ないとか。自分の子どもがある程度大きくなって自立してから、では戻ってこようとか、そんな感じになっちゃっている。
- ◎自治会の総会を開いたって若い人はいないし、本当にじいちゃんとかばあちゃんだけで会議を開いているような感じ。
- ◎消防団の話が出たけど、今年、消防団員への手当ての補助が半分になった。
- ◎この間もその集まりがあって話したときに、それではよけい団員が集まらないという話をしていた。
- ◎消防団も、地域によってはだんだんなくしていく方向でもいいのかなと思う。消防団とし

て、火の用心と言って回るとか、その程度はできるにしても、仕事をやっているときに、正規の消防職員ではないから、火事があったってすぐに招集して来られるわけでもない。ただそこに消防車があって、それで見回りとか何かをする、休みの日にやるとか、そんな感じだけだから、さほどの負担や仕事量はないかなと思うんですが。ただ、それでも負担に思っている人が多いみたいで、やり手がないのが実情・・・。

空き家への移住者が地域に馴染んでいる例も

◎タイプにもよると思う。空き家を買って外から移り住んだ家族で、お父さんが社交的な人がいて、40代かな、この夫婦は地域に最初から溶け込んでいる感じで、性格的にも社交家なので、地域とも交流も積極的だし、消防団も入ってくれた。

◎うちの方にもいるな。やっぱり空き家を買って、そのうちそこに新しく家を建てて。地域との交流も積極的で、すぐに絹に馴染んでくれた。

◎市街化調整区域でも、空き家を買って、そこに移住してくる事はできるわけだから。

◎市でも空き家バンクでやっていますけども、なかなかやはり情報が行き渡っていないのかな。

◎空き家は増える一方。新たに分譲で新しい家ができると、その分、空き家が増えてくるわけですから。本当に空き家対策は大きな課題です。街中だってかなり空き家があるわけですからね。

## 6：絹地区をどう活性化していくか～都市部との交流

◎うちの近くの下野市のほうですが、農協の倉庫だったところ、あそこをレストランにして、地元の野菜や何かをふんだんに使ったメニュー

があったりとか、遠くからも客が来て、車がいっぱいいっぱいなくらいに、にぎやかになっている。

吉田村ビレッジ <https://yoshidamura.com>

◎そういったものを誰か進めていけばいいのだが、口コミでおいしかったよなどということがあれば、どんどん人が集まってくる時代だから。

空き家なども使って、そういったビジネスをやってみるとか、そういう方も出てくれば、もっとにぎやかな活性化した地域になっていくと思う。なかなか、やりたくても、私がもう少し若かったらやってもいいのになと思うのだが。延島小学校の跡地も、もっと若かったら買い取って、地域の活性化のために自分でやってもいいかなと思っていたのだけれど、それもかなわないことになってしまった。

◎「歳時記ウォーキング」という資料も、私たちは「わがまちげんき発掘事業」という事業がありまして、そのときにここに会長がいますけれども、一緒にこれは作ってきたものなんです。いい場所はたくさんある。でも、そこに外部から来て、見に来たりだとか調べに来たりだとかしているのはほとんど見たことがない。私も息子も作成に携わったが、一緒に回って、一つ一つ細かく調べたりもしたんです。いいところはたくさんある。有名なのは高椅神社だが、それ以外のところでもあるのに、絹地区の中でもそんなところがあるのかなというような感じで、ほとんど埋もれてしまっているような気がする。そういったところもなんとか外部の人たちを寄せて、せっかくウォーキングのコースを作ったわけで、そういったところに外部の方に来ていただいて、楽しんで回っていただけるようなものをぜひ残していきたいという気持ち非常に強くある。

◎未来のビジョンについてというところで、都

市部と田園部はこれからどんな関係をというのですが、都市部の方は田園のほうにそんなに来ていると思わない。思えないんです。向こうは新幹線に乗ればどこも、東京でもすぐ行けちゃうし。ただ、やはりにぎやかにするためには、小山市に住んでいる都市部の人の日曜日とか休みのときにこっちに来て、何か楽しんで帰っていくとか。あとは地産地消ですね。こちらで作っている野菜なども新鮮なものがいっぱいあるわけですから、そういうものをどこかで買っていってくれるとか。そういった形で、市内でもう少し交流ができるようになっていかないと、田舎は田舎、都会は都会と線引きされてしまうと、ますますこういうところは開けていけないというか。明るい未来にならないというような、そんな気がしている。

(風景社：小山地区のインタビューでは、首都圏から小山駅前のマンションに移住してきた方が、地元の農産物を買ったり、いろんな楽しみで、絹のふれあいの郷によく行くとおっしゃっていました)

◎そうでしょう。あそこは、農村と町の交流ということで、その目的で作ったところなんです。

◎私は今年の寺野東遺跡の「縄文まつり」に担当でちょっと関わったが、100mくらい先にある思川桜、あそこへ歩いて行っただが、ちょっと草が生えていて寂しい限り。あそこはたぶんキャンプ場をやったら人が来ると思うのだが。

◎担当するのがどこになるか民間なのかはわからないが、筑波山は見えるし、前はいい景色。

◎景色いい、眺めが最高だと思う。

◎茂木の山の中の方だって、キャンパーの若者が来てる時代だから。

◎昔、散歩道にするという話があったじゃないですか。

◎あれは止まっちゃった。

◎犬連れて散歩する人もかなり来ている。公園

の中でなかなか犬を散歩できるところがない。あそこだけは本当に夕方、朝、散歩が多い。犬連れて。あそこをもっと何か売り込む方法がないのかなと思う。

公共施設やイベント会場を都市部に集中させない

◎あとは公共の施設というか、そういう場所が都市部のほうにばかり集中していますから、いろいろなところに、小山市のどこに住んでも同じように生活できるように、そういった施設をもっと分散すべきかなと思う。

◎博物館にしても何にしても、間々田のほうのあちの一つだけですけども、この中にそういうものを作ってもいいかもしれないし、何かももっとも人が集まるような。

◎ただ、ちょっと心配なのは、寺野東遺跡の縄文まつりしましたけど、あそこにも展示してある施設はあるんですけど、行っても見学に来た人の名簿を見ても、1年に本当に何十人ぐらいしか来ていないようなところ。場所もよく分からないような状態で、ああいう状態になってしまったら、せっかくそういう施設を作っても意味がなくなってしまうんですけど。もうちょっとなかさういった施設を、公共の施設を、なかなかこういう農村地帯に作っていくのも大変かもしれないんだけど、人が交流するためにはやはりそういったものがないと、こちらがただ行くだけ、向こうからは来ないというのだと、お互いがそのよさが認められないのではないのかなと思う。

◎花火を思川のほうでやっていますが、あれを3カ所に分けてやったんですが、ああいう形でやると、またこちらのほうの人は、あれで結構見に行ったり何かしていましたけど。

◎あの花火は人気あった。どこへ行ってもあれはよかったよかったと。結局、年寄でも今までは行けない人が見られたわけ。それがよかった

と、あの花火大会は評判よかった。

◎今の話のように、いつも同じ場所でやるのではなくて、今年は向こうの思川の西のほうとか、今度は東のほうでやろうとか、そういった場所をいくつか作っておいて、ローテーションでやっていくのもいいことだと思う。

◎きぬの里という老人施設があるのですが、その少し奥のほう、竹やぶになっているんですが、こんもりとした古墳らしきものがある。それを調査に行ったが、あそこは竹やぶになってしまってもう相当根が張ってしまっていますが、かなり珍しい上円下方墳といって、下が四角で上がマルになっているそういう形の古墳なんです。高橋神社の前身というか、大元があそこにあって、それでこちらに移したという説もある。掘り出すと何か残っている可能性もあるので、なんとかちゃんと調査ができないものか。

◎中河原と福良橋では、どんど焼きもやっている。うちの方では、10月にわら集めをやって、今、わらを保管してあるが、ついた餅を各家庭に5個ずつ配って餅を持ってきて焼いて食べて病気になるようにとということをやっている。コロナを早く退治しましょうということで、そういう趣旨を持って今、どんど焼きをやっている。うちのどんど焼きは今までは育成会が主体でやっていたが、育成会が人数が少なくて、育成会ではできなくなってしまった。今、ここ4年ぐらいは、5年かな、まちづくりが中心となってやっている。

今は、思川でも、どんど焼きやっている。どんど焼き。あれは前の市長が、うちの地区へどんど焼きを見に来て、それで思川の道の駅のどんど焼きが始まった。うちのほうは昔から、われわれは子どものころからどんど焼きをやっていたから。かなり長い伝統がある。

◎この前、市民フォーラムというのがありまして、市長さんをはじめ、部長さんたちがいらっ

しゃったんですが。最後に市長さんのお話があって、その中で非常に印象的だったのが、地域でこうしてほしい、ああしてほしいという要望をだけ出すのではなくて、私たちもこういう地域にしたいという努力をしているから、なんとか市のほうでも協力してほしいという要望の仕方はいいけれども、ただ、これをやれ、あれをやれと言うだけでは、難しいと、そういった類いの話をなされたと思うんですね。私は全くそのとおりで、その気持ちはあっても、みんなが一つになってこうしくて今はこういう努力をみんなでやっているから、なんとか助けてくださいとか、そういったものがないと、なかなか達成しないと思う。市長さんはいいことをおっしゃったなと思って。私は最後のまとめでそういうお話が聞けたので、今後本当に地域のみんなが、このままだったら大変な地域になってしまうという危機感を持って、本当に頑張っていないとまらないのかなと痛切に感じました。

### 3-2 アンケート調査結果（概要と考察）

絹地区で実施したアンケートについて、ここでは、主要な設問の結果について概要と考察を掲載する。設問内容によっては、既に調査を終了した他地区の結果との比較も行う。

質問票と、単純集計・クロス集計の詳細、自由記述を書き出したデータは別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載する。

#### 回答数/回答率について（再掲）

- ・紙の調査票による回答：948  
調査票での回収率：70.0%
- ・インターネット回答：21
- ・合計 969 件の回答

#### 1：回答者の属性について

##### 1-1 設問【1】の集計結果

###### -1 性別

男性 62% :604名	女性31% :297名
--------------	-------------

その他2名 無記入66名 無効0

###### -2 年代

70代以上	42%	406名	70%
60代	28%	268名	
50代	17%	165名	24%
40代	7%	66名	
30代	2%	20名	8%
20代以下	6%	43名	

無記入34名 無効4名

###### -3 世帯人数（回答数が多い順）

2人世帯	30%	294名
4人以上世帯	28%	265名
3人世帯	21%	204名
本人1人世帯	14%	137名

無記入24名 無効0名

###### -4 職業（回答数が多い順）

無職	38%	364名
会社員	24%	226名
パート/アルバイト	12%	117名
自営業	7%	69名
農業（専業）	7%	67名
農業（兼業）	4%	42名
公務員	2%	19名
団体職員	1%	9名
学生	0%	1名

その他13名、無記入39名 無効12名

調査票での「無職」の表記は、「無職（退職者・主婦・主夫等含む）」

###### -5 お住まいの大字

###### -6 地域活動の経験

>別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載

-7 絹地区との関わり～回答が多い順（選択肢から選ぶ方式） 無記入 47 名、無効 7 名

絹地区で生まれて、一度も地区外で住むことなく、今に至る。	383 名 (40%)
絹地区で生まれて、就職のために地区外へ出て、戻った。	136 名 (14%)
絹地区で生まれて、進学で地区外へ。のちに戻った。	66 名 (7%)
絹地区で生まれて、進学、就職で地区外へ。のちに戻った	37 名 (4%)
小山市の他の地区で生まれ育ち、絹地区に移り住んだ。	68 名 (7%)
栃木県内の他の市町で生まれ育ち、絹地区に移り住んだ。	81 名 (8%)
栃木県外で生まれ育ち、絹地区に移り住んだ。	144 名 (15%)

●出身地別の内訳

集計結果を、生まれた県や市町でまとめ、その割合を見ると、このような内訳になる。

栃木県外で生まれた	15%	23%	
栃木県内の他の市町で生まれた	8%		
小山市で	他の地区	7%	72%
生まれた	絹地区	65%	

●コメント欄の記述

絹地区に他所から移り住んで来た人やUターンした人には、コメント欄にその理由を記入してもらった。(コメント回答 156 件)

主な理由を表に挙げ、コメント欄の記述から一部を紹介する。

コメント要旨	回答件数
①実家や親との関係で	55
②結婚に関する理由で	43
③仕事の関係で	32

●絹地区へUターンした人の記入コメントより

①実家や親との関係で

◎親に強く言われた ◎親が高椅に土地があった為そこに家を建てた ◎親の面倒をみる為 ◎両親が亡くなり実家が無人となってしまったため ◎親や親類からの圧力 ◎親の介護のため。

②結婚に関する理由で

◎結婚した夫が絹地区在住だったから ◎小山市内の職場で、結婚を機に妻の実家の隣に家を建て絹地区に移り住んでいる ◎結婚し、長男だったため実家に戻った ◎長男であり、家を守っていくため

⑤その他

◎延島地区内の中古戸建が売りに出ている、それを購入したのがきっかけです ◎田園環境が良いから ◎不動産ネット検索 ◎土地が安く、住みやすい ◎中古住宅を購入 ◎住みやすいと考えた ◎自然の多い所をさがして良い所があった為 ◎老後はのんびりした生活をと田舎暮らしを所望 ◎環境及び経済的理由 ◎広い敷地に住むため

## 1-2 集計結果より

### ●主たる回答者像について

絹地区も含めた調査地域を、A：田園地帯（自治会回覧を通してアンケート実施）、B：都市化が進行している地域（無作為抽出の郵送アンケート調査）に分けて、回答者の属性を比較すると、下の表の通り。

A の地区では自治会からの回覧物は昼間に自宅にいても多い 60 代以上の方が対応することが多くあり、回答者の年齢層の分布に反映されていると推察する。

B の 3 地区では（「北中」は大谷北部・中部地区）、回答者の属性がほぼ同じような傾向があるが、地区との関わりを見た場合、県外出身者の割合が、小山地区>大谷北中部>桑地区という順になり、小山地区と桑地区では 20%の差異がある。桑地区は、市街化区域が一部にあり喜沢と羽川の住宅地もあるが、全体としては人の流入や動きがさほど多くない田園地帯の特質も併せ持つことの現れだと推察できる。また、絹地区は、その桑地区と隣接し、桑絹村、桑絹町を経て小山市に合併された経緯があるが、簡易社会調査の結果では（絹地区の方が高齢者の回答が多いという違いはあるが）、絹地区の過疎化への深刻さがより浮き彫りにされている。

### ●地区との関わり～地区ごとの人口ビジョン検討

設問【1】の間(7)では、U ターンまたは、I ターンで移り住んだ人に対して、「その地区に戻ってきた/移り住んだ」理由について、自由記述で記入する欄を設けており、そこからは、前ページで書き出しているような、地区ごとの特性がある。

今回の絹地区と大谷南部地区は、U ターンの理由としては「家・親」との関係性に関する理由が多い。また、地縁や血縁がない中で地区ごとの特性や、地区間での差異を整理していくことは、今後、地区ごとの未来ビジョンを策定していく際に、そのベースとなるはずの「地区ごとの人口ビジョン」検討の手がかりになると考える。

絹地区のように、グループインタビューでも市街化調整区域であり新しい住宅を自由に立てることができない。それでも I ターンで、売りに出された空き家を購入して移り住む人はいて、地域にとけ込み絹地区での生活を楽しんでいる様子がアンケートのコメントやグループインタビューから窺える。

	A：田園地帯：自治会回覧				B：都市化進行：郵送		
	生井	豊田	大谷南	絹	桑	北中	小山
男性	65%	62%	66%	62%	38%	46%	45%
女性	27%	33%	27%	31%	55%	50%	52%
60 歳以上	75%	68%	69%	70%	39%	33%	46%
30 歳以下	2%	5%	4%	3%	24%	26%	18%
地区出身	66%	60%	62%	65%	19%	14%	17%
県外出身	11%	10%	13%	15%	36%	50%	58%

## 2：生活圏について

### 2-1 設問【2】の集計結果

選択肢から1つを選ぶ

- 1 仕事や学校へ通っている地域
- 2 日常的な買い物や用事で出かける地域

-1 仕事や学校へ		-2 日常的な買い物等	
行先	回答数	行先	回答数
絹地区	248	茨城県結城市	654
県内の他の市町	84	小山市・駅西	70
茨城県結城市	78	県内の他の市町	61
小山地区・駅西	63	茨城県（結城以外）	19
茨城県（結城以外）	48	小山地区・駅東	17
小山地区・駅東	30	絹地区	10
宇都宮市	23	大谷北中部	10
大谷北中部	17	桑地区	7
桑地区	14	宇都宮市	4
東京都	7	東京都	2
穂積地区・中地区	6	間々田地区	1
埼玉県	6	大谷南部	1
間々田地区	4	群馬県・千葉県	1
豊田地区	3	穂積・中地区	0
大谷南部地区	2	埼玉県	0
群馬県・千葉県	2	豊田地区	0
寒川・生井地区	1	寒川・生井地区	0
その他	16	その他	4

-1 無記入 314 無効 3

-2 無記入 96 無効 12

選択肢から2つを選ぶ

- 3 休みの日に「特別な買い物」「会食」「イベント」等によく出かける地域
- 4 休みの日に「自然の中でリフレッシュ」「アウトドアスポーツ」等に出かける地域

-3 特別な買い物や会食等		-4 自然の中で・・・	
行先	回答数	行先	回答数
茨城県結城市	425	県内の他の市町	286
小山市・駅西	363	茨城県（結城以外）	176
宇都宮市	209	絹地区	126
県内の他の市町	190	茨城県結城市	122
小山市・駅東	112	小山市・駅西	79
茨城県（結城以外）	94	宇都宮市	78
東京都	52	群馬県・千葉県	49
絹地区	25	桑地区	46
埼玉県	22	小山地区・駅東	37
大谷北部中部	19	埼玉県	18
桑地区	18	東京都	16
群馬県・千葉県	12	大谷北部中部	7
間々田地区	2	間々田地区	7
大谷南部地区	2	大谷南部地区	4
豊田地区	2	穂積・中地区	2
穂積・中地区	1	寒川・生井地区	1
寒川・生井地区	0	豊田地区	0
その他	27	その他	69

-3 無記入 141名 無効 1名

-4 無記入 339名 無効 0名

### 2-2 集計結果より

先に調査を終えた、お隣の「桑地区」では、日常的な買い物や用事では、無記入と無効を除く回答者の50.7%が「桑地区」を挙げている。絹地区の場合、「絹地区」を挙げているのは、わずか「1.2%」であり、お隣の「結城市」と回答した人が76.3%

にのぼる。

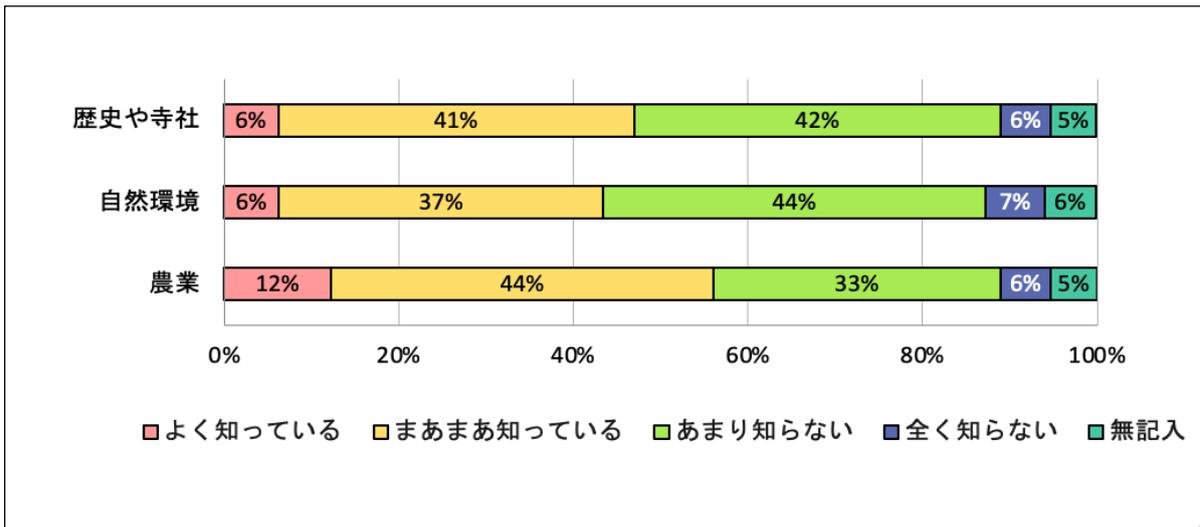
また休みの日などの特別な買い物や会食で訪れる「県外の市町」の回答者のコメントによると、上位は（下野市：33名、真岡市：13名、佐野市：12名）、アウトドアの余暇の行先は（日光市：39名、那須町：33名、下野市：28名）である。

3：絹地区の地域資源への認知度・関心度

3-1 設問【3】の集計結果

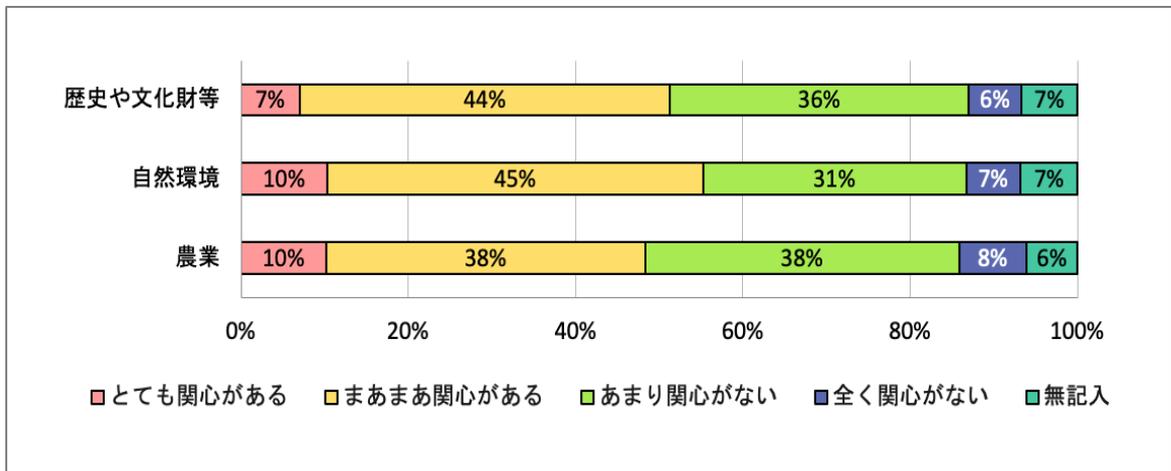
A 認知度を把握する

- (1)地区のなりたちの歴史や、近隣に残る城跡や神社や寺の歴史、由緒、祭り等を知っていますか？
- (2)地区にある公園、街路樹、平地林などについて知っていますか？
- (3)地区内の農業についてどのような地域でどのような農業が行われているか知っていますか？



B 関心度を把握する

- (1)地区のこのような歴史、祭り、伝統芸能に関心がありますか？
- (2)地区に残る自然環境に関心がありますか？
- (3)地区の農業に関心がありますか？



●年代別の集計結果

(1) 絹地区の歴史や寺社、城跡、祭りについて (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	47%		48%		51%		42%	
	6%	41%	42%	6%	7%	44%	36%	6%
20代	0%	50%	17%	17%	0%	33%	50%	0%
30代	32%	58%	11%	0%	5%	40%	45%	10%
40代	6%	26%	52%	17%	5%	32%	48%	15%
50代	2%	33%	53%	10%	4%	40%	42%	12%
60代	3%	43%	46%	4%	7%	46%	38%	5%
70代～	10%	48%	35%	2%	9%	50%	31%	3%

(2) 絹地区の公園、街路樹、平地林などについて (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	43%		51%		55%		38%	
	6%	37%	44%	7%	10%	45%	31%	7%
20代	33%	17%	33%	0%	0%	33%	33%	17%
30代	35%	55%	10%	0%	10%	55%	25%	10%
40代	2%	27%	55%	17%	5%	45%	39%	11%
50代	4%	30%	56%	8%	7%	42%	39%	9%
60代	3%	43%	46%	4%	7%	46%	38%	6%
70代～	10%	43%	37%	5%	14%	48%	28%	4%

(3) 絹地区の農業について (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	56%		39%		48%		46%	
	12%	44%	33%	6%	10%	38%	38%	8%
20代	17%	50%	17%	0%	0%	33%	50%	0%
30代	5%	45%	30%	20%	5%	40%	40%	15%
40代	3%	45%	39%	11%	5%	33%	48%	12%
50代	7%	45%	35%	11%	8%	36%	38%	16%
60代	11%	42%	38%	6%	8%	38%	40%	10%
70代～	18%	46%	31%	2%	14%	42%	36%	3%

●他の地区との比較

		豊田	小山	大谷北中	大谷南	桑	絹
(1)歴史	認知度	52	27	11	29	15	47
	関心度	50	54	33	34	38	51
(2)自然	認知度	40	39	29	39	28	43
	関心度	45	65	48	48	57	55
(3)農業	認知度	37	25	18	49	25	56
	関心度	57	51	34	45	43	48

各地区で回答者の年齢構成が異なる（註\*）ので一概には比較できないが、絹地区では、歴史、自然、農業のどれにおいても他地区に比べ、地域のことを知り関心がある方が多い結果となっている。

また(1)の歴史的史跡について関心度も認知度も高い結果となっていることは、後述の設問【4】（地区で大切に守りたいもの）の結果とも繋がります。

\*上表についての補足

- ・数字の単位はパーセント（％）
- ・認知度は「よく知っている」と「まあまあ知っている」の合計
- ・関心度は「とても関心がある」「まあまあ関心がある」の合計
- ・小山地区の(3)農業は、小山地区ではなく市域全体の農業について尋ねている。
- ・地区名欄が水色の地区は無作為抽出の郵送アンケートにより各年代が満遍なく回答しています。それ以外の3地区は、自治会回覧により、郵送の地区に比べて若年層の回答は少なくなっています。

4：解消したい困りごと

4-1 設問【4】の集計結果

質問「あなたが「無くしたい」「解消したい」「解決したい」と考える絹地区の困りごとは、どんなことでしょうか？」—— 事前に自治会長の皆様への説明時にご相談して設定した選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答する設問とした。

- 13 台風や大雨による被害（道路の冠水など）・ 49
- 14 祭りや伝統芸能の担い手・後継者不足・・・46
- 15 選択肢が少ない働く場所・・・・・・・・・・ 43
- 16 路上のゴミやゴミ出しマナー・・・・・・・・・・32
- 17 治安の悪化・・・・・・・・・・・・・ 25
- 18 騒音などの住環境への影響・・・・・・・・・・19
- 19 交通渋滞・・・・・・・・・・・・・ 10
- その他・無記入・無効は記載していない

●回答が多い順（数字は回答人数・無記入などは不記載）

- 1 公共交通の不便さ・・・・・・・・・・・・・343
- 2 買い物の不便さ・・・・・・・・・・・・・322
- 3 人口減少・・・・・・・・・・・・・237
- 4 空き家・空き地の増加・・・・・・・・・・・・・203
- 5 医療機関の不足・・・・・・・・・・・・・176
- 6 農業の担い手・後継者不足・・・・・・・・・・175
- 7 地域活動の担い手、後継者不足・・・・・・169
- 8 昔からの風習・・・・・・・・・・・・・158
- 9 地域の集まりや寄り合い・・・・・・・・・・126
- 10 道路（幅の狭さ・繋がり具合）状況の悪さ・・98
- 11 子どもが外遊びできる場所の減少・・・・・・・・61
- 12 地域でのコミュニケーションの不足・・・・・・51
- 13 選択肢が少ない教育環境・・・・・・・・・・49

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、5つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

1 生活環境に関すること	33.2%
2 人口減少担い手・後継者不足	26.8%
3 交通や移動に関すること	20.9%
4 地域コミュニティに関すること	14.3%
5 教育環境や就労に関すること	6.5%

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え。全年代で上位項目は赤、年代で差があるものを青・他にしている）

20代 6名	30代 20名	40代 66名	50代 165名	60代 268名	70代以上 406名
1 買い物の不便さ	1 公共交通が不便	1 地域の集まり	1 公共交通が不便	1 公共交通が不便	1 公共交通が不便
2 地域の担い手不足	2 外遊び場の減少	2 買い物の不便さ	2 買い物の不便さ	2 買い物の不便さ	2 買い物の不便さ
2 農業の後継者不足	2 買い物の不便さ	2 公共交通が不便	3 人口減少	3 人口減少	3 人口減少
2 祭りの担い手不足	3 地域の集まり	3 昔からの風習	4 昔からの風習	4 空き家・空き地	4 空き家・空き地
2 地域の集まり	3 昔からの風習	3 医療機関の不足	5 地域の集まり	5 農業の後継者不足	5 農業の後継者不足
2 昔からの風習	4 地域の担い手不足	4 人口減少	5 空き家・空き地	6 地域の担い手不足	6 地域の担い手不足
2 住環境への影響	4 限られた教育環境	4 外遊び場の減少	6 医療機関の不足	6 昔からの風習	7 医療機関の不足
2 外遊び場の減少	4 道路状況の悪さ	5 地域の担い手不足	7 地域の担い手不足	7 医療機関の不足	8 昔からの風習
2 医療機関の不足	5 空き家・治安、道路	6 道路状況の悪さ	7 農業の後継者不足	8 地域の集まり	9 地域のコミュ不足
2 公共交通が不便	の冠水など同数		8 道路状況の悪さ	9 道路状況の悪さ	9 道路状況の悪さ

#### 4-2 集計結果より

困りごとの上位7項目をみても、県内の中山間地と同じような項目が並び「過疎地が進行している」現実が浮き彫りになる。地域住民の皆さんにとっては切実な問題ばかりである。

中山間地であれば、農業関係などでの国からの助成や支援制度も少なくはないが、「栃木県2位の人口の都市の中の平場の農村地帯」として、同様の問題を抱えながらも、長年、さまざまな問題が解決の糸口を持たないまま来てしまっている状況が、簡易社会調査のグループインタビューでも伺える。

以下に、設問【4】の自由記述に寄せられたコメントの一部を紹介する。

--

##### (1) 移動の問題と生活の不便さ（公共交通・道路状況・渋滞・買い物の不便さ・医療機関の不足）

◎公共交通機関に関しては、将来自分で車の運転が出来なくなった時に、このままだと買い物も病院にも行かなくなってしまうのが心配です。デマンドバスもありますが、今よりさらに気軽に簡単に利用できる仕組みの公共交通機関があると安心できると思います ◎（3つまで選ぶとあるので）絞り込みに苦労しました。問題が多いかと。無医村、交通手段の不足、高齢になっても免許返納はできません ◎近所のコンビニがなくなってしまう、子供達が安全に買い物に行ける場所がなくなった ◎デマンドタクシーの行き先を自由にしてほしい ◎絹地区に循環バスが来ない。結城駅まで行ければいい。そうすれば車を使わず小山駅まで行ける ◎高齢化に応じた対策をお願いしたい。デマンドバス…いいようで良くない。前日予約制というのは利用者からはいかがなものか

##### (2) 人口減少と地域コミュニティ、空き家・空き地の増加、担い手不足、後継者不足

◎農業振興地域であることから、市街化調整区域であり、宅地開発どころか既存の宅地にも自由に家が建てられないなど、後継者の定住や新規参入者が制限されて人口増加を阻害している ◎水道料金、自治会費、祭費、お札費等の個別集金の回数が多く、土・日にするため、休養の時間が減少してしまう。（また、自治会費 18000 円／年の負担は重すぎと思っています） ◎地域に関心がうすれる中高齢化も進み、自治会として苦勞が多くなっている為、役員を選抜するのがとても大変 ◎班が多く、年寄りしかいないので若手の仕事が増える。なので班を少なくしてほしい ◎集まりが多いと若い人達はこなくなってしまう ◎数年後には自治会が成り立たない。若い人が戻ってこない

##### (3) 総合的なご意見

◎農業の後継者が無く、耕作放棄地が増え、景観も悪化していくのではないかと。高齢化、独身者の増加で近い将来に空き家になりそうな家も多い。交通の便が無いので、子どもが高校進学すると、親の送迎が必要になるため、フルタイムで働くこともできない。進学以前に、塾の送迎などもある。地域の小学校も廃校になり、子育て世代も地域に居住しなくなっている。住民は減少しているが、地域の自治会などの役割の負担が都市部に比べて圧倒的に多く、地域に残るのを敬遠する理由の一つになっていると思う。全てが悪循環で、環境の悪化と人口減少はますます進みそう。自身の老後考えたとき、ここに残る選択をとるかどうかもわからない ◎JR 小金井駅まで出るための交通手段が無い、農業後継者がいない、耕作放棄地増加、高齢化、役割負担の強制などムラ社会の暮らしにくさなど、子育て世代から敬遠され、未来が無い。将来の食料の安全保障を考えると、この地域で若い世代に農業をして貰えればと希望します。

5：大切に守り継ぎたい地域の宝

5-1 設問【5】の集計結果

質問「あなたが「大切に守っていききたい」と考える絹地区の小さな自慢は何でしょう？」  
設問【4】と同様に選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答。

●回答が多い順（数字は回答人数）

- 1 地域に残る歴史ある史跡、神社やお寺・・・444
  - 2 地域の農業・・・・・・・・・・・・・・・・・・241
  - 3 消防団や自治会など地域の互助活動・・・239
  - 4 各地域に残る祭りや風習、伝統芸能・・・191
  - 5 街路樹や公園、平地林などの自然・・・・・・142
  - 6 各地域に残る歴史ある建物や古木・・・・・・130
  - 7 まちなみや景観・・・・・・・・・・・・・・・・112
  - 8 交通の利便性・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
  - 9 買い物の利便性・・・・・・・・・・・・・・・・86
  - 10 公民館で行われる祭りやイベント・・・・・・78
  - 11 趣味やスポーツの地域のサークル・・・・・・75
  - 12 地域の商業・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
  - 13 地域の工業・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- その他・無記入・無効は記載していない

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

歴史的な地域の資源	41.0%
地域コミュニティの繋がり	21.0%
地域の産業（農業単体で2位）	14.7%
利便性が良いこと	9.6%
地域に残る自然環境	7.6%
地域の景観	6.0%

●その他について

その他を選択した回答が31件。コメント欄に具体的な記載があったものを掲載する。

- ◎結城紬（7件）◎自然豊かでのんびりした空間、それでいながら少し足を延ばせば利便性を受けられる環境 ◎自然災害の少なさ ◎地域の人々のつながりの強さ。自然の豊かさ ◎自治会活動のみ ◎地域で学校活動を支援◎すてきな子供たち ◎子供達の素直さ◎直売所のイベント（絹ふれあいの郷）◎農産物の食味

調査票作成者としては「結城紬」は選択肢の「地域に残る風習や伝統芸能・・・」に含めているつもりであったが別に選択肢を立てるべきであった。

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え。全年代で上位項目は赤、年代で差があるものを青・他にしている）

20代 6名	30代 20名	40代 66名	50代 165名	60代 268名	70代以上 406名
1 史跡、神社やお寺					
1 歴史ある建物や木	2 祭りや伝統芸能	2 まちなみや景観	2 残っている自然	2 地域の農業	2 助け合いの活動
1 地域の農業	2 まちなみや景観	3 残っている自然	3 地域の農業	3 助け合いの活動	3 地域の農業
1 地域の商業	2 地域の農業	4 地域の農業	4 歴史ある建物や木	4 祭りや伝統芸能	4 祭りや伝統芸能
2 助け合いの活動	2 残っている自然	5 歴史ある建物や木	5 まちなみや景観	5 残っている自然	5 交通の利便性
2 残っている自然	3 歴史ある建物や木	6 祭りや、伝統芸能	6 祭りや伝統芸能	6 歴史ある建物や木	5 買い物の利便性
2 地域の工業	4 助け合いの活動	7 交通の利便性	7 助け合い活動	7 まちなみや景観	6 地域のサークル
	5 地域の商業	8 買い物の利便性	8 買い物の利便性	8 公民館イベント	7 歴史ある建物や木
		9 公民館イベント	9 交通の利便性	8 交通の利便性	8 残っている自然
		10 地域のサークル	10 地域のサークル	9 買い物の利便性	9 まちなみや景観

5-2 集計結果より

設問【4】では、絹地区の切実な状況が浮き彫りになっているが、その一方で、地域の方達は、先人達が残してくれた絹地区の宝を大切に継承していこうという思いが強くあることが、この結果から見えてくる。年代を問わず、上位に地域に残る史跡や寺社、地域の農業を守っていこうという意思が表れていることも特筆すべきことと考える。以下に、設問【5】などの自由記述に寄せられたコメントの一部を紹介する。

(1) 歴史ある史跡、寺社、風習、伝統芸能など

◎昔からの伝統を守りつつ、新たな取り組みも必要ではないかと思えます。新しいことも受け入れつつ、伝統を守る地域の取り組みを ◎結城紬関係で絹地区をもう少しアピールしても良いと思えます ◎結城紬が盛んだったこと ◎結城紬の保存はなんとしても必要 ◎寺野東遺跡が小さな自慢 ◎高椅神社の歴史及び神楽 ◎高椅神社は地域の宝である。どのような形になっても引き継いでいくべきだと思う ◎選択肢（各地の祭り、伝統芸能や風習）の項目を選択したかったが、人材不足等でほとんど伝承されていないのが現状

(2) 地域の農業

◎絹地区の農家の方もいちごや麦などの生産に力を入れていると思うので、それらの知名度がもっと高くなると嬉しいです ◎自慢できるのは田園風景くらい

(3) 地域のコミュニティ～消防団や自治会活動など助け合いの活動

◎年輩の方の優しさ ◎過去に絹地区を守り、育んできた諸先輩方のご苦勞を思うと大事にしたいと思えます ◎人柄の良さが保たれるといい ◎自治会内での見守りが充実している→家族・老人の見守り、子どもの登下校の見守り等に協力的

◎高齢者世代が元気で活発なことは良いが、コミュニケーションの場に成人した子供世代を出さない風潮が有り、壮年から下の世代のリーダー育成が出来ていないと感じる。ゆえに、壮年から下の子供世代の転出が多く、人口減少につながっていると思う。もう少し、世代別でのイベントが有っても良いと思う。

(4) 長閑で、自然が残っていること

◎つくば山がキレイに見える ◎夕焼け、星空がキレイ ◎のんびりできる

(5) その他

◎小さな自慢に該当するものが無い ◎選んだものは本当に守りたいものだが、選択肢の中には地域外への通勤者にとってみれば寧ろ負担になるので、やめてもらいたいものも多い ◎守るという意識の低下 ◎50年前と変わらず遅れている。改革改善がなく進歩発展がない。農業地域で若者は住みにくい絹地区です。長男夫婦は3年住んで、今は駅前のマンションです ◎特にない、不便です ◎（史跡、寺社）以外は特にありません。残念ながら ◎守っていけるように、行政の支援等々、人口減少に対応できる諸々の公正・平等な改善が急務

◎上福良に住んで26年たちますが、高齢者が非常に多く子供も少ない環境で、バスも通ってなく、車を乗れない人たちが多く、一人世帯の家も多く、若い人達は仕事でいなく、年寄りが病院も行けない、買い物も行けないという人が多く、隣近所と協力しあって生活しています。田んぼも皆、できる人に貸してやってもらっている。やってくれている人も、皆年寄りなので、いつ、やめる、と言われるかわからない。田んぼの心配、子どもの心配。年寄りも子どもも安心して暮らせる町作り。どうか何十年後には蛍が来る田園になってほしいものです。田んぼに囲まれたここが大好きです。

## 6：暮らしの価値観

大問【6】として、個人の暮らしの中での充足感や豊かさをどう考えているかを問う質問を設けた。これは、SDGsの推進や持続可能な地域社会運営の構築を考える際に、生活者の価値観とそれに基づく行動様式の考察も必要不可欠であるという見地からの対応となる。

(1)については、全国的な傾向と比較するために内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」(1現在の生活について(4)現在の生活の充足感)と選択肢を同じくしている。同調査では、この質問は、昭和49年(1974)から継続されているので、経年での国民意識の変容も確認することもできる。

(1)(2)については、田園部・都市部の調査結果が出揃ってからの比較検討のデータとするため、ここでは単純集計の結果の掲載にとどめる。

### 6-1 設問【6】の集計結果

(1)「日頃の暮らしの中で「充足感を感じる」のは、どんな時ですか?」\*選択肢から3つ選んで回答

#### ●回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 ゆったりと休養している時・・・575
  - 2 家族だんらんの時・・・515
  - 3 趣味やスポーツに熱中している時・・・449
  - 4 友人や知人と会合、雑談している時・・・443
  - 5 仕事に打ち込んでいる時・・・346
  - 6 社会奉仕や社会活動をしている時・・・85
  - 7 勉強や教養などに身を入れている時・・・61
- その他25名、無記入70名

(2)「あなたにとって「豊かさを感じる幸福な暮らし」は、どのようなことでしょうか? 豊かさや幸福の実現に「最も大切だと思うもの」は?」\*選択肢から3つ選んで回答

#### ●回答者が多い順(数字は回答人数)

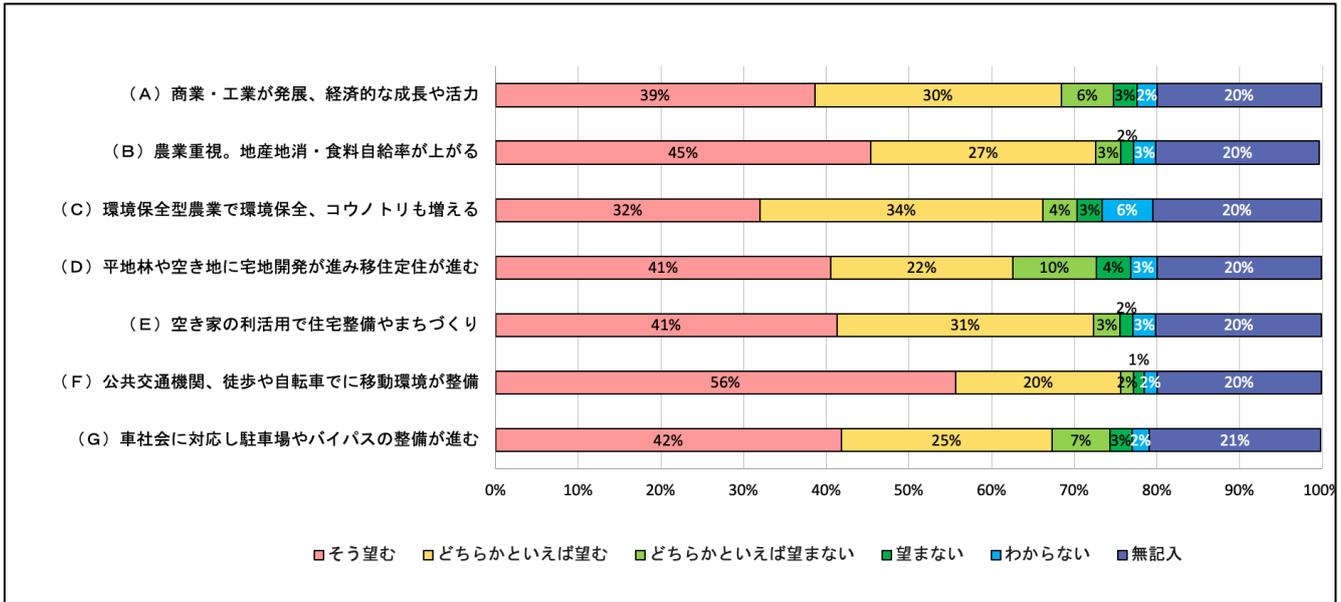
- 1 心も体も健康でいられること・・・655
  - 2 老後、災害、犯罪や戦争などの心配がなく、安心して安全に暮らせること・・・390
  - 3 好きなことをする時間のゆとりがあること・・・388
  - 4 好きなことができるだけのお金や資産のゆとりがあること・・・318
  - 5 家族や親戚、友人や地域の人たちと助け合って生活すること・・・200
  - 6 家庭菜園や花づくりなど、土に触れる時間があること・・・182
  - 7 自然に恵まれた環境の中で、またはその近くで暮らせること・・・173
  - 8 モノはあまり所有せずに、できるだけシンプルに身軽に暮らせること・・・140
  - 9 家電や車など物質的に満ち足りた環境で暮らせること・・・95
  - 10 困っている人の役に立てる活動や、地域、社会の役に立てること・・・50
  - 11 住んでいる地域でつくられている農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・25
  - 11 地域の伝統や文化を絶やさず継承し、次の世代に引き渡す活動ができること・・・25
  - 12 情報や商品が手に入りやすく文化芸術に触れる機会が多い都会で暮らせること・・・19
  - 13 日本各地、世界各国の農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・6
  - 14 社会的な地位を築き、名が知れた存在になること・・・1
- その他9 無記入55 無効4

7：望ましい小山市の都市環境のあり方

7-1 設問【7】の集計結果

質問：「最後に、小山市のこれからのまちづくりについて、お考えやご意見をお聞かせください」  
 (1) 20年後、30年後の望ましい小山市の都市環

境のあり方について、ご意見をお尋ねします。  
 AからGそれぞれについて、選択肢の中からお考えに合うものを選び、番号を「回答欄」にご記入ください。（後略）  
 選択肢①そう望む②どちらかといえば望む③どちらかといえば望まない④望まない⑤わからない



●支持・共感者が多い順（「そう望む」「どちらかといえば望む」の割合の合計が高い順。）内は「そう望む」割合）  
 7つの項目を支持・共感者が多い順（「そう望む」「どちらかといえば望む」の割合の合計が高い順）に並べると、絹地区の結果は以下のようになります

- 76% (56%) (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 72% (45%) (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 72% (41%) (E)空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にされた住宅整備やまちづくりが進む
- 69% (39%) (A)商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 67% (42%) (G)車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 66% (32%) (C)環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 63% (41%) (D)空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える

●「そう望む」の割合が高い順

- (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で・・・
- (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み・・・
- (G)車社会に対応して、駐車場やバイパスの・・・

●「そう望まない」の割合が高い順

- (D)空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み
- (A)商業・工業が発展し、工業団地も増え・・・
- (G)車社会に対応して、駐車場やバイパスの・・・

●年代別の回答結果

		20代	30代	40代	50代	60代	70～	全体	
A 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている	そう望む	17%	35%	41%	39%	42%	39%	39%	69
	どちらかと言えば望む	67%	25%	41%	34%	35%	25%	30%	
	どちらかと言えば望まない	0%	25%	11%	10%	7%	3%	6%	9
	望まない	0%	15%	5%	5%	1%	2%	3%	
B 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている	そう望む	33%	60%	45%	47%	47%	47%	45%	72
	どちらかと言えば望む	33%	30%	41%	32%	34%	20%	27%	
	どちらかと言えば望まない	0%	0%	6%	4%	4%	2%	3%	5
	望まない	0%	10%	2%	4%	1%	0%	2%	
C 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている	そう望む	50%	50%	35%	34%	31%	33%	32%	66
	どちらかと言えば望む	33%	35%	47%	38%	42%	28%	34%	
	どちらかと言えば望まない	0%	0%	6%	5%	6%	3%	4%	7
	望まない	0%	10%	3%	5%	4%	1%	3%	
D 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み定住する若い世代や移住者が増える	そう望む	50%	40%	52%	43%	47%	36%	41%	63
	どちらかと言えば望む	17%	50%	27%	28%	23%	18%	22%	
	どちらかと言えば望まない	17%	10%	14%	10%	10%	10%	10%	14
	望まない	0%	0%	5%	5%	4%	4%	4%	
E 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にした住宅整備やまちづくりが進む	そう望む	50%	50%	50%	44%	48%	36%	41%	72
	どちらかと言えば望む	17%	35%	39%	34%	34%	29%	31%	
	どちらかと言えば望まない	17%	0%	5%	6%	3%	2%	3%	5
	望まない	0%	5%	2%	2%	2%	1%	2%	
F 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む	そう望む	67%	70%	70%	64%	58%	51%	56%	76
	どちらかと言えば望む	0%	25%	23%	20%	25%	17%	20%	
	どちらかと言えば望まない	17%	0%	3%	2%	1%	1%	2%	3
	望まない	0%	0%	2%	2%	1%	1%	1%	
G 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる	そう望む	67%	60%	65%	52%	45%	33%	42%	67
	どちらかと言えば望む	0%	40%	20%	25%	27%	27%	25%	
	どちらかと言えば望まない	0%	0%	8%	7%	10%	6%	7%	10
	望まない	17%	0%	3%	5%	3%	2%	3%	

## 7-2 集計結果より

### ●本設問の趣旨

本設問は、田園環境と都市環境の調和が取れた未来の小山市のあり方を考えていくにあたり、その基盤となる「産業、宅地開発、交通政策」について、各地区ごとに「積極的支持/共感」から「不支持」の軸の上で、市民の考えを確認していくものである。項目としてあげたことは、これまでのグループインタビューでも語られているように「開発か自然環境保全か」「工業優先か農業優先か」などの「二者択一」で語るのは非常に難しい側面がある。「未来の子どもたちのために自然環境は残したいが、開発もして人を呼び込まないと地域が廃れてしまう」など、多くの市民の意識には「どちらか」では割り切れないある種のジレンマが存在する。それではどうするか？という小山市の未来へ姿と、そこへの道のりを市と市民で意見交換を重ねながら探っていくのが、未来ビジョンの策定であり、そのための参考資料として、本設問の結果はディテールを読み解きながら活用していくものとした。

### ●結果の概観：絹地区の特性

上位3項目に「公共交通機関の整備」「農業重視」「空き家の利活用」の順で並ぶのは、豊田・大谷南部・桑地区でも全く同じ結果となっているが、「(A)商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている」については、他の田園地帯の地区では7項目中6番目となっているところ、絹地区ではそれより上の位置3番目に支持・共感が多い結果になります。これは市域の田園地帯の中でも最も切実に「経済的成長や活力」を望む意識があることの現れであるといえるのではないか。

## 7-3 自由記述の内容について

【7】では下記のように自由記述の欄も設けた。

(2) 最後に、お考えやご提案を自由にお書きください。\*例えば、上記のAからGであげた例以外に、20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方として、お考えがありましたら教えてください。\*また、小山駅周辺の都市環境を持つエリアも、それを取り込む田園環境が広がるエリアも、バランスと調和がとれ、より良い関係を作りながら持続可能なまちづくりを進めていくために、小山市が大切にしていべきこと、具体的なご提案など、自由にお書きください。

244名から回答があり、別添の「アンケート集計結果報告書」では、回答をテーマごとに掲載した。複数の項目の記述がある場合は分割して掲載している場合もあり、また、明らかな誤りと認識できる表記は書き換えているが、基本的には原文のままの記載としている。

本報告書では、別添の「アンケート集計結果報告書」にテーマごとに掲載した回答者のコメントから「提案型」のご意見、未来ビジョンの考え方の根本に関するご意見を抜粋して、紹介する。

7-4 自由記述から一部を掲載

A：都市環境と田園環境の調和について

◎”都市部と田園部のより良い関係性を結び調和のとれた姿”、これはほぼ不可能です。絹地区の現況は、①他の地域から人を引き寄せる施設・会社・工場・スーパー等のお店がない。②病院等の医療機関もない。③バスも電車も走ってない。④生活物資の調達は直近で結城市しかない。⑤住民が寛げる公共施設もない等々。昔から発展しないで衰えるばかりの小山市一番の僻地である。子供達は地域から離脱、高齢者世帯と空き家が増加、さらに不審者や不審車両が横行するなど安心して暮らせる環境ではない。多額の税金が投入され年々発展し続ける小山駅周辺と寂れていく一方の我が地域との調和とは理解に苦しむ。”先ずは地域住民が安心して社会的な生活ができる環境基盤の整備と、過疎化を如何に食い止めるかが先決である”。それから魅力的な施策を構築するなどしないと都市部とより良い関係性を結ぶことができないのではないか。魅力的なものがあれば自然に人は集まってきて活性・交流化するものである。根本的に順序が逆と思われます。

◎都市環境と田園環境との格差をなくす政策であればいいと思いますが、現時点では、広がる傾向にあると感じます。日本の東京一極と同様に小山都市環境集中になり、田園環境はおざなりになる懸念を危惧します。今回のアンケートは初めて田園環境在住者の意見を聞いてくれる場になったが、設問が足らな過ぎると思うし、20年後はどの地区でも限界地区になってしまうのではないかと思います。それより、今、何が出来るのかを発信して貰いたいものです。

◎都市エリアも田園エリアも、住んでいる人、関わる人が各々最上級の誇りを持って生き抜いて行

ってほしい。誇りを持つことって難しいと思いがちだけど、実は本当に簡単だと思う。

◎駅周辺だけでなく、田園地区の活性化を並行し居住エリアを少し広げてほしい。ゆとり、ある居住空間の確保と利便性を保ちながら、地元での雇用拡大を目指してほしい。

◎田園環境地域にも、若者が住みたいと思う施設や環境が必要と考えます。

◎現在は都市エリアと田園エリアの住環境および労働環境に大きな差があり、田園エリアに住むことを望まない若者が多い。田園エリアの中にも文化的で魅力的な施設を充実し、労働環境を豊かにして調整区域を活性化していくことを望む。

◎都市環境を重点に考えているようだが、過疎地域にもっともっと目を向けるべきだと思う。全体で考え盛り上げていかなければ、統一感のある小山市にならない。

◎小山市でも南部が発展（間々田地区）等、桑・絹は取り残されている感がある。対応してもらいたい。

提案◎年に1回くらい、都市部と田園部の大きな交流の場があると良いと思う。例えば、筑西市、結城市、古河市のように、市全体でのイベントに市内各地の伝統芸能、産物出店ブースを集めたイベントがあれば良い。

提案◎休日などに都市部の人が農村部に足を運んでもらえるような施設（産直販売・温泉・ウォーキングなど）を作って交流を図ることが大切。地産地消を絡めて、農村部の活性化を。

## B：絹地区に必要なこと

### 地域に根ざした形での空き家の利活用

◎農業や自然は小山市にとってかけがえのない資源だと思うのでそれは大切にしつつ、空家や空き地、利用されていない建物等を地域に根付いた利用方法で利用していき、若い世代もお年寄り世代も住みやすい小山市になっていって欲しい。

### 市街化調整区域による弊害への対応

◎宅地開発どころか既存の住宅の敷地内にも自由に家が建てられないなど、後継者の定住や新規参入者が制限されて人口増加を阻害している。

◎調整区域における上下水道の完備と交通機関の整備された安心安全のまちづくり。

### いかにして若者に農業に関心を持ってもらうか

提案◎農業の高齢化にともない、今後の農業が以下に若者に興味を持たせ魅力あるものとするため早急に取り組む必要があります。農業の学識専門家を呼び、勉強会、研修会を開いて受け入れることが必要かと思います。また、歴史、文化を大切にする小山市を望みます。

### 中小・兼業農家の育成を

◎新しい宅地開発はもう不要。空き家、空地、耕作不能な農地等の有効利用。・農業も大規模農家のみの育成補助だけの施策から。中小・兼業農家の育成も必要と考える。

## C：農業政策

### 後継者・担い手不足に先手、革命的な取り組みを

◎小山市の農業、特に米作りに関しては、近い将来、担い手や後継者不足による問題が大きくクローズアップされてくると思う。全国でも20年後には後継者が4分の1に激減すると言われている今、絹地区でも、例にもれず農地所有者のほとんどが会社員で、休日に耕作したり、他の人に耕作してもらっている人が多く、最近では荒れた農地が目立っている。理想と現実のギャップに目を向け、農業問題に革命的な取り組みを期待する。

◎人口激減時代に突入すると思う。人口が減ることがどういうことなのか、冷静に考え対応していければと思う。特に農村部は後継者不足に悩まされるだけでなく、割に合わない米作りなどで壊滅状態と感じる。一方で食料自給率はとても大切なことである。荒れすさんだ田畑を見るのだけは避けたいと思うので、行政には先手を打つ対策を講じる必要があると思うし期待しています。



## 参考・引用文献

本報告書を作成するにあたり引用した文献を中心に、小山市、絹地区の地域調査・研究を行う上で参考となると思われる文献をまとめる。文献は、作業の中で主にどの分野の情報を得るために用いたかに基づき、仮に項目を分けて整理した。

### 1 風土の定義

藪田稔編『神道』弘文堂、1988年

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年

和辻哲郎『風土—人間学的考察』岩波書店、1979年

オギュスタン・ベルク『風土の日本—自然と文化の通態』篠田勝英訳、筑摩書房、1988年

廣重剛史『意味としての自然—防潮林づくりから考える社会哲学』勁草書房、2018年

廣瀬俊介「風土形成の一環となる環境デザインについて：人文科学における研究成果の参照による風土概念検討を通して」『景観生態学』21(1)、日本景観生態学会、2016年、15-21頁

<https://doi.org/10.5738/jale.21.15>

### 2 地質・地形・土壌

小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年

小山市教育研究所編『小山市郷土文化研究誌 第13集』小山市教育研究所、1971年

国土地理院 | 地理院地図

<https://maps.gsi.go.jp>

国土地理院 | 明治期の低湿地データ | 原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速図原図 (明治13-19年)

[https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc\\_meiji.html](https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_meiji.html)

国土地理院 | 空中写真閲覧サービス

<https://geolib.gsi.go.jp>

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター | 地質図 Navi

<https://gbank.gsj.jp/geonavi/>

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリ

<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127(10)、2021年、635-648頁

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2021.0019>

木森大我・須貝俊彦「DEM-GIS 解析からみた、氷期の開析地形による制約下での鬼怒川の完新世堆積作用と地形変化」日本地球惑星科学連合2019年大会発表ポスター HQR05-P06 予稿 (PDF)

<https://confit.atlas.jp/guide/event-img/jpgu2019/HQR05-P06/public/pdf?type=in&lang=ja>

栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2013年

栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2021年

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyuu/hozen/2021jibannhoukokusho.html>

野上道男「関東とその周辺地域の地質」『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000年

## 参考・引用文献

篠宮佳樹「樹木医学の基礎講座 土壌講座 2: 保水性と通気性」『樹木医学研究』15 (2)、樹木医学会、2011 年、64-67 頁

### 3 気候

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965 年

五十嵐典夫ほか『益子の歴史』益子町、1983 年

栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997 年

気象庁 | 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

### 4 生物と生態系

Millennium Ecosystem Assessment 編『国連ミレニアムエコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会責任翻訳、オーム社、2007 年

栃木県 | レッドデータとちぎ WEB

<http://tochigi-rdb.jp/>

環境省 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

片山直樹・熊田那央・田和康太「鳥類の生息地としての水田生態系とその保全」『応用生態工学』24 (1)、応用生態工学会、2021 年

### 5 歴史

原宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023 年

小山市教育研究所『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965 年

静岡県立中央図書館 | 和暦西暦対照表 (近世) |

[https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/institution/wareki\\_seireki\\_E.html](https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/institution/wareki_seireki_E.html)

### 6 地形と陸上・河川交通

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986 年

阿部昭、橋本澄朗、千田孝明、大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998 年

『第 123 回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019 年

高橋修、字留野主税『鎌倉街道中道・下道』高志書院、2017 年

奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977 年

奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979 年

### 7 防災・減災

大熊 孝「水害防備林の再興に関する一考察」『土木史研究』17、土木学会、1997 年

### 8 遺跡

末次忠司「縄文遺跡と河川—遺跡で見る河川考古学」『水利科学』43 (1)、一般社団法人日本治山治水協会、1999 年

## 9 農業

『栃木県下都賀郡誌（復刻版）』千秋社、2004年（「下都賀郡小誌」「下都賀郡制誌」を合本収録）

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979年、26-47頁

高木正敏「近世林野入会の成立——七世紀後半期下野国を中心として」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』4、小山市教育委員会市史編さん室、1982年、45-65頁

## 10 民俗

嘉納恵一郎『心のふるさと』小山市、1991年

## 11 信仰・祭礼

小山市史編さん専門委員会編『小山市史民俗編』小山市、1978年

## 12 地名

菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年

## 13 絹地区郷土誌

絹地区わがまちげんき発掘事業推進委員会編『絹地区歳時記ウォーキング』2017年

## 14 結城紬

石島滴水『紬の里結城』筑波書林、1983年

安彦孝次郎「日本経済における生糸恐慌」『商學論集』4(1)、福島高等商業學校經濟研究會、1933年

奥澤武治「世界で稀な絹織物『本場結城紬』」『日本シルク学会誌』29、2021年

「県内唯一の栽培農家廃業... 養蚕存続に桑苗確保へ小山」2022/11/07 下野新聞

<https://www.shimotsuke.co.jp/articles/-/653756?relatedbody>

外務省「無形文化遺産の保護に関する条約」和文テキスト(訳文)、2003年

[https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159\\_5.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/treaty159_5.html)

川崎 敏「結城機業の農村工業地帯」『人文地理』12(5)、1960年

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料  
絹地区

2024年3月

小山市